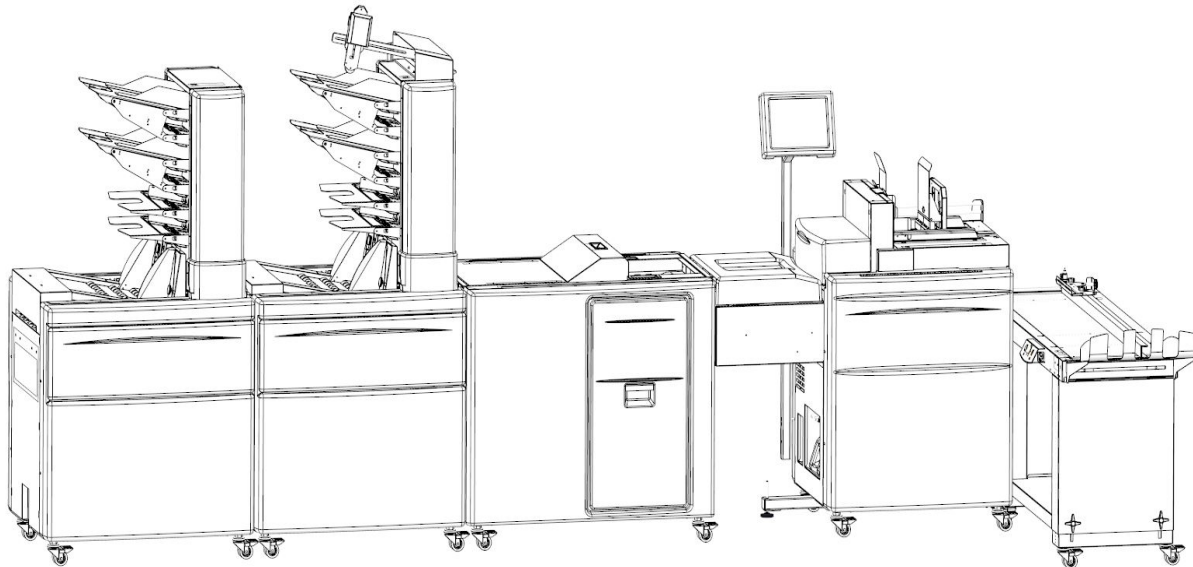


Relay9000

MAIL INSERTING SYSTEM

操作説明



注：
本書では、モジュールを以下のように表記します。

Relay9000	モジュール説明
F9ZA	インサーター
F652	アキュムレーター
F653	メールフィーダー
F654	タワーフィーダー
F655	ブックレットフィーダー
F656	ベルトスタッカー
F657	マルチファンクションフォルダー

Doc no: T10213
120, May 2021
REV C

- 本製品をお使いになる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、いつでも見られるよう大切に保管してください。
- 安全のため、この取扱説明書に記載されていることを守ってください。

このページは意図的に空白になっています。

このページは意図的に空白になっています。

 **警告**

- 電磁適合性：
 - 本製品はクラスA製品です。本製品は、家庭環境において電波障害を引き起こす可能性があり、その場合、ユーザーにおいて適切な措置を講じる必要があります。
 - 本機に接続される製品(システム)はクラスAに分類されます。

 **備考**

- 家庭環境とは、当該機器から10 m以内の距離で放送用ラジオ・テレビ受信機が使用される環境です。

はじめに

本書は、本機の操作とメンテナンスについて説明したものです。本機の性能を最大限に引き出すために、すべてのオペレータは本書をよく読み、その指示に従ってください。この取扱説明書は、本機の近くの手近な場所に保管してください。

本機を使用する前に、必ず「安全に関する情報」をお読みください。使用者の安全および機器のトラブル防止に関連する情報が記載されています。

本取扱説明書の読み方

表記方法

本書では、必要な箇所では下記の警告／注意マークを示しています。

警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害の発生が想定される内容を示しています。

備考

このマークは、以下のことを示す場合に使われます。

- 操作をより簡単にするための備考以下のような、機械の操作に役立つ実用的なヒントや知識
 - 操作前に必要な準備
 - 用紙のミスフィードまたは損傷を防ぐための方法
 - 誤操防止に必要な注意事項や誤操作後の対処方法について
- 数値上の制限、同時利用できない機能、特定の機能が利用できない状況などの制限事項
- 情報

[]

本機の表示パネルに表示されるキーです。

安全に関する情報

本機を使用する際は、必ず次のような安全上の注意事項を守ってください。

操作中の安全事項

⚠ 警告

- 感電や可動・回転・切断などの危険な状態を避けるため、本書で指定されている以外のカバーやガード、ネジは取り外さないでください。
- 次のような場合は、電源を切り、電源プラグを抜いてください(ケーブルではなく、プラグをつかんで抜いてください)。
 - 物を落としたり、機器に何かをこぼしたりしたとき。
 - 機器の点検や修理が必要だと思われる場合。
 - 機器のカバーが破損した場合。
 - 機器を操作しているときに異音や異臭を感じたとき。
 - 電源ケーブルやプラグが摩耗するなどして、破損した場合。
 - クリーニングやお手入れの前(特に指示のない場合)。
- 電磁適合性：
 - 本製品はクラスA製品です。本製品は、家庭環境において電波障害を引き起こす可能性があり、その場合、ユーザーにおいて適切な措置を講じる必要があります。
 - 本機に接続される製品(システム)はクラスAに分類されます。

一般的な安全事項

⚠ 警告

必ず、正しくアースがとられた電源(コンセント)に接続してください。疑わしい場合は、資格のある電気技師に電源の点検を依頼してください。

- アースが適切に取られていない場合、感電する恐れがあります。アース接続端子のない電源には、絶対に接続しないでください。本機を本来の目的以外に使用しないでください。本来の目的の範囲を超える使用は、規定外とみなされます。規定外の用途で本製品を使用したことにより生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねますのでご了承ください。リスクはユーザー自身が負うことになります。
- 本機に変更を加えたり改造しないでください。お客様ご自身で本機を改造され、それによって生じた損害については、メーカーは責任を負いかねますのでご了承ください。本機や個々の部品に変更を加えた場合、EC適合性宣言およびCEマークは無効となります。
- 電氣的または機械的なインターロック装置を無効にしたり、バイパスしたりしないでください。
- 本機は、操作方法の指導を受け、許可された人のみ使用してください。安全面において不明確な点がないように、機械の操作に関する責任を厳格に定め、遵守してください。
- 通気孔は、機械の過熱を防ぐために空気を循環させる役割を果たします。通気口が塞がれないように注意してください。
- 上下のトリマーナイフの間など、動いたり、回転したり、切断したりする装置に指や体の一部が触れないようにしてください。
- 本機は必ず、十分な強度を持ち、本機の重量に耐えられる固い平らな床の上に設置してください。

一般的な安全事項、続き

注意

- 本機および周辺機器の設置やメンテナンスは、それらの機種に関するトレーニングコースを修了したカスタマーサービス担当者が行う必要があります。
- 機器に表示されている、または機器に付属しているすべての警告に必ず従ってください。
- 電源プラグをコンセントから抜くときは、必ずケーブルではなくプラグ部分をもって引き抜いてください。
- 本機を移動する前に、電源コードを抜いてください。本機を移動させるときは、電源コードが本機の下で損傷しないように、常に注意してください。
- 機器を移動する場合は、必ずサービスにご連絡ください。
- 機器の稼働中は本機を動かさないでください。
- 機器の稼働中はカバーを開けないでください。
- 機器の稼働中に電源を切らないでください。機器の動作が終了していることを確認してください。
- 電源コードは、つまずかないように人の導線を避けて配線してください。コードの上に物を置かないでください。
- この文書に明記されていないメンテナンスは、絶対に行わないでください。
- 磁石や強い磁気を帯びた機器は、必ず機械から遠ざけてください。
- 設置場所が冷暖房完備の場合は、以下のような場所に機械を置かないでください。
 - 急激な温度変化にさらされる。
 - エアコンの冷風を直接浴びる。
 - ヒーターの熱を直接受ける。
- 長期間使用しない場合は、過負荷による破損を防ぐため、コンセントを抜いてください。

備考

- 前後、左右などの表記は、用紙の搬送方向を表しています。
- 本取扱説明書は、本機を使用する場所でいつでも利用できる状態にしておいてください。
- 技術開発のため、予告なく仕様を変更することがあります。

このページは意図的に空白になっています。

目次

この機械でできること	15
コンポーネントガイド	17
インサーター	17
メールフィーダー	20
タワーフィーダー	21
ブックレットフィーダー	23
フォルダー	24
ユーザーインターフェース	26
稼働時	26
停止時	26

1. 基本事項

電源のオン/オフ	27
メールフィーダー、インサーター、フォルダー	27
封かん水の充填・補充・排水	28
封かん水ボトル	28
封かん水の充填・補充	28
封かん水の排水	29
用紙 / 冊子 / 封筒の積載	30
タワーフィーダーへの用紙の積載	30
一般事項	30
スキャナーの位置調整	31
一般事項	31
スキャナブラケットを傾ける	32
ブックレットフィーダーへの冊子の積載	33
インサーターへの封筒の積載	34
封入物の容量	35
ログイン	36

2. 操作方法

フィードオプション	37
マニュアルフィード（手差しフィード）	37
自動開始またはトリガースタートのマニュアルフィード	37
メールフィーダー（およびフォルダー）とマニュアルフィードの組み合わせ	38
メールフィーダー	39
タワーフィーダー	39
ブックレットフィーダー	40
アキュムレーター	40
カウンター	41
カウンター / トータルカウンター	41
プリセットカウンター	41
ヒントとコツ	42
一般事項	42
ブックレットフィーダーからの冊子の送り込み	43
小冊子の送り込み	43
折られた用紙の送り込み	44
返信用封筒の送り出し	44
単票の送り込み	44
窓付き封筒の使用	44
封かんの問題	45
角が破損した封筒	45
封入時の動作が遅い	45

3.ジョブ

ジョブの操作.....	47
新しいジョブの設定.....	48
ジョブの呼び戻し.....	49
ジョブの保存、削除、名前の変更.....	50
ジョブの保存.....	50
ジョブの削除.....	51
ジョブの名前変更.....	51

4.設定

一般的な手順.....	53
インサーターの設定.....	54
封筒のサイズとフラップタイプの設定.....	54
速度の調整.....	54
封緘水量の調整.....	55
フットペダル機能のオン/オフの選択.....	56
詳細設定.....	56
封入オフセット.....	56
封入オフセット.....	57
停止位置.....	57
フラップの破れ.....	58
封緘ディレイ.....	58
メールフィーダーの設定.....	59
レイヤー.....	59
メールフィーダーの設定の例.....	60
新レイヤーの追加.....	64
レイヤーの編集.....	64
レイヤーの削除.....	64
新レイヤーの設定.....	65
フィーダーの選択.....	65
用紙のサイズと方向の設定.....	66
数量の設定.....	66
選択フィード.....	67
折る/折らないの選択.....	67
まとめ折りメニューの選択.....	68
単独フィードのオン/オフの選択.....	68
詳細設定.....	69
オーバーラップ.....	69
DSD(重送検知).....	70
用紙無し時の停止または一時停止.....	71
ブックレット用紙無しセンサー.....	71
ブックレットハンドフィード.....	72
OMR/バーコード/用紙フィーダーエラー管理.....	72
マルチファンクションフォルダーの設定.....	73
折りタイプ.....	73
シートの位置決め.....	74
折り長さの調整.....	75
詳細設定.....	76
OMR.....	77
安全機能.....	77
イグノア(IGN).....	77
パリティ偶数(PARe).....	77
パリティ奇数(PARo).....	77
ラップアラウンドシーケンス(WAS).....	77

常時無し(0) (ALW0).....	78
常時あり(1) (ALW1).....	78
セット内照合(SI).....	78
セット内シーケンス(SSQ).....	78
機器制御機能.....	79
開始ページ(BOC).....	79
終了ページ(EOC).....	79
選択フィード1~7(SF1~7).....	79
ハンドフィード最後(HFI).....	79
ハンドフィード最初(HFf).....	79
ダイバートフィニッシュ(DVF).....	80
ダイバートデッキ(DVD).....	80
ストップ(ST).....	80
OMR プロファイルの作成.....	81
OMRマーク読み取り方向の定義.....	81
OMRマーク数の設定.....	82
OMRマークの定義.....	83
OMRコード方向の設定.....	84
WASおよび/またはSSQカウンター.....	84
OMRプロファイルの保存.....	85
OMR プロファイルの使用.....	86
電源オフ/電源オン後のOMR.....	88
BCR.....	89
安全機能.....	89
イグノア(IGN).....	89
ラップアラウンドシーケンス(WAS).....	89
セット内シーケンス(SSQ).....	89
機器制御機能.....	90
開始ページ(BOC).....	90
終了ページ(EOC).....	90
選択フィード1~7(SF1~7).....	90
ハンドフィード最後(HFI).....	90
ハンドフィード最初(HFf).....	90
ダイバートフィニッシュ(DVF).....	91
ダイバートデッキ(DVD).....	91
ストップ(ST).....	91
ページ番号(PN).....	91
ページカウント(PC).....	91
ジョブID(JID)(BCR 2Dのみ).....	92
セット内照合(SI).....	92
顧客ID(CID)(BCR 2Dのみ).....	92
バーコードプロファイルの作成.....	93
BCRマーク数設定.....	94
BCRの解釈の定義.....	94
WASおよび/またはSSQカウンター.....	96
BCRプロファイルの保存.....	97
BCR プロファイルの使用.....	98
電源オフ/電源オン後のBCR.....	100

5.管理

管理画面.....	101
サイズ規格.....	101
カスタム封筒.....	102
カスタム封筒の作成.....	102
カスタム封筒の削除.....	103
カスタム用紙.....	104
カスタム用紙の作成.....	104
カスタム用紙の削除.....	105
封緘機構の清掃.....	106
封緘機構からの排水.....	106
ソフトウェアバージョン.....	107
言語.....	107
コマンドウィンドウ.....	108

6.ジャムの解決

インサーター.....	109
メールフィーダー.....	110
フォルダー.....	111

7.トラブルシューティング

一般事項.....	113
表示されるメッセージ.....	113
警告.....	114
封筒搬送の問題.....	115
封筒搬送の問題、続き.....	116
封筒フィーダー設定詳細.....	117
封筒フィーダー設定詳細、続き.....	118
封筒フィーダー設定詳細、続き.....	119
封筒フィーダー設定詳細、続き.....	120
エラーコード.....	121
インサーターのエラーコード.....	121
メールフィーダーのエラーコード.....	124
フォルダーのエラーコード.....	126
フォルダーのエラーコード、続き.....	127
OMR/BCRのエラーコード.....	128
一般的な手順.....	128
エラーコード.....	129

8.一般情報

必須事項と禁止事項.....	131
本機の設置.....	132
設置環境.....	132
電源接続.....	132
設置場所.....	133
機械のメンテナンス.....	134
インサーター.....	134

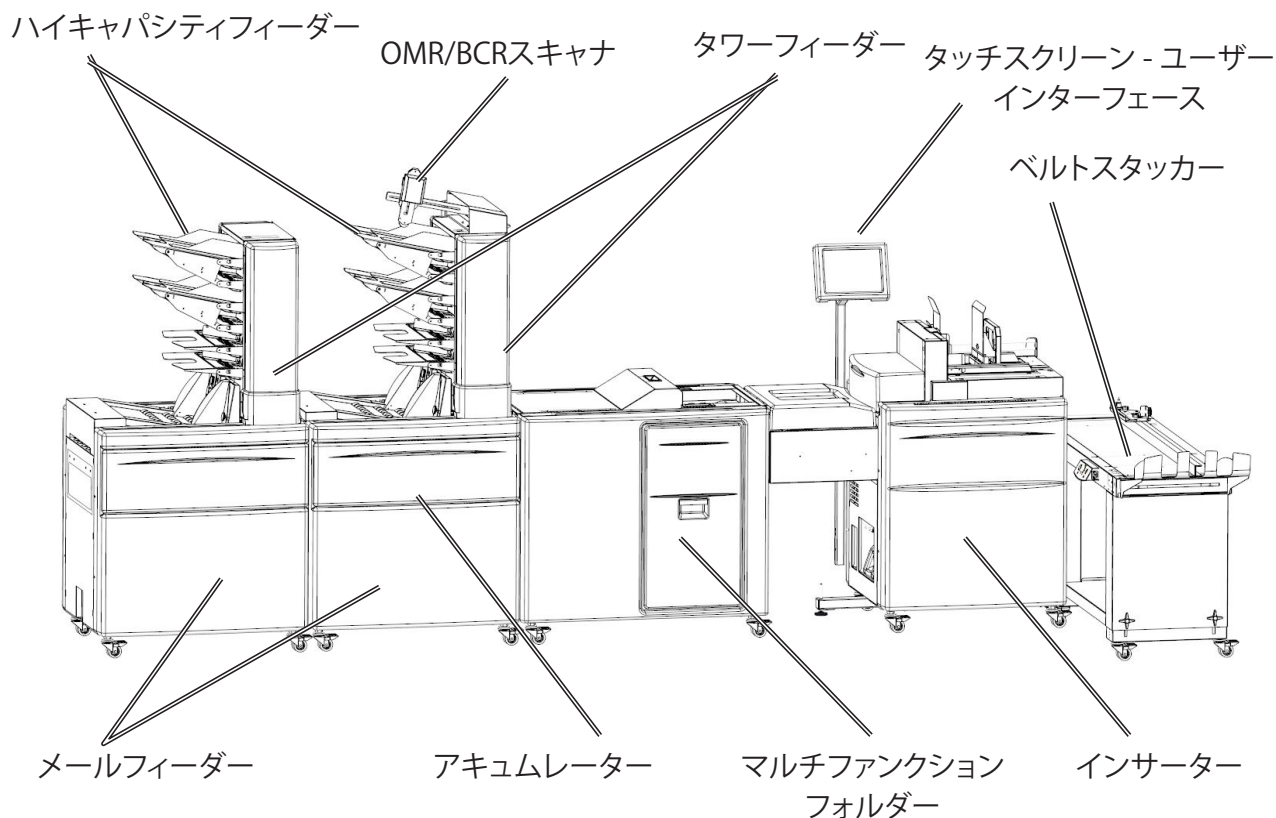
用紙経路の清掃.....	135
封緘機構の清掃.....	136
封緘システムの清掃.....	137
封緘機構からの排水.....	137
水フィルターの取り外し・交換.....	138
メールフィーダー.....	140
フィードローラーのクリーニング.....	141
セパレーターパッドの清掃.....	142
搬送ベルトの清掃.....	143
フォルダー.....	144
用紙搬送ベルトの清掃.....	145
折りローラーの清掃.....	146

9.仕様

機械仕様.....	147
インサーター.....	147
封筒の詳細仕様.....	148
速度のガイドライン.....	156
封入物の容量.....	157
メールフィーダー.....	158
OMR/BCRリーダー.....	159
タワーフィーダー.....	162
ブックレットフィーダー.....	163
アキュムレーター.....	163
マルチファンクションフォルダー.....	164

このページは意図的に空白になっています。

この機械でできること



本システムはインサーター、マルチファンクションフォルダー、メールフィーダーで構成されます。インサーターは、このシステムの封入・封かんユニットです。マルチファンクションフォルダーは、1～10枚の二つ折、C折、Z折、四つ折りが可能な多機能紙折り機です。メールフィーダーはシステムのフィードユニットで、最大7つの帳票インプットに対応します。

メールフィーダーには、以下のモジュールのうち少なくとも1つが搭載されています。タワーフィーダー、ブックレットフィーダー、アキュムレーター。アキュムレーターモジュールは、外部フィードソースから封入材料を受け取り、タワーフィーダーとブックレットフィーダーからの材料と組み合わせます。アキュムレーターを使用することによって、システムを二次メールフィーダーとともに使用することが可能になります。現在販売されている構成については、販売担当者にお問い合わせください。

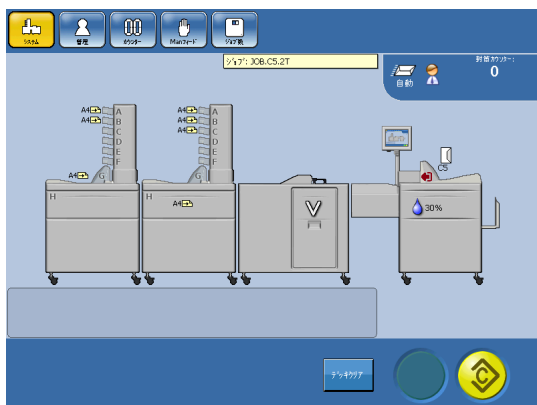
厚さ8 mm(1/3")までの冊子や、厚さ12 mm(1/2")までの封筒に対応します。

システムは、設定や調整を視覚的に容易に行えるタッチスクリーンユーザーインターフェースを標準装備しています。

OMR - 光学的マーク認識とBCR - バーコード認識の両方に対応可能です(オプション)。このシステムのコード解釈機能は、あらゆるコードに対応できるようにフレキシブルにプログラム可能で、各セットの個別処理と給紙された各シートの完全性を保証しています。

注：
本書では、モジュールを以下のように表記します。

インサーターに搭載されたディスプレイから制御します。ディスプレイはタッチスクリーンタイプで、システム全体の設定、調整、操作を簡単に行うことができます。



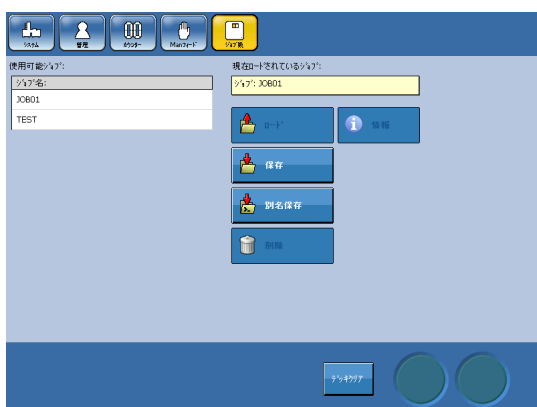
特定の機能を表示または実行するには、スクリーン上のボタンまたは機器や設定を示す箇所をタッチしてください。

この画面で、ジョブボタンを押すと、ジョブ画面が表示されます。インサーターのイラスト部分をタッチすると、インサーター画面になります。

画面下に黄色いボタンがあります。これは[テスト]ボタンです。テストを行う場合は、このボタンを押してください。テストにて出来上がった封入物でシステムが希望どおりに設定されたかどうかを確認できます。

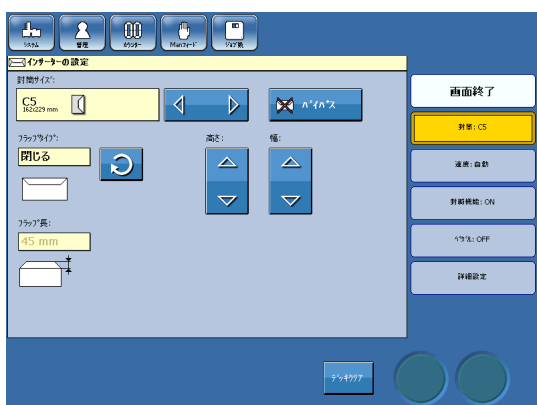
テスト完了後に、緑色の[スタート]ボタンが利用可能になります。

システムが稼働しているときは、赤い[ストップ]ボタンが利用できます。



この例では、ジョブ画面を表示しています。ここでは、ジョブの読み込み、保存、削除ができます。

利用できない機能はグレイアウトしています。この例では、[保存]と[別名保存]ボタンのみ押すことができます。



この例では、インサーター画面を表示しています。ここから、インサーターの設定を行います。封筒の種類、フラップの種類などを選択します。

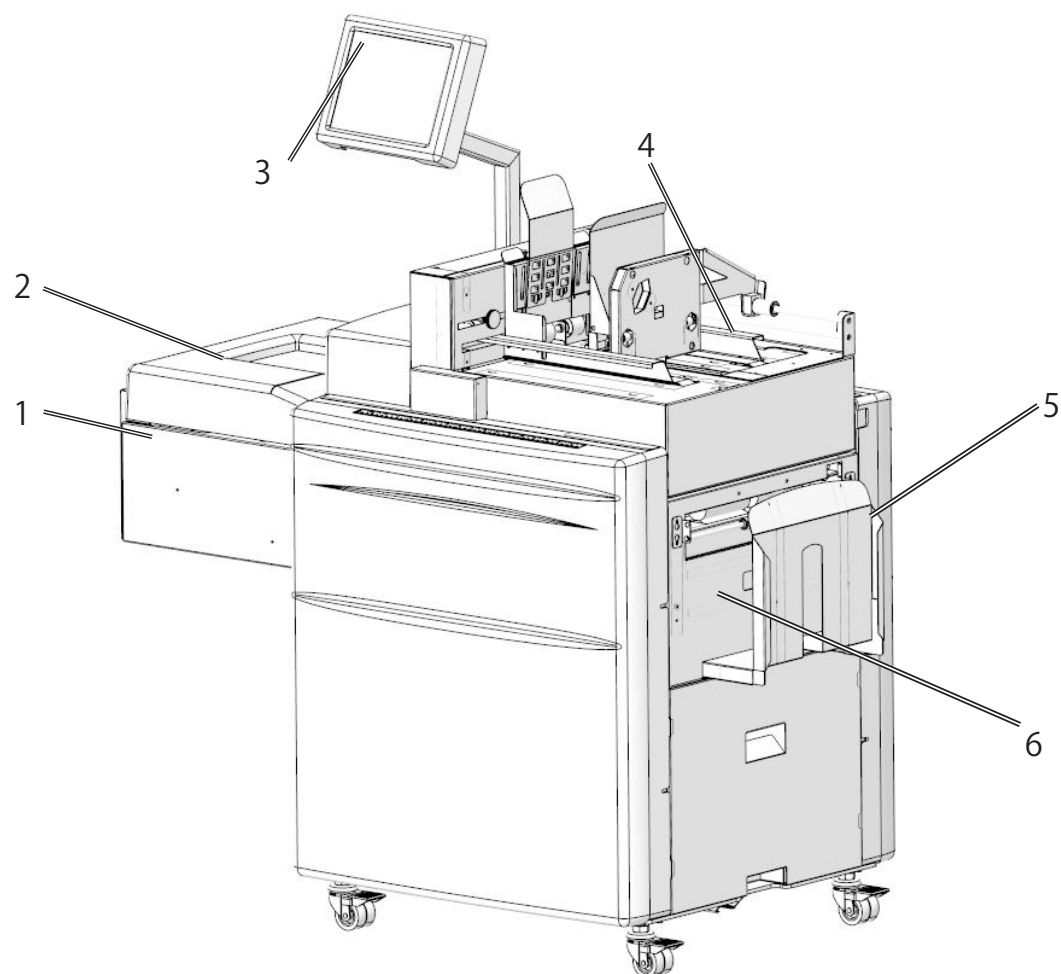
矢印ボタンには2種類あります。

尖った矢印ボタンは、リストの初めから終わりまでの複数の異なる設定から選択できることを示します。

ループ矢印ボタンは、フラップタイプ(オープンまたはクローズ)を選択できる場合に使用します。

コンポーネントガイド

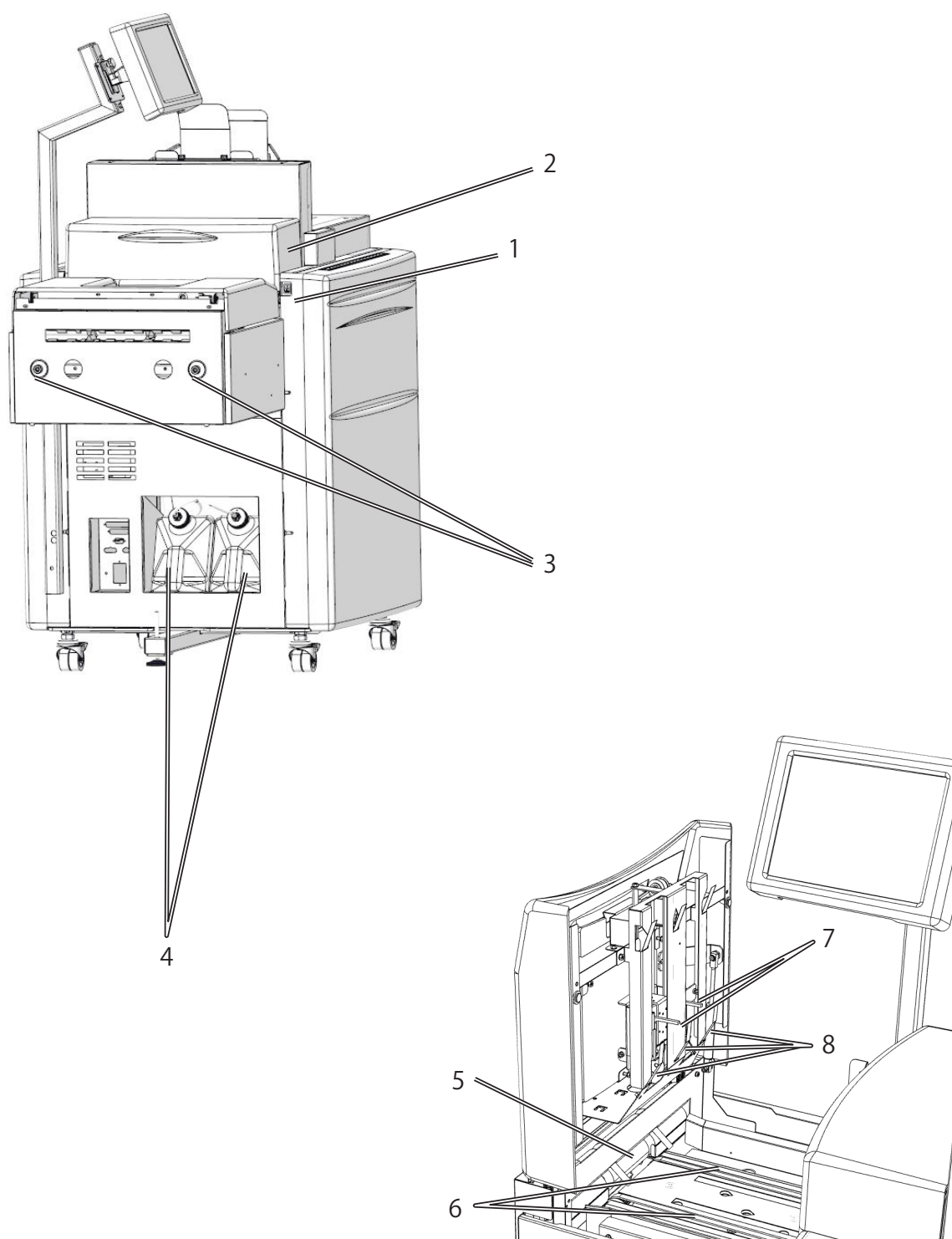
インサーター



- | | | | |
|---|------------------------|---|----------|
| 1 | インフィードデッキ | 4 | 封筒フィーダー |
| 2 | インフィードデッキカバー | 5 | スタックートレイ |
| 3 | コントロールパネル/ユーザーインターフェース | 6 | 封かんモジュール |

次ページに続く

インサーター、続き

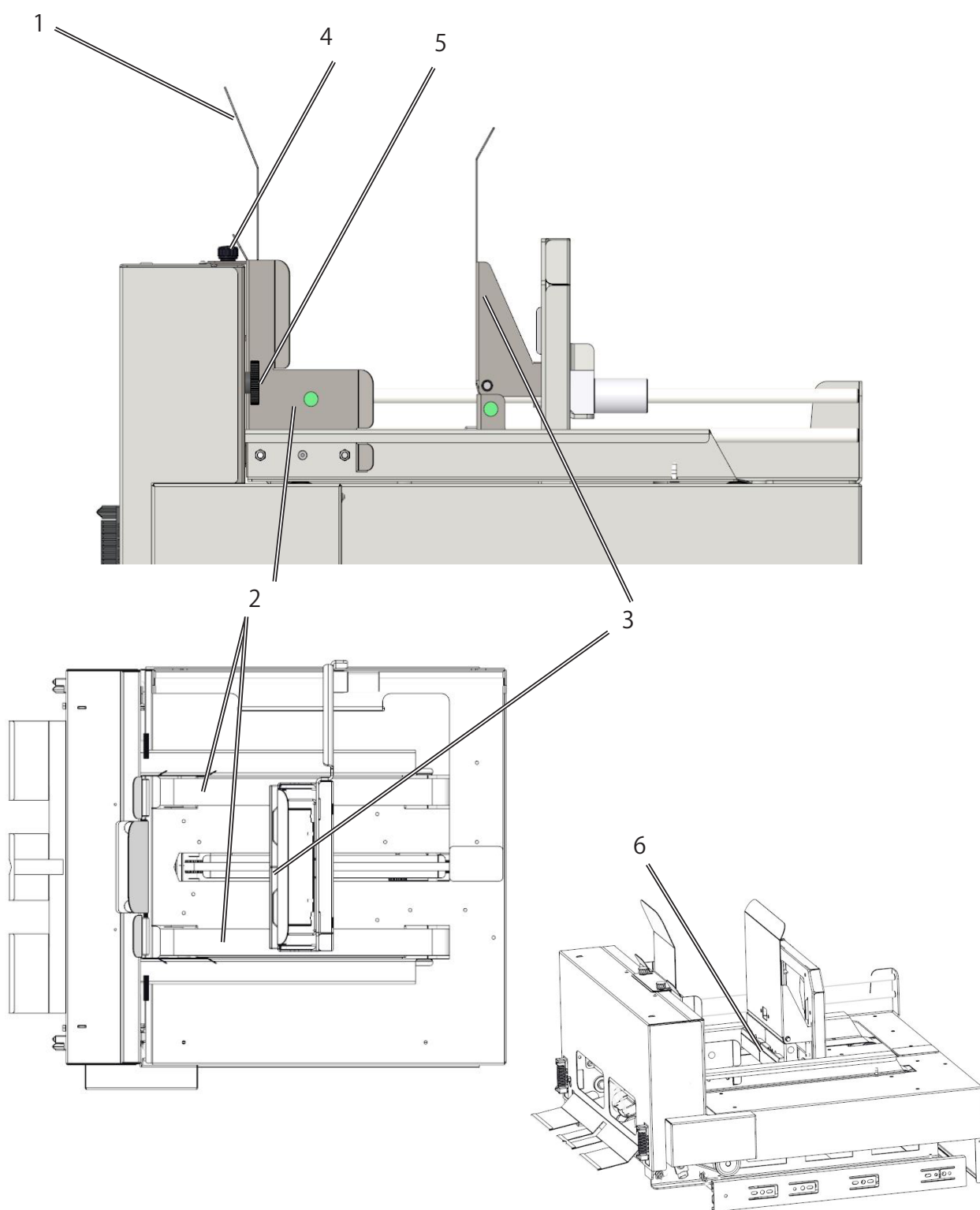


- 1 電源スイッチ
- 2 トップカバー
- 3 連結ブラケット
- 4 封かん水ボトル

- 5 インフィードローラー
- 6 インフィードベルト
- 7 インフィードストッパー
- 8 ガイドトング

次ページに続く

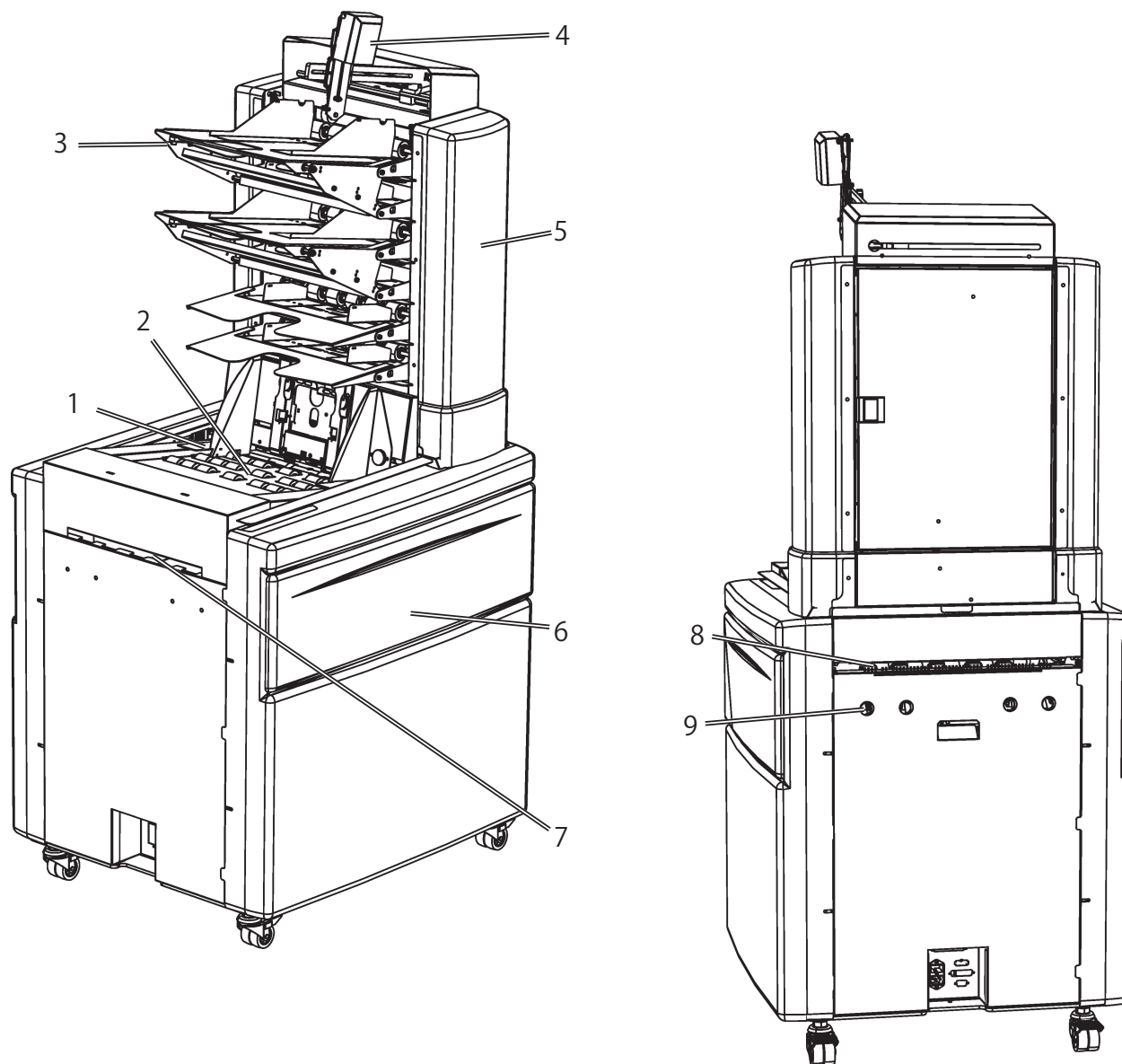
インサーター、続き



- 1 封筒フィーダーフロントウォール
- 2 封筒フィーダーサイドガイド
- 3 封筒フィーダーバックウォール

- 4 フロントウォール調整ネジ (x2)
- 5 サイドガイド調整ネジ (x2)
- 6 バックウォールスペーサー (x2)

メールフィーダー

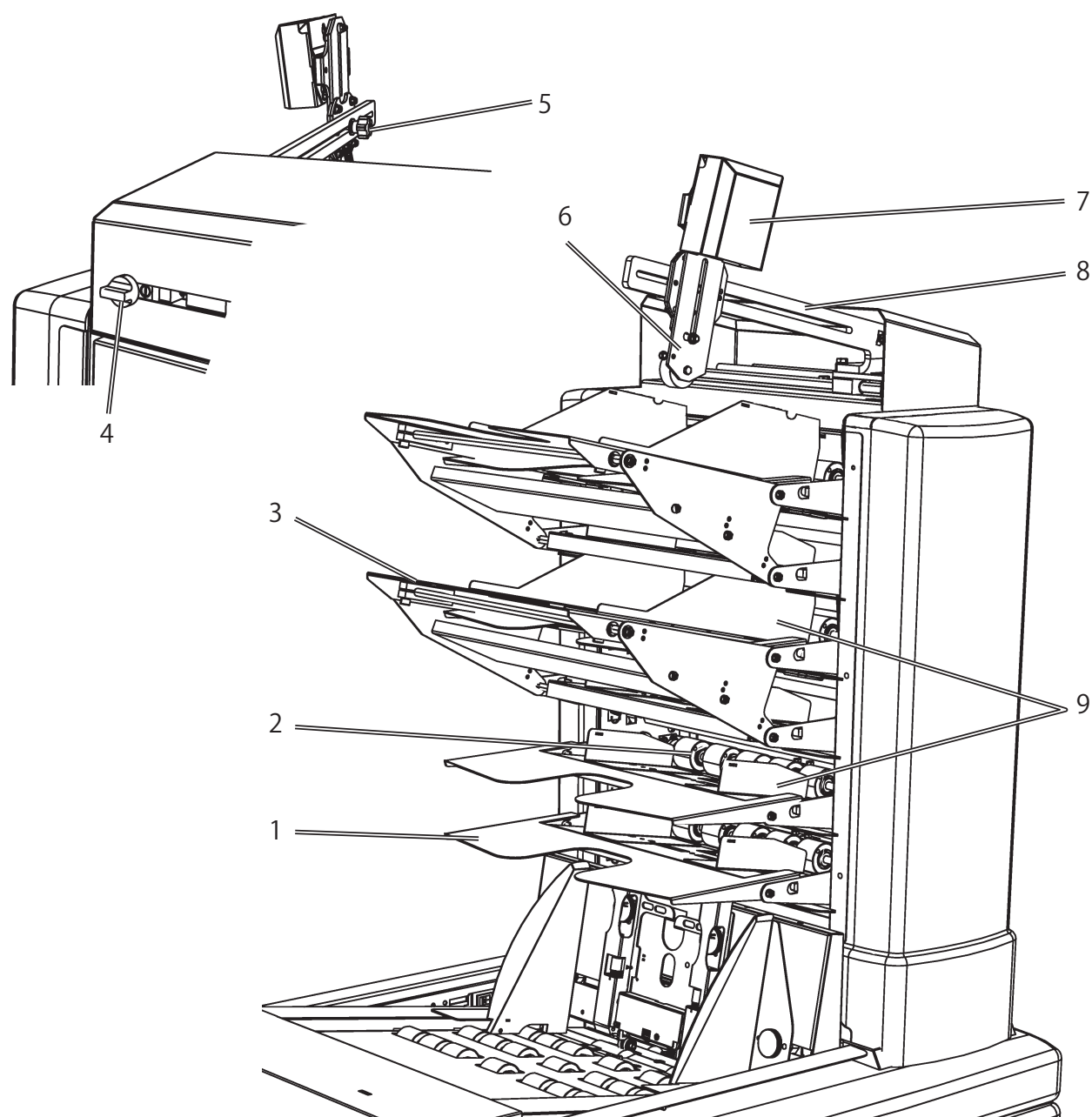


備考

方向表示は、用紙の搬送方向です。

- | | | | |
|---|-----------------------|---|----------|
| 1 | 電源スイッチ | 6 | アクセスドア |
| 2 | ブックレットフィーダーモジュール | 7 | アキュムレーター |
| 3 | ハイキャパシティフィーダー (オプション) | 8 | 排出スロット |
| 4 | スキャナ (オプション) | 9 | 連結部 |
| 5 | タワーフィーダモジュール | | |

タワーフィーダー



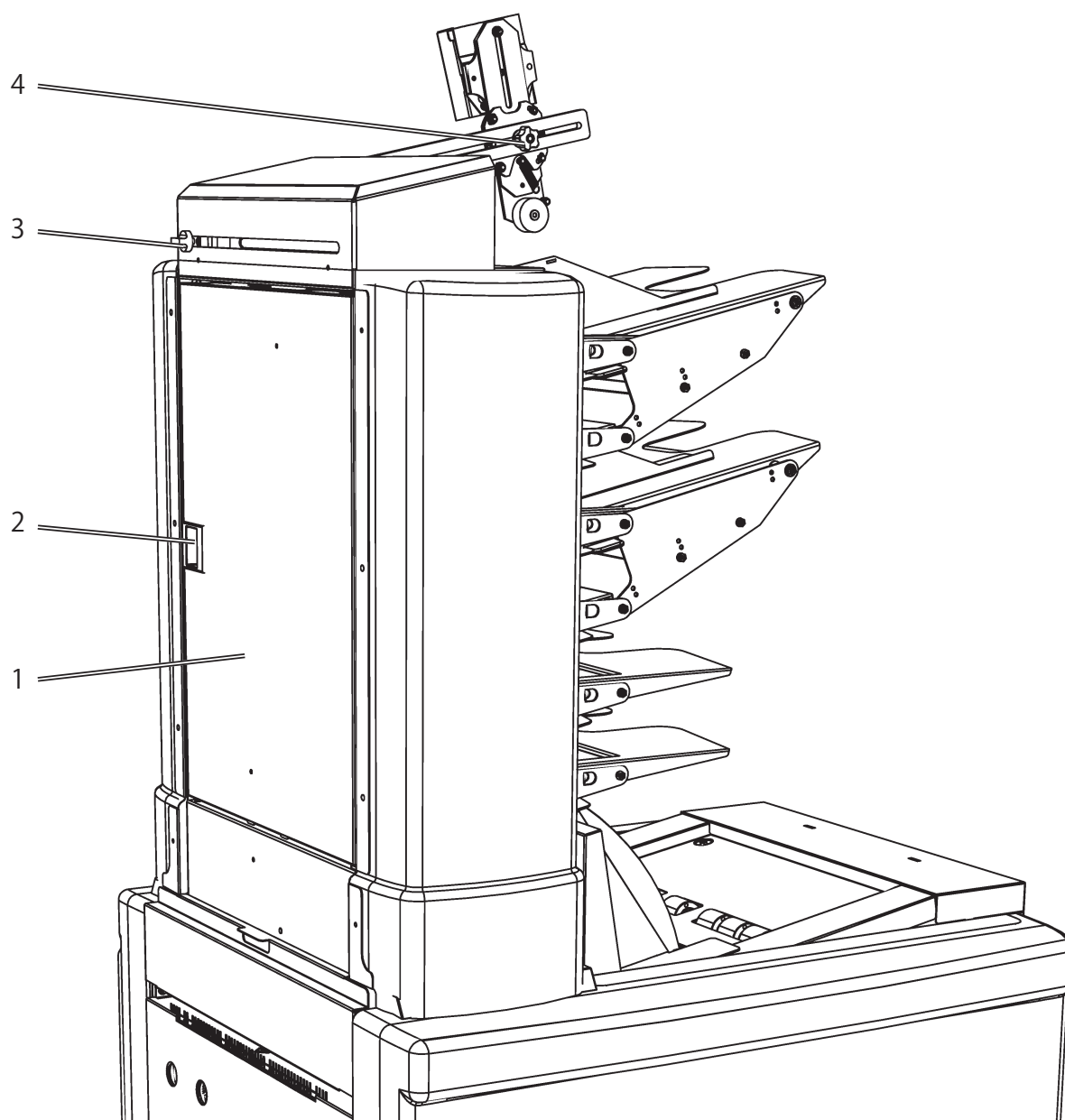
- | | | | |
|---|-------------------|---|-----------|
| 1 | フィーダーエクステンションプレート | 6 | スキャナブラケット |
| 2 | フィードローラー | 7 | スキャナ |
| 3 | ハイキャパシティフィーダー | 8 | スキャナアーム |
| 4 | スキャナアームロック固定ネジ | 9 | サイドガイド |
| 5 | スキャナブラケット固定ネジ | | |

備考

スキャナ、ハイキャパシティフィーダー、取り付け用アクセサリはオプションです。スキャナーは、第一メールフィーダーに設置されています。

次ページに続く

タワーフィーダー、続き

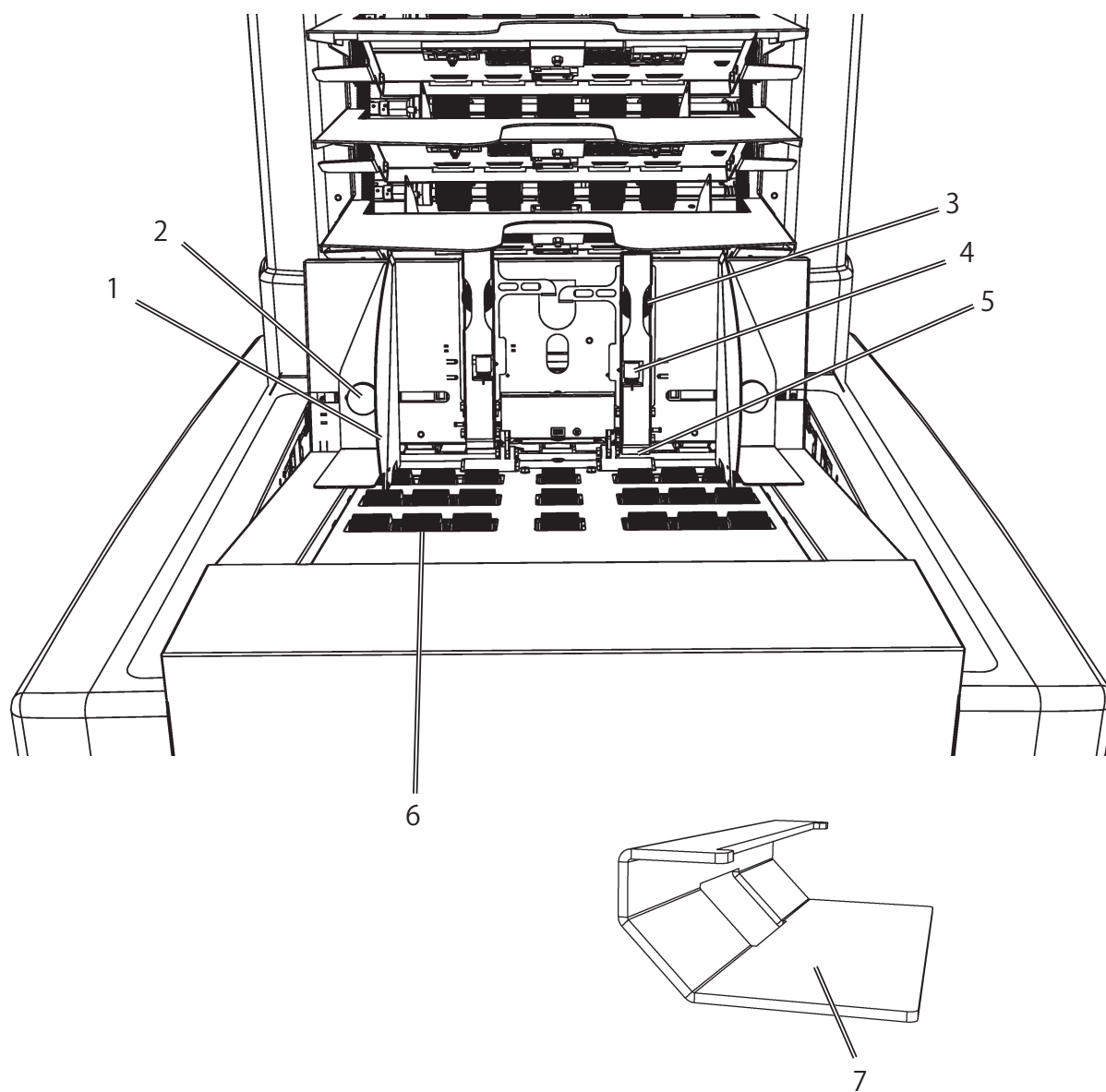


- 1 タワーフィーダードア
- 2 タワーフィーダードアロック
- 3 スキャナアームリリースノブ
- 4 スキャナブラケット リリースノブ

備考

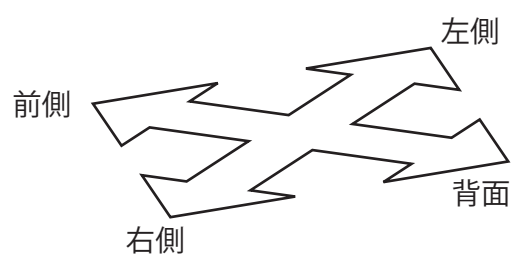
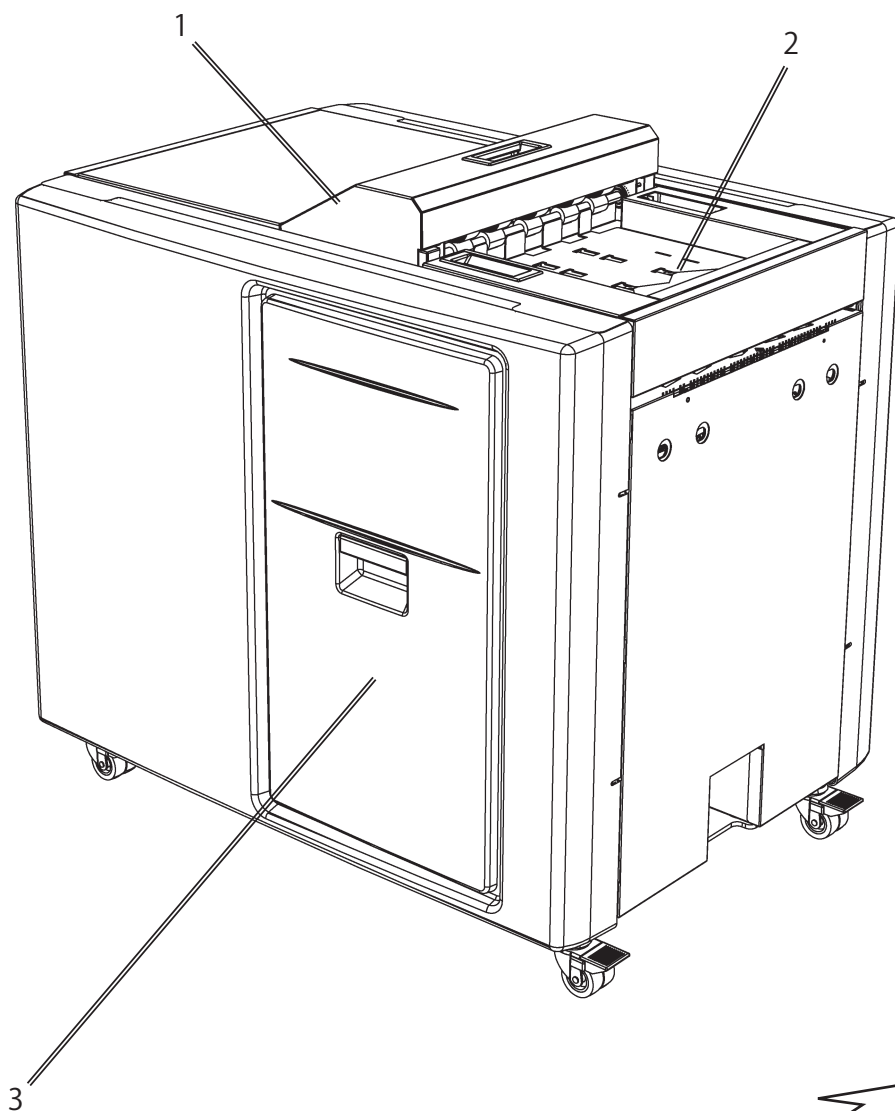
スキャナ、ハイキャパシティフィーダー、取り付け用アクセサリはオプションです。スキャナーは、第一メールフィーダーに設置されています。

ブックレットフィーダー



- | | | | |
|---|---------------------|---|-----------------|
| 1 | ブックレットサイドガイド | 5 | ブックレットセパレーターパッド |
| 2 | ブックレットサイドガイド固定用ノブ | 6 | ブックレットフィードローラー |
| 3 | ブックレットセパレーターパッド調整ノブ | 7 | ウェイト |
| 4 | セパレーター微調整ネジ | | |

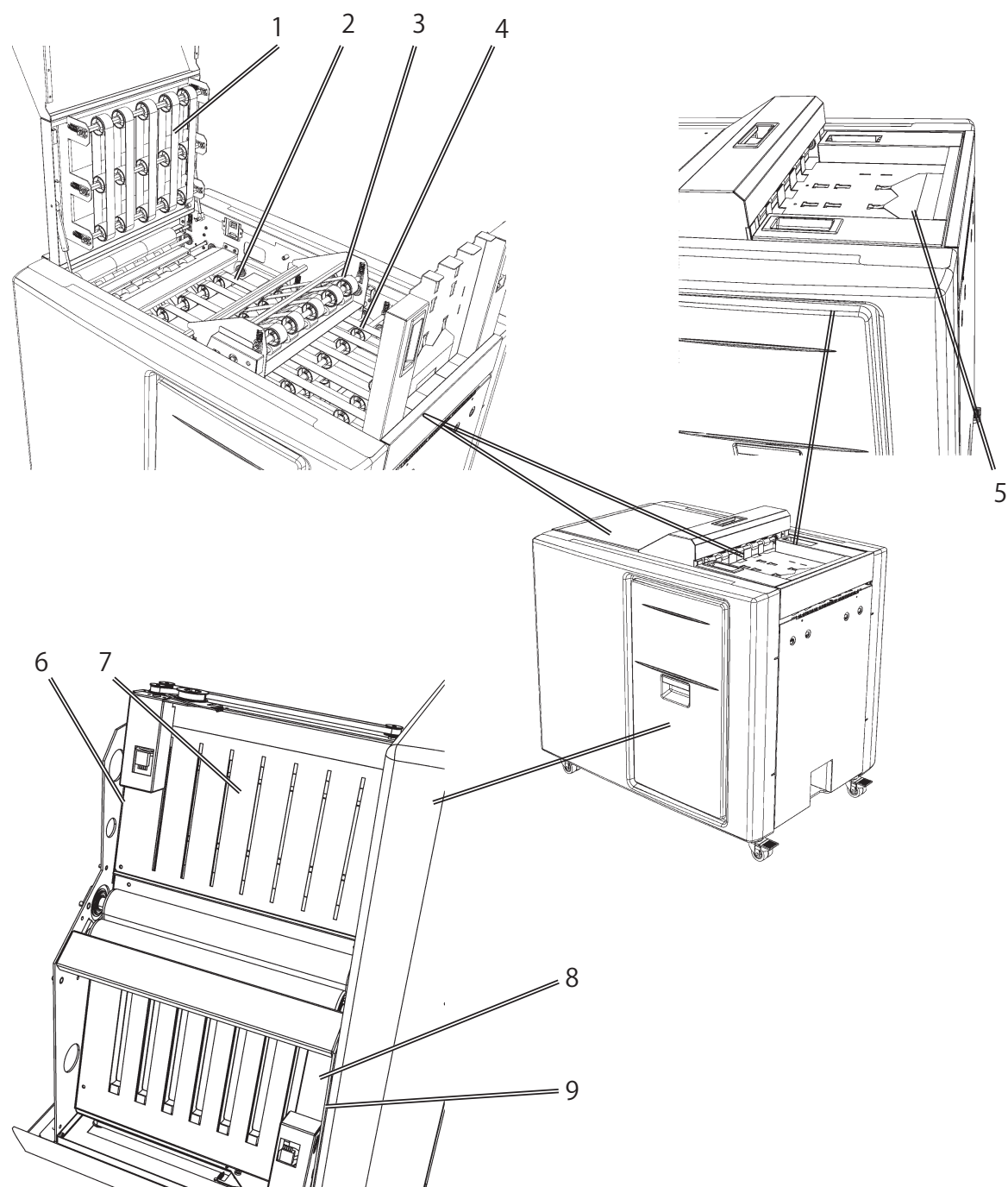
フォルダー



- 1 トップカバー
- 2 排出トレイ
- 3 紙折りユニットカバー

 **備考**
方向表示は、用紙の搬送方向です。

フォルダー、続き



- 1 上部搬送ベルト
- 2 下部搬送ベルト
- 3 排出用紙搬送ベルト
- 4 バイパス用紙搬送ベルト
- 5 排出トレイガイド

- 6 第2折りポケットコネクター
- 7 第2折りポケット
- 8 第3折りポケット
- 9 第3折りポケットコネクター

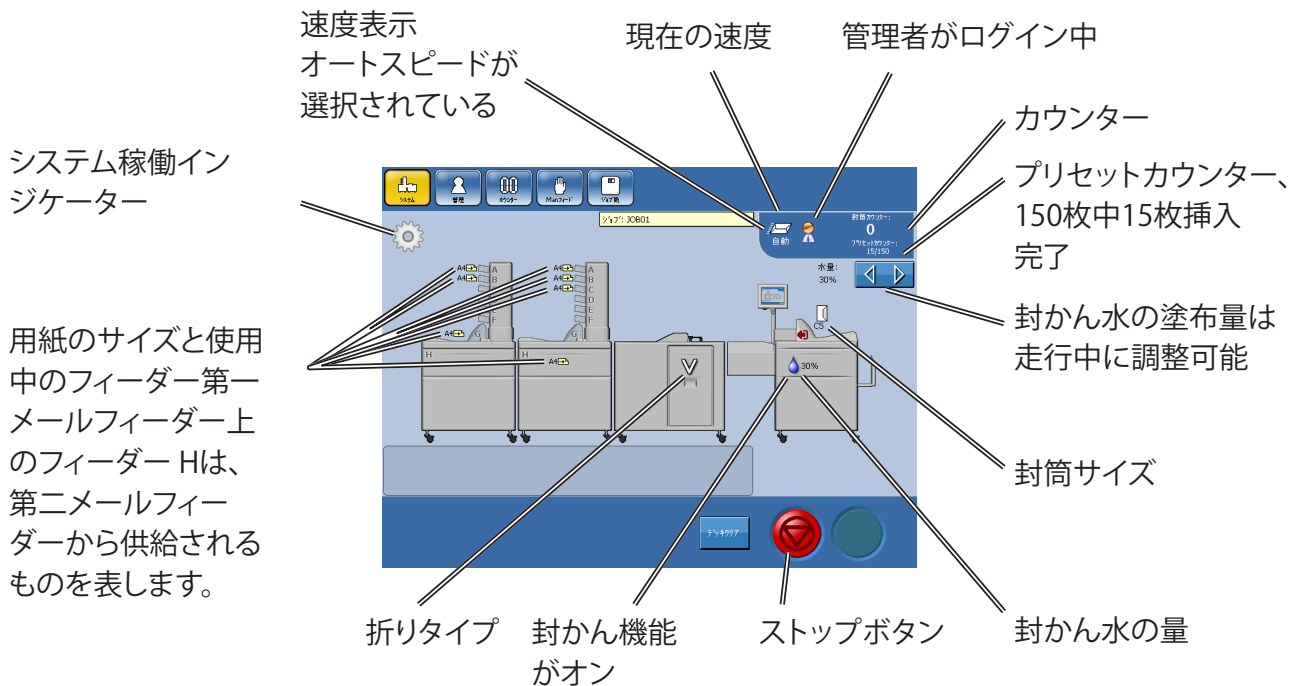
備考

第1折りポケットと第3折りポケットの後ろにあるコネクターは、写真では見えませんが、第2、第3折りポケットと同様です。

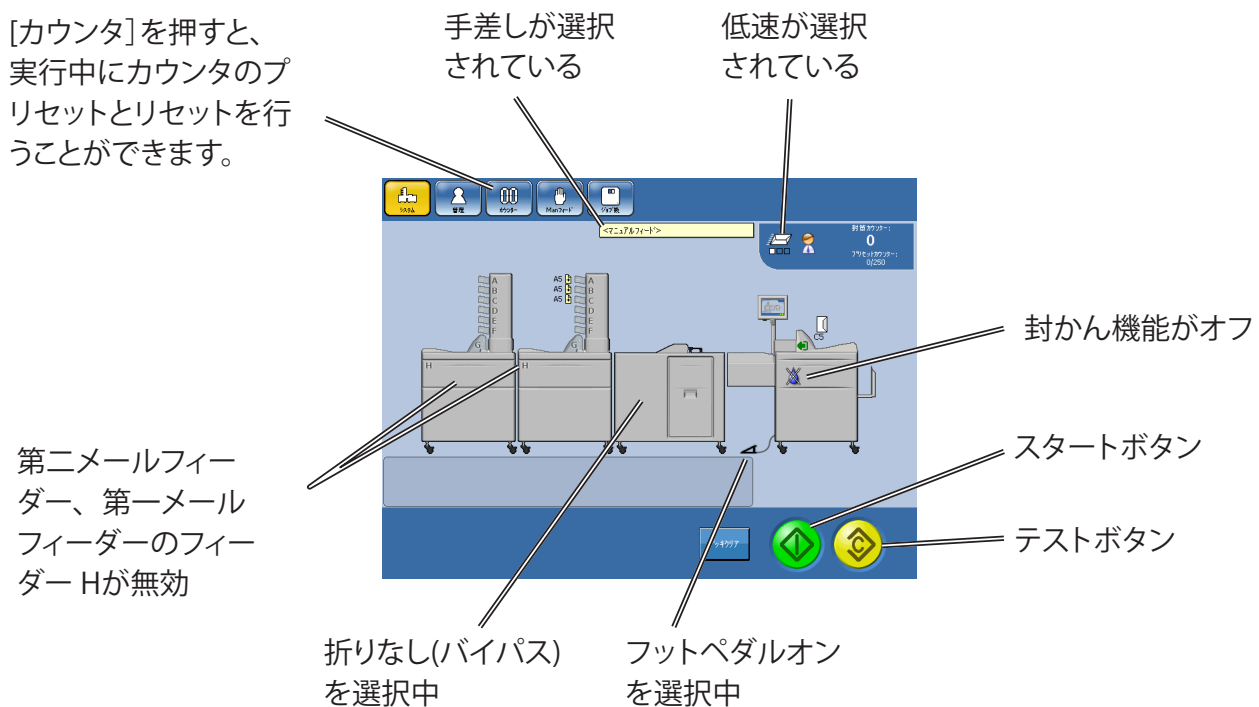
ユーザーインターフェース

ランメニュー画面は、封入処理の進行中に表示されます。記号と情報の説明は以下の通りです。詳しくは「4 設定」をご覧ください。

稼働時



停止時

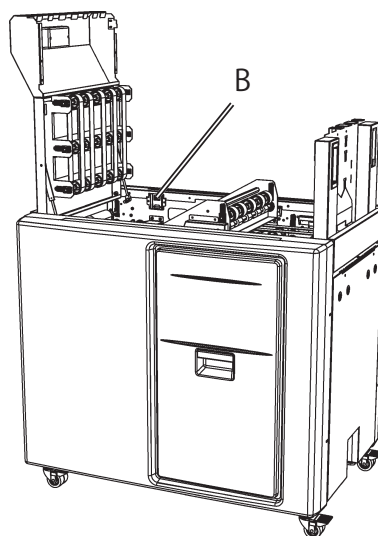
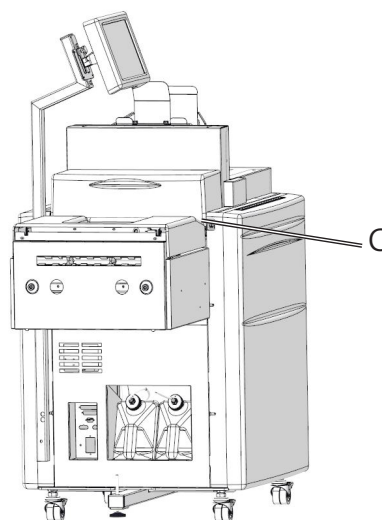
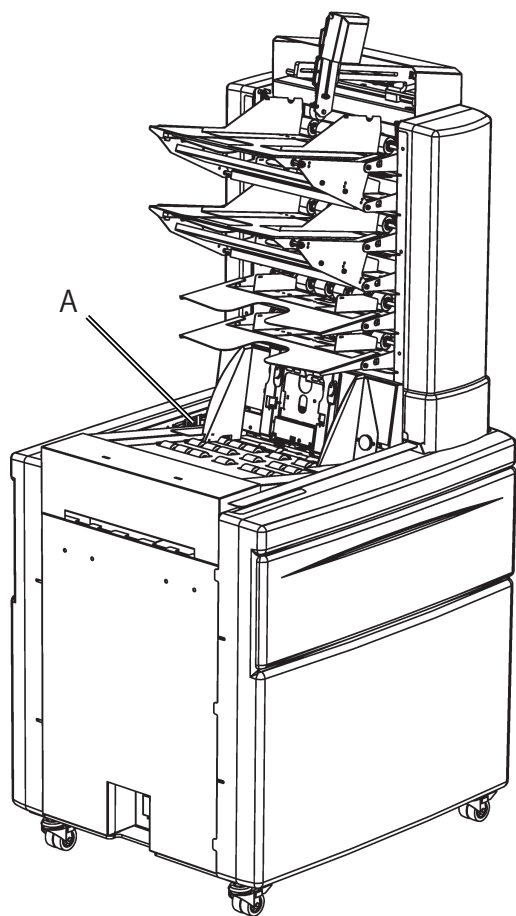


1. 基本事項

電源のオン／オフ

メールフィーダー、インサーター、フォルダー

- 1 電源コードをコンセントに差し込みます。
- 2 メールフィーダーの電源スイッチ (A) を ON にします。
- 3 フォルダーの電源スイッチ (B) を ON にする。
- 4 インサーターの電源スイッチ (C) を ON にします。



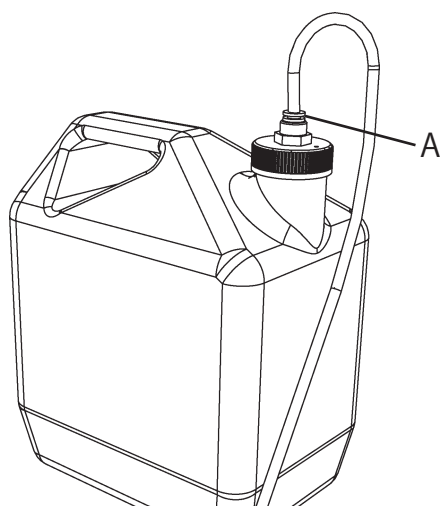
備考

システムの電源を切り、再度電源を入れたときも、すべての設定が保持されており、そのままジョブを開始することができます。OMR/BCRの読み取りを含むジョブを実行していた場合、設定は維持されますが、OMRスキャナの電源を再度オンにする必要があります。詳しくは「4 設定」の電源オフ/オン後のOMRまたは電源オフ/オン後のBCRを参照してください。

封かん水の充填・補充・排水

封かん水ボトル

システムは2つの封かん水ボトルを備えており、1つは供給用(緑のマーク)、もう1つは排水用(赤のマーク)です。




取り外し：
ボトルを持ち上げて取り出し、コルクを回して外します。

取り付け：
コルクを元の位置へ回して取り付け、ボトルを持ち上げて所定の場所におさめます。

備考
リング(A)を押し下げると、チューブを取り外すことができます。

封かん水の充填・補充

初めてシステムを稼動する場合、または本機に「液の補充」と表示された場合は、供給用のボトルに封かん水を入れてください。



1 供給用のボトルに封かん水を充填します。

2 メインスクリーンで、まず[管理] ボタンを、次に[封緘機構の清掃] ボタンを押します。

備考
清掃プログラムを実行する前に、排水ボトルが満杯でないことを確認してください。清掃により最大20cl (7 fl oz) の封緘水が排出されます。

[はい] ボタンを押して、封緘機構の清掃を行うことを確定します。

3 清掃プロセスが完了する(メッセージが消える)までお待ちください。

4 排水ボトルを取り外し、空にします。

封かん水の排水

インサーターを移動するときなど、封かん水を抜く必要がある場合は、以下の手順で行ってください。



- 1 メインスクリーンで、まず[管理] ボタンを、次に[封緘機構の清掃] ボタンを押します。

備考

清掃プログラムを実行する前に、排水ボトルが満杯でないことを確認してください。清掃により最大20cl (7fl oz) の封緘水が排出されます。

- 2 [はい] ボタンを押して、封緘機構の清掃を行うことを確定します。

清掃プロセスが完了する(メッセージが消える)までお待ちください。

- 3 両方のボトルを取り外し、空にします。



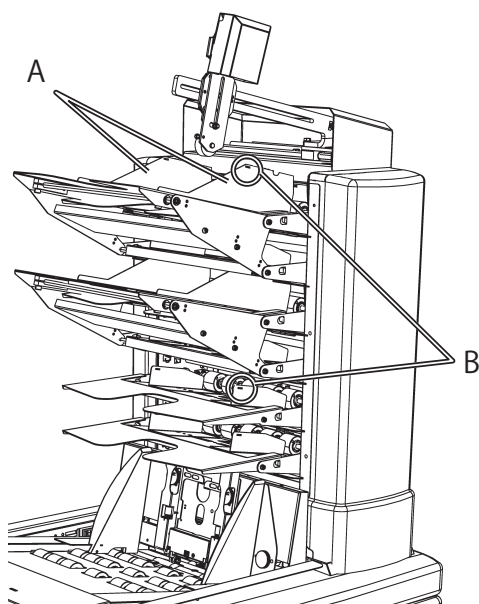
用紙/冊子/封筒の積載

タワーフィーダーへの用紙の積載

一般事項

タワーフィーダーの各フィーダーの積載容量は28 mm (1.1")で、マーク(B)で示されます。最小用紙サイズは89 mm×160 mm(3.5インチ×6.3インチ)、最大用紙サイズは300 mm×420 mm(11.8インチ×16.5インチ)です。

*オプションのハイキャパシティフィーダーの積載量は70 mmです。



フィーダーに用紙を積載する前に、インクが乾いていることを確認し、用紙を十分にさばいてからそろえてください。フィーダーに用紙を積載し、サイドガイド(A)を調整して、用紙をフィーダーの中央に配置します。

注

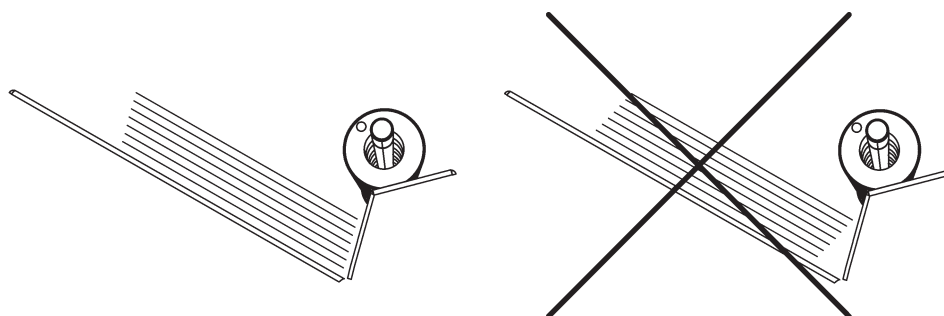
サイドガイドのマーク(B)を超える高さまで用紙を積載しないでください。

注

重送検知センサーが実際には発生していないダブルフィードを検知しないように各フィーダーのすべての用紙を同じ方向に揃えてください。

注

- タワーフィーダーにOMR/BCRスキャナが搭載されている場合は、用紙をセットする前にリーダを持ち上げてください。
- 左下の図のように、すべてのシートがセパレートビームにあたるようにセットしてください。



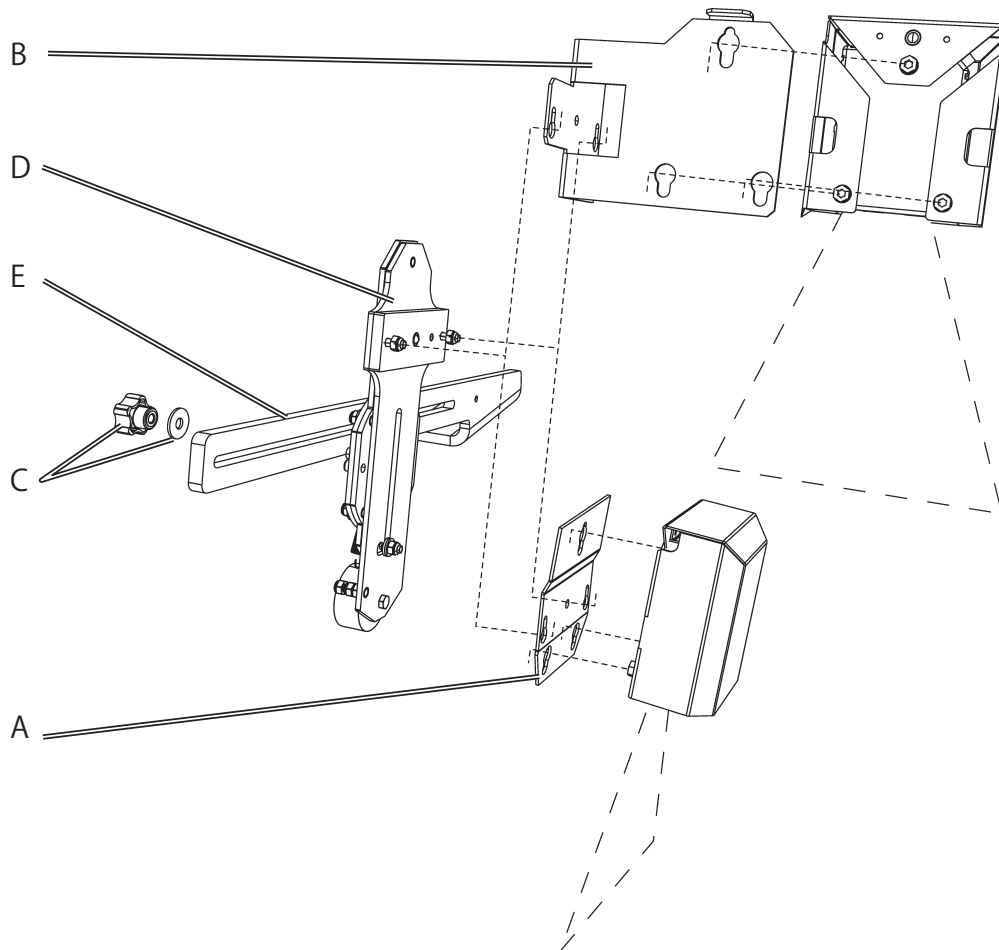
スキャナーの位置調整

一般事項

スキャナキットには、位置決めブラケットが2個付属しています。一つはラダー方向に印刷されたマーク用(A)、もう一つはピケットフェン方向に印刷されたマーク用(B)です(詳細は「9仕様」を参照)。スキャナブラケットのロックスネジとワッシャ(C)を取り外すと、スキャナブラケット(D)をスキャナアーム(E)の反対側に移動できます。つまりスキャナーを取り付け可能な位置は4つあることになります。

注

スキャナーは、インサーターに最も近いタワーフィーダーにのみ取り付けることができます。

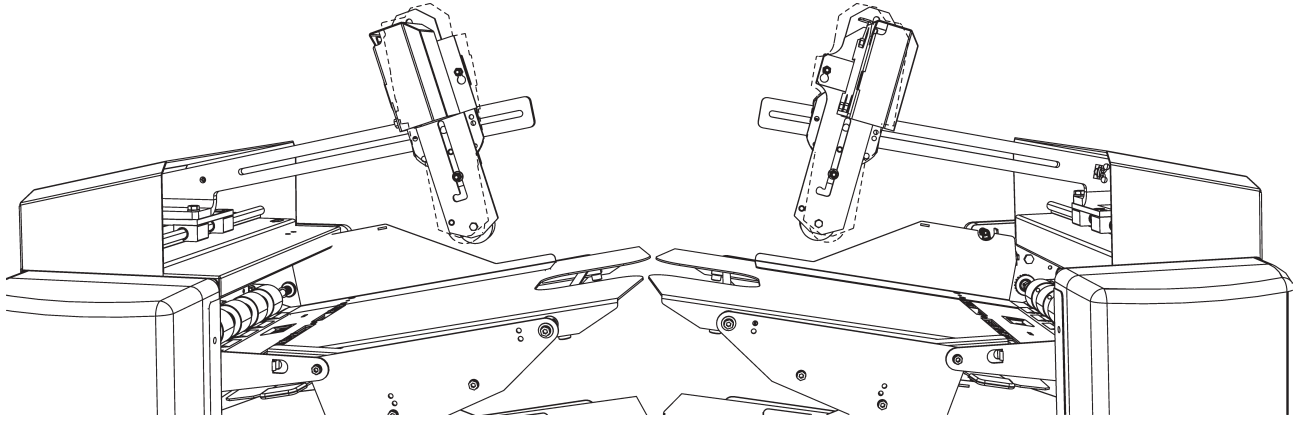


スキャナブラケットには、いずれかの取り付け用ブラケットの対応するキーホールにフィットする、ネジ付きスタッド(ナット付き)が2つあります。取付用ブラケットは、バネ仕掛けのスチールボールで固定されています。取付用ブラケットを持ち上げるとスキャナブラケットから取り外せます。

スキャナカバーの裏側には、ナット付きのネジが3つあります。このナット付きネジは、いずれかの取り付け用ブラケットの対応する3つのキーホールにフィットします。スキャナーの固定には、バネ式のスチールボールを使用しています。スキャナカバーを持ち上げると取付用ブラケットから取り外せます。

スキャナブラケットを傾ける

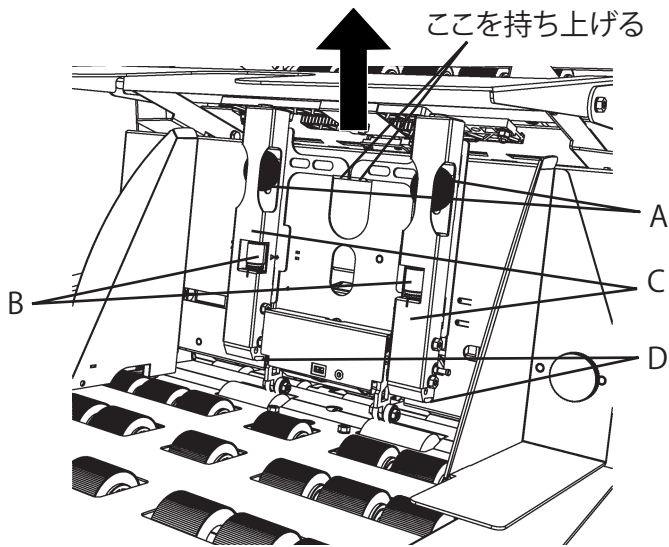
ピケットフェンスの位置に印刷されたマークを読み取るようにスキャナをセットアップすると、フィーダーが空になるにつれてマークがスキャナビームから離れる傾向があります。そのため、スキャナは給紙ローラーから離れるように傾ける必要があります。



スキャナブラケットは3つの位置にセットすることができます。イラストでは、スキャナブラケットをフィーダーローラーから離れるよう傾けたところを示しています。破線は、スキャナーの標準/中央位置を示しています。

ブックレットフィーダーへの冊子の積載

ブックレットフィーダーの積載容量は高さ150 mmまでです。冊子の最小サイズは89 mm×160 mm (3.5インチ×6.3インチ)、最大サイズは300 mm×315 mm(11,8インチ×12,4インチ)です。冊子の厚さは最大8 mm(1/3)です。



セパレーターの設定

- 1 2つのネジ(A)を外し、微調整ネジ(B)をゼロにセットします。
- 2 セパレーター(C)を持ち上げます。持ち上げる位置は図をご覧ください。
- 3 セパレーターを持ち上げて、その下に冊子を1冊挿入し、セパレーターを下ろします。



注

セパレートパッド(D)を冊子の一番厚い部分にあてます。

- 4 ネジ(A)を締め、冊子を取り出します。

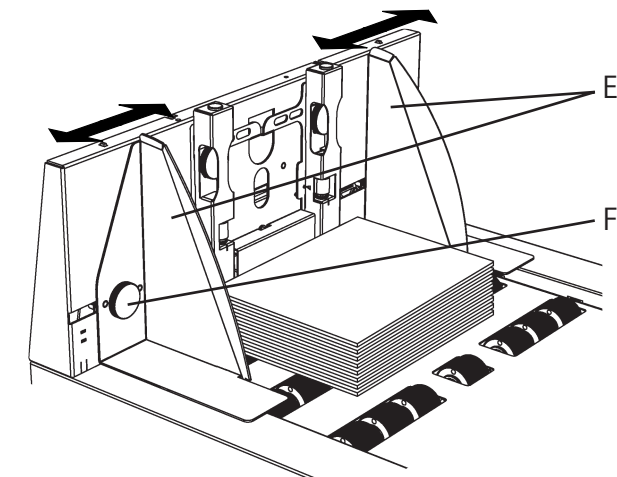
冊子の積載

- 5 冊子の背をセパレーターに当ててセットします。サイドガイド(E)をスライドさせ、冊子を押しつぶさないように挟みます。サイドガイドを調節して、セットした冊子がフィーダーの中央にくるようにします。



注

必要に応じて、固定用ノブ(F)を使用します。



注

冊子の背の向きは、セパレータを調節したときと同じ向きでセットしてください。



注

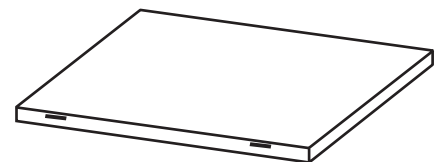
ステープルが背の中心にない冊子をセットする場合は、右図のようにステープルが上になるようにしてください。



注

ミスフィードやダブルフィードが発生した場合は、下記の要領でセパレート微調整ネジ(B)で分離圧力を微調整してください。

- ・ ミスフィード：微調整ネジを回して分離圧を下げる。
- ・ ダブル給紙：微調整ネジを回して分離圧を上げる。



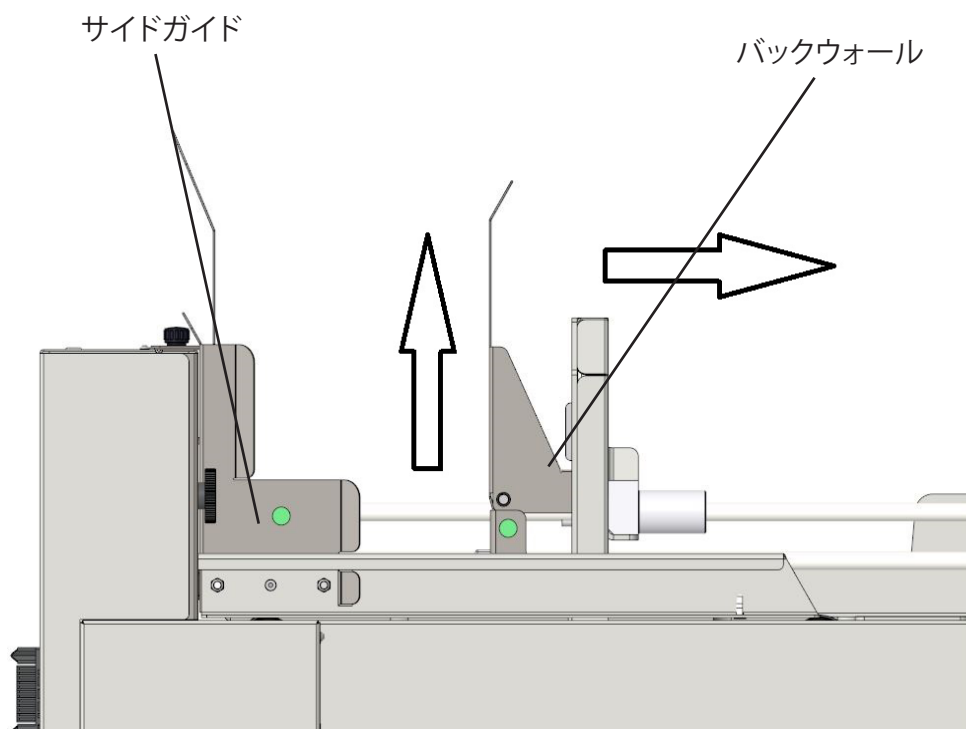
インサーターへの封筒の積載

封筒の積載量は400～500枚(封筒の厚みによる)です。封筒用紙の最小重量は75 gsm (20 lb Bond)、最大重量は110 gsm (28 lb Bond)です。

注

フラップ内側に水を付けて封かんするアラビア封筒のみを使用してください。封筒タイプによっては封かん機能をオフにする必要があります。

4



- 1 バックウォールを持ち上げて、右側いっぱいにはスライドさせます。
- 2 サイドガイドを一番外側の位置に移動します。
- 3 封筒の開口部が上、フラップ閉じ方向が左に向くように封筒を置きます。(標準的な封筒の場合、フラップを上、宛名面をバックウォール側)
- 4 サイドガイドが封筒にフィットするよう調整し、バックウォールを封筒が倒れない程度に左側へ戻します。

注

バックウォールは封筒に過度に強くあてないようにしてください。適切な圧力となるようシステムが自動で調整します。封筒フィーダーの詳細な設定については以下を参照してください。セクション9、封筒の仕様、セクション7、封筒搬送の問題、封筒フィーダー設定詳細。

封入物の容量

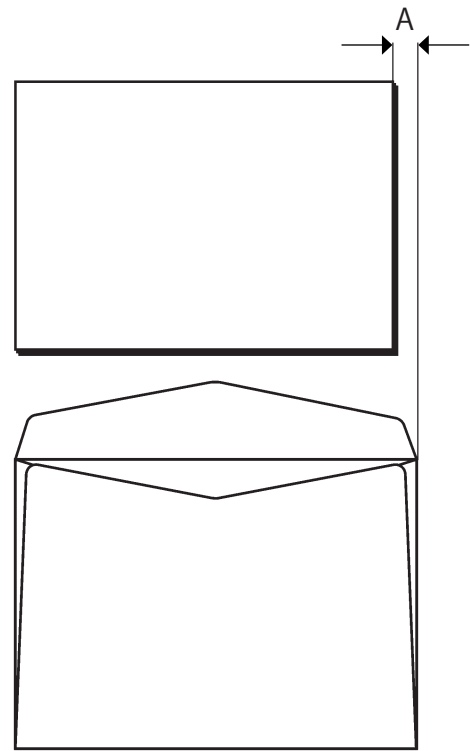
本機は、最大厚さ 12 mm (1/2") まで封入物を封入封緘することができます。封入物の厚さに対応するために、常に封筒に十分なクリアランス (A) があることを確認してください。

算出方法

クリアランス = 12 mm (0.47インチ) + (封入物の厚さ - 5 mm (0.2インチ))。

5 mm (0.2インチ) までの封入物の厚さは、寸法 A (12 mm (0.47インチ)) にあらかじめ含まれます。

厚さは、圧力をかけずインフィードデッキに自然に置かれた状態で最も高い部分の計測値です。



ログイン

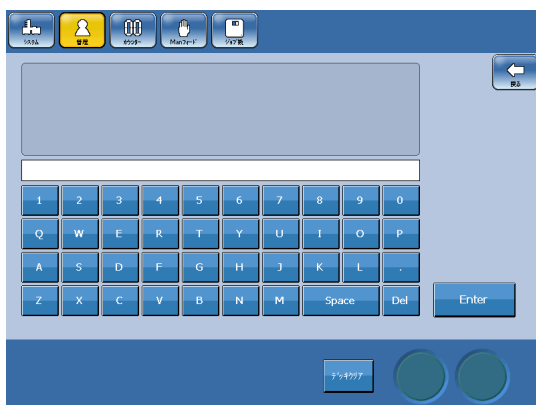
カスタムサイズの封筒や用紙の作成、ジョブやスキャナープロファイルの保存を行うには、管理者としてログインする必要があります。

注

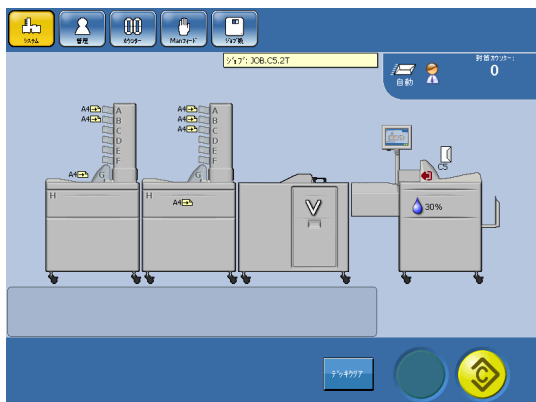
特定の構成では、電源投入時に自動的に管理者としてログインします。その場合は、このセクションをスキップしてください。



1 メインスクリーンで、まず[管理] ボタンを、次に[コマンドウィンドウ] ボタンを押します。



2 ボタンを使って、コマンド「ADMIN.」を入力後、アクセスコードを入力します。[OK]を押して、ログインします。「ユーザー管理者に設定する」というテキストが表示されます。



3 ログインに成功すると、ネクタイをした人のアイコンが表示され、管理者としてログインしていることを示します。

注

- デフォルトのアクセスコードは「1000」です。正しいコマンドは「ADMIN.1000」です。
- アクセスコードを変更するには、サービス技術者に連絡してください。
- ログアウトするには、コマンド「ADMIN.」の後に正しいアクセスコード以外の何らかの数字を入力してください。
- インサーターの電源を切ると、自動的にログアウトされます。

2. 操作方法

フィードオプション

メールフィーダーとともにインサーターを使用すると、メールフィーダーに搭載されたモジュールに応じていくつかのフィードオプションを選択できます。マニュアルフィード(手差しフィード)でインサーターを使用することもできます。

マニュアルフィード(手差しフィード)

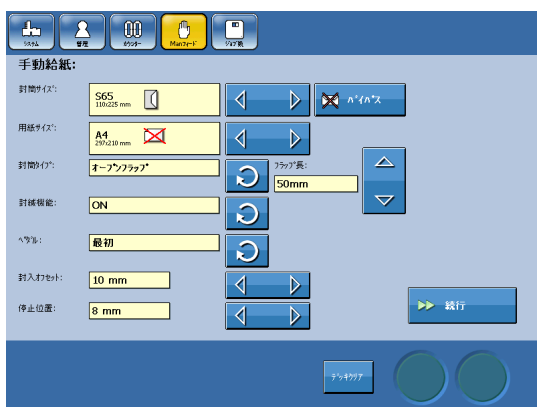
マニュアルフィードは、メールフィーダーでは対応できない形状の封入物やサンプルを封入する場合に使用することができます。メールフィーダーを取り付けた場合、またはメールフィーダーを取り付けずにインサーター単独で使用する場合に、マニュアルフィードを使用できます。

手差し機能の使い方には、3つの選択肢があります。

- 自動開始 - 送り込みデッキに封入物を入れると、自動的に封入を開始します。
- トリガースタート - フットペダルまたはディスプレイの[トリガー]ボタンで封入を開始します。
- メールフィーダーとマニュアルフィードの組み合わせ

最初の2つの方法では、封入する封入物すべてを手動で送り込みデッキに入れる必要があります。最後の方法は、メールフィーダーから搬送された封入物に手動で封入物を追加する場合に使用します。

自動開始またはトリガースタートのマニュアルフィード



1 メインスクリーンで、[マニュアルフィード] ボタンを選択して押します。

2 設定を変更するには矢印ボタンを使用します。

封筒サイズ - 設定された封筒サイズ、カスタム封筒サイズ、バイパスから選択できます。

用紙サイズ - 設定された用紙サイズとカスタム用紙サイズから選択します。封入物がフィットしない場合は、赤の十字で示されます。

フラップタイプ - 封筒のフラップが開いている(オープン)か閉じている(クローズ)かを選択します。

フラップ長 - フラップタイプで「オープン」を選択した場合は、封筒のフラップの長さを測って入力します。

封緘機能 - 封緘機能の「オン」または「オフ」を選択します。

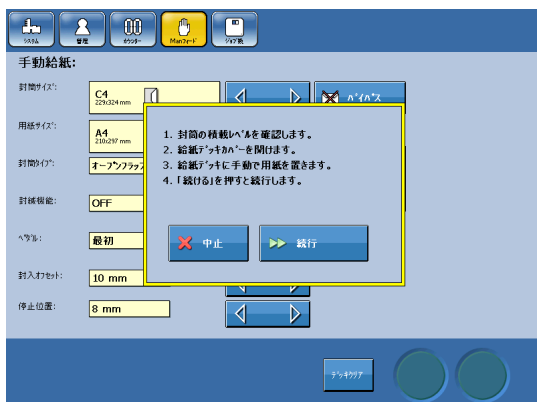
フットペダル - 自動開始のマニュアルフィードの場合はフットペダルを「オフ」に、トリガースタートのマニュアルフィードの場合はフットペダルを「最初」または「最後」に設定します。

設定について詳しくは、「**4 設定**」を参照してください。

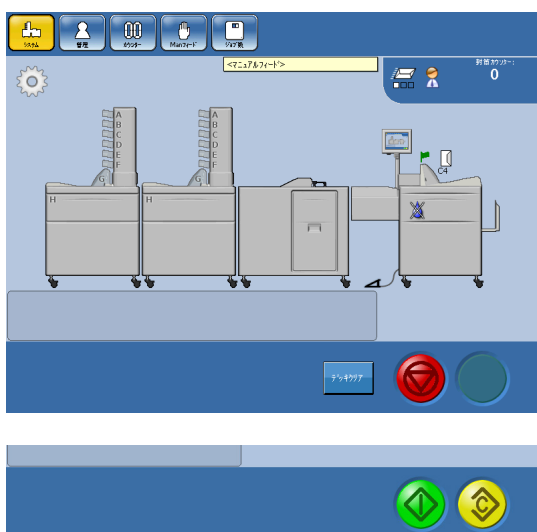
必要に応じ全ての設定を変更したら、[続ける] ボタンを押します。

次ページに続く

自動開始またはトリガースタートのマニュアルフィード(続き)



3 画面に表示される手順に従い操作してください。



4 フットペダルの「オフ」を選択した場合は、自動的に封入プロセスが始まります。「最初」または「最後」を選択した場合は、フットペダルを押すか、ディスプレイ上のフットペダルをタッチすると、封入を開始します。

トリガースタートを終了するには、[ストップ] ボタンを押してください。

5 マニュアルフィードを続行し、再度トリガースタートを開始するには、[スタート] ボタンを押します。

メールフィーダー(およびフォルダー)とマニュアルフィードの組み合わせ

マニュアルフィードを使用して、メールフィーダーからの封入物に手で封入物を追加することもできます。この操作は、ジョブ進行中でシステムが稼働中のときに可能です。(「3 ジョブ」を参照)。

1 手で追加する封入物を送り込みデッキの最初に置くか最後に置くかに応じて、フットペダルを「最初」か「最後」のいずれかに設定します。ジョブをプログラムする場合は、インサーターをタッチし、[フットペダル: xx] ボタンを押します。「4 設定」のセクションにある「フットペダル機能のオン/オフの選択」も参照してください。

2 送り込みデッキに封入物を送れるようになったら、ディスプレイのフットペダルの上に赤い矢印が表れます。送り込みデッキカバーを開いて、手で封入物を入れます。

3 フットペダルを押すか、ディスプレイ上のフットペダルをタッチし、封入プロセスを続行します。

メールフィーダー

メールフィーダーは、最大8つのソースからフィードすることができ、以下のモジュールのうちの少なくとも1つを備えています。タワーフィーダー、ブックレットフィーダー、アキュムレーター。アキュムレーターはオプションの追加給紙装置や外部給紙装置からの封入物を受け取るモジュールです。

タワーフィーダー

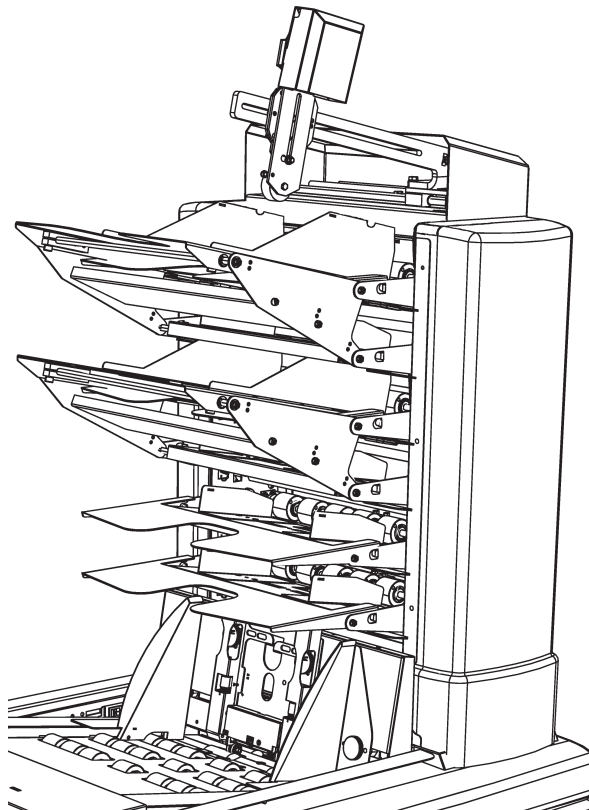
タワーフィーダーは6つのフィーダーを搭載したフィーダーで、コレクターまたはフィーダーとして設定することができます。それぞれのフィーダーが異なるサイズの封入物を供給し、同じ封筒に封入することができます。フィーダーは個別にプログラム可能なため、フィーダーから封入物を供給する順序を選択したり、各フィーダーをジョブの設定ごとに複数回使用することができます。

丁合い – コレクターとして設定すると各フィーダーから1枚ずつフィードします。

送り込み – フィーダーとして設定すると、各フィーダーから一度に複数枚を供給できます。

リンクしたフィーダーによる送り込み – フィーダーをリンクすると同じ用紙を複数のフィーダーに積載することができます。空になったフィーダーには稼働中にも用紙を補充することができます。

タワーフィーダーには、OMR/BCR(光学式マーク認識/バーコード認識)スキャナー(オプション)を取り付けることができます。OMR/BCRの読み取りにより、各封入セットの内容を個別に管理することが可能となります。OMR/BCRスキャナーは、一番上のフィーダーにセットされた用紙のOMR/BCRマークを読み取ります。



注

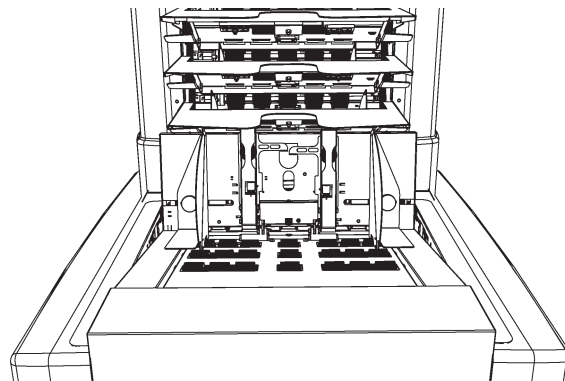
フィーダーの設定について詳しくは、「4 設定」を参照してください。

ブックレットフィーダー

ブックレットフィーダーは、単票から厚さ8 mmの冊子まで給紙可能です。タワーフィーダーとアキュムレーターから供給される用紙の前、後、または間に、任意の組み合わせでブックレットフィーダーから用紙を供給することができます。

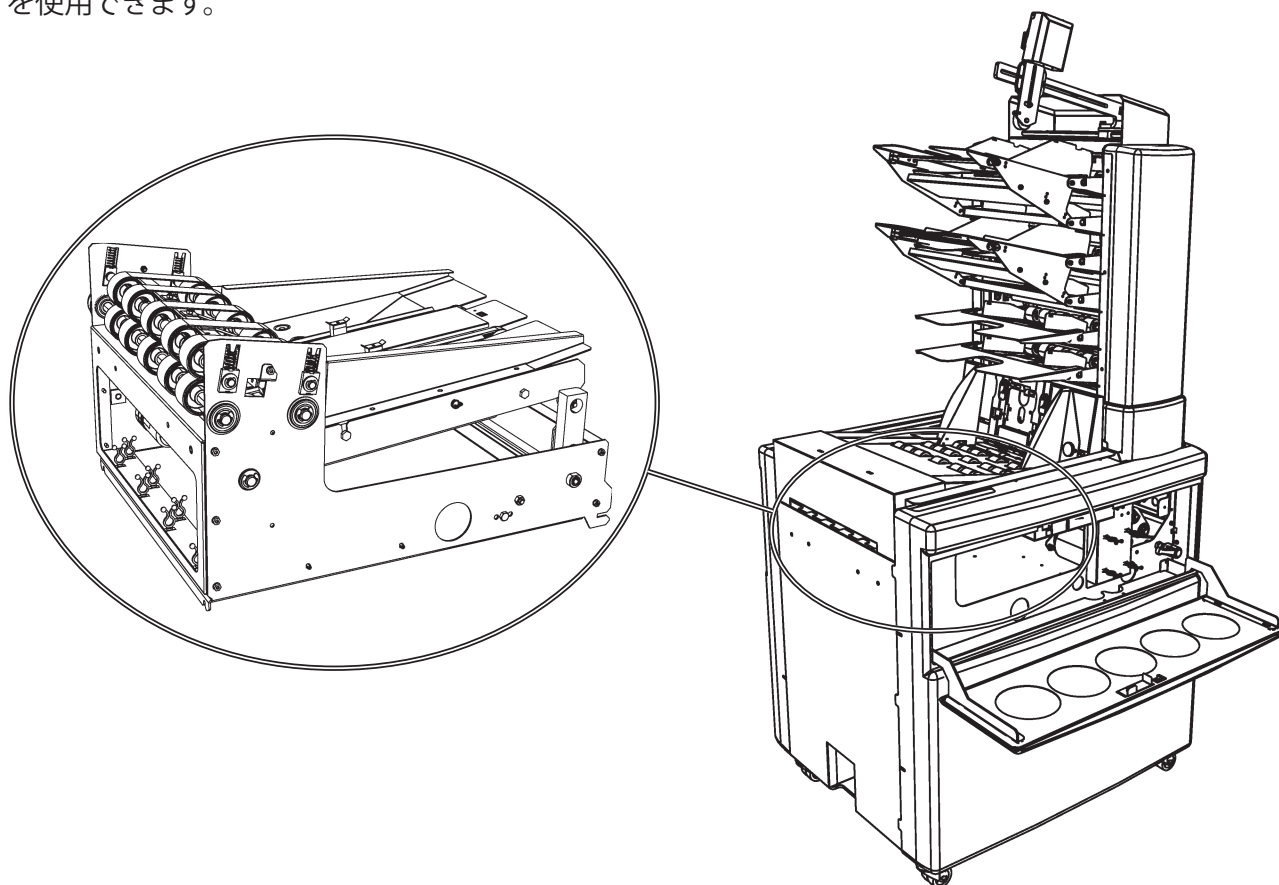
注

フィーダーやブックレットフィーダーの供給順序は、生産性に影響します。**4 設定**セクションの「メールフィーダーの設定」を参照してください。



アキュムレーター

アキュムレーターは外部帳票インプットから封筒や封入物を受け取り、タワーフィーダーとブックレットフィーダーから送られる封筒や封入物と組み合わせます。帳票インプットとして、別のメールフィーダーを使用できます。

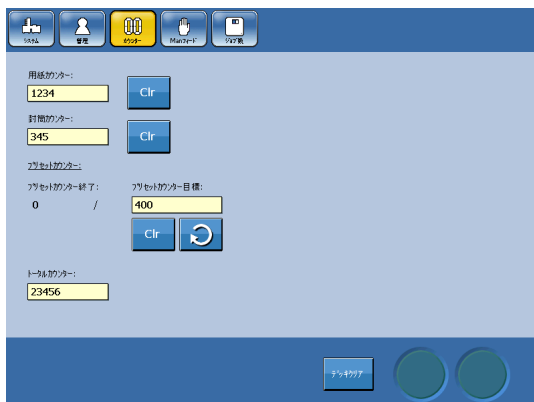


カウンター

システムにはリセット可能な封筒カウンター、プリセットカウンター、およびトータルカウンターが搭載されています。

メインスクリーンで、[カウンター] ボタンを押してください。

カウンター/トータルカウンター



封入物カウンターの値は、最後にカウンターの値をリセットした後で行われた封入の数を示します。封入物カウンターをリセットするには、[クリア] ボタンを押します。

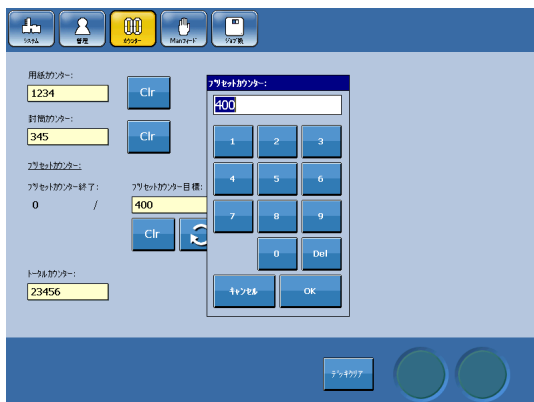
封筒カウンターの値は、最後に封筒カウンターの値をリセットした後で行われた封入の数を示します。封筒カウンターをリセットするには、[クリア] ボタンを押します。

トータルカウンターの値は、本機で行われた封入総数です。トータルカウンターはリセットできません。

注

これらの調整は、稼働中にも行うことができます。

プリセットカウンター



プリセットカウンターを使用した場合、封入数が選択した数に達したときに自動的に封入プロセスを停止します。

プリセットカウンターを希望する封入数に設定するには、円形の矢印ボタンを押します。

プリセットカウンターを解除してリセットするには、[クリア] ボタンを押します。

ヒントとコツ

一般事項

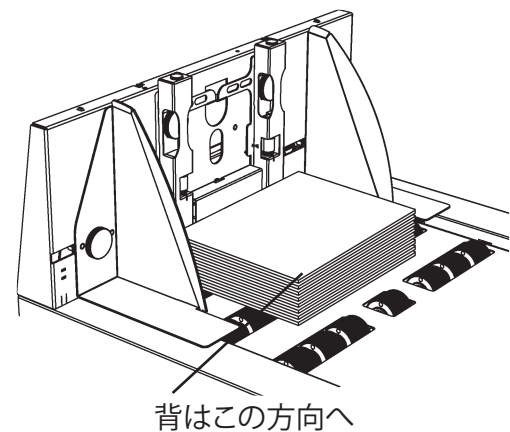
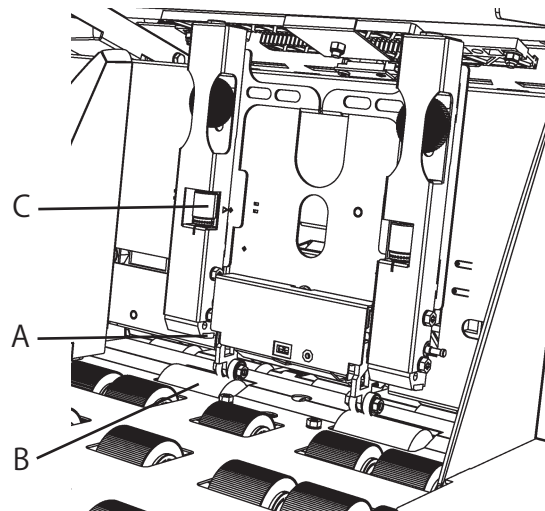
封入処理が思うようにいかない場合は、下記や次ページ以降に記載されているコツを試してみてください。

- すべての機器の電源がオンになっていることを確認してください。スクリーンに「Communication failure」と表示された場合、システムの他のすべてのモジュールの電源がオンになっていることを確認する必要があります。まずインサーターの電源を落とし、次に上流側のモジュールから順に各モジュールの電源を入れてください。
- **8 一般情報**の「機械のメンテナンス」の説明に従って、機械の点検と清掃を行ってください。
- 速度を遅くします。封筒やインサートの種類によっては、動作のために速度を落とす必要がある場合があります。特定の封筒や封入物で問題が発生する場合は、「**4 設定**」の「速度の調整」の説明を参照し、速度を調整してください。
- 封筒のサイズを測り、「**4 設定**」で設定したサイズに合っていることを確認してください。
- **4 設定**セクションの「封筒のタイプの設定」に従って、正しい封筒のタイプ(オープンまたはクロス)が設定されていることを確認します。
- 封入物のサイズを測定し、「**4 設定**」に従って設定されたサイズに適合していることを確認します。用紙の向き、横／縦が正しく選択されていることを確認してください。
- 「**1 基本事項**」の「封入物の容量」を参照し、封筒内に封入物の厚さに応じた十分なクリアランスがあることを確認してください。
- 封筒が「**1 基本事項**」の説明どおりにセットされているか確認してください。封筒はフラップ側を上に向け、フラップが最後に装置に送り込まれるように積載する必要があります。
- 「**1 基本事項**」に記載されているように、用紙や冊子がセットされていることを確認します。用紙はよくさばいてから、そろえて積載してください。インクが乾いていることを確認してください。
- タワーフィーダーから供給する場合は、各フィーダーの用紙方向がすべて同じであることを確認します。用紙が異なる方向を向き、ページの印刷に違いがある場合は、重送検知センサーが(実際には発生していなくても)重送と検知することがあります。

ブックレットフィーダーからの冊子の送り込み

ブックレットフィーダーから冊子を送る際に、ミスフィードが発生したり、冊子が破損する場合は、セパレーターを締め付けすぎている可能性があります。

- 「**1 基本事項**」のブックレットフィーダーへの冊子の積載方法の説明に従ってセパレーターの圧力を設定します。セパレーターの圧力を下げる際には、セパレートパッド(A)とセパレートローラー(B)の間隔が冊子の厚さの2倍未満であることを確認します。
- 「**1 基本事項**」のブックレットフィーダーへの冊子の積載方法の説明に従ってセパレーターの圧力を設定します。微調整ネジ(C)を使用して、ダブルフィードが発生するまでセパレーターの圧力を小さくします。次に、ダブルフィードが発生しないようにわずかにセパレーターの圧力を大きくします。
- 冊子の背を装置の前方に向けて積載します。冊子の背がセパレーターに当たるように積載することは避けてください。



小冊子の送り込み

封筒や他の封入物に比べて冊子が小さい場合、封かん不良などの問題が発生することがあります。

- 「**4 設定**」の「速度の調整」の説明に従って、速度を下げてください。
- 冊子を最初にインフィードデッキに供給することを避けてください。**4 設定**のメールフィーダーの設定に記載されているように、封入物を送り込みデッキに供給する順序を変更します。

折られた用紙の送り込み

折られた用紙をタワーフィーダーから供給すると、ダブルフィードと検知されることがあります。折られた用紙を給紙する場合は、ブックレットフィーダーを使用することをお勧めします。



注
ウエイトを使用しないでください。

返信用封筒の送り出し

- タワーフィーダーから返信用封筒を給紙する際のトラブルを防ぐため、窓付き封筒を使用する場合は、返信用封筒の窓側を上、フラップ側をフィード方向に向けてセットしてください。セルフシール式の封筒は使用しないでください。これらの封筒は紙詰まりの原因となり、機械に糊が残る可能性があります。
- 封入ミス (Fault code DMI:03-11 Insertion miss) 防止のため、返信用封筒のフラップは下にしてセットしてください。

単票の送り込み

単票挿入時に問題が発生する場合は、封筒が新しいものであること、また折れ曲がったりしていないことを確認してください

窓付き封筒の使用

窓付き封筒など、窓の位置によって問題が発生する封筒もありますので、「7トラブルシューティング」の「封筒フィーダー設定詳細」を参照してください。

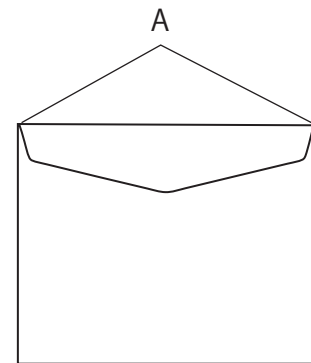
封かんの問題

封筒が正しく封かんされない場合や、封かんされた封筒が開いてしまう場合は、以下の方法で改善する場合があります。

- 封かんがされない場合は、封かん機能がオフになっていないか確認してください。**4 設定**の「封緘水量の調整」を参照してください。
- 速度を調整してください。システムの推奨速度より速く設定すると、封かんに問題が発生することがあります。**4 設定**の「速度の調整」を参照してください。
- **8 一般情報**の「機械のメンテナンス」を参照して、封緘機構の用紙経路を清掃します。糊が残っていると封かんの問題が発生することがあります。
- **4 設定**の説明に従って、封緘水の量を調節してください。クラフト紙封筒など、封筒によっては封緘水の量を多くしないとうまく封かんできない場合があります。
- 封緘水の量は十分なのに封筒が開いてしまう場合は、設定でフラップを押し付ける時間を長くすることが可能です。**4 設定**の詳細設定を参照し、封緘ディレイを長くしてください。
- 封入物を封筒の奥の方まで十分に挿入できていない場合は、正しく封かんでできません。**4 設定**の詳細設定を参照して、封入オフセットを大きくしてください。
- 封筒が古いと、糊が劣化していることがあります。新しい封筒に変更してください。

角が破損した封筒

封筒の上部の角(A)が破損している場合は、**4 設定**セクションの「詳細設定」を参照して、封筒の停止位置を大きくしてください。停止位置を大きくした場合は、封入物を封筒の奥の方まで十分に挿入できるように封入オフセットも対応して大きくする必要があります。**4 設定**の「詳細設定」を参照してください。



封入時の動作が遅い

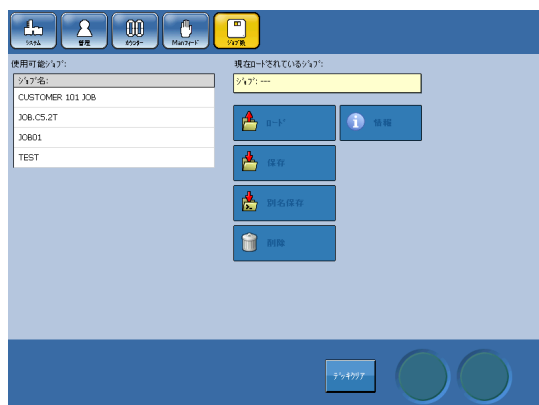
4 設定の説明に従って、メールフィーダーが正しく設定されていることを確認します。フィーダーやブックレットフィーダーの供給順序は、生産性に影響します。

このページは意図的に空白になっています。

3. ジョブ

ジョブの操作

ジョブ処理に関するすべての機能にアクセスするには、管理者としてログインする必要があります。
「1 基本事項」を参照してください。



1 ジョブ画面は、メインスクリーンの [ジョブ] ボタンを押すことで表示されます。

2 「ジョブ」メニューでは、保存されているジョブの読み込み、削除、変更内容の保存や、現在のジョブを新しいジョブとして保存したり、ジョブの名前を変更する、といった操作を行うことができます。

各項目については、次ページ以降で説明します。

注

管理者としてログインしていない場合、以前に保存したジョブを開いたり、ジョブを実行したり、変更を加えたりすることはできますが、ジョブを保存することはできません。

新しいジョブの設定

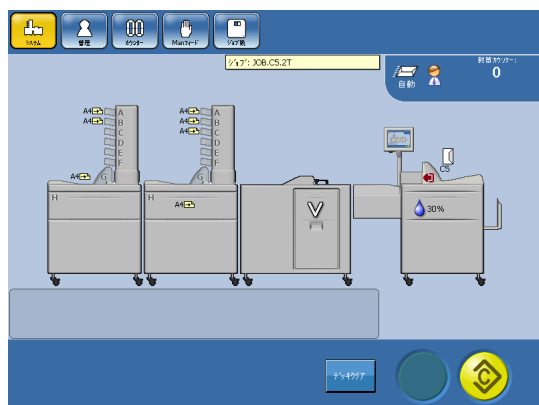


新しいジョブを設定するには、管理者としてログインする必要があります。「1 基本事項」を参照してください。



新しいジョブを設定するには、システム内のすべてのマシンの電源がオンになっている必要があります。

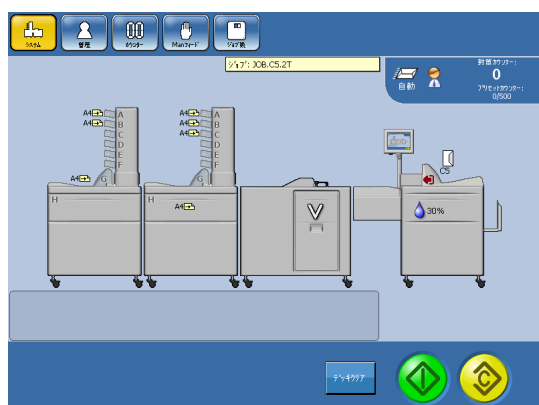
3.ジョブ



1 メイン画面で、設定を変更したい機器をタッチします。

2 4 設定に従い、設定を変更します。

3 テストボタンを押します。テストで作成された封筒をチェックして、設定内容が正しいか確認してください。



4 スタートボタンを押すと、封入作業が開始されます。

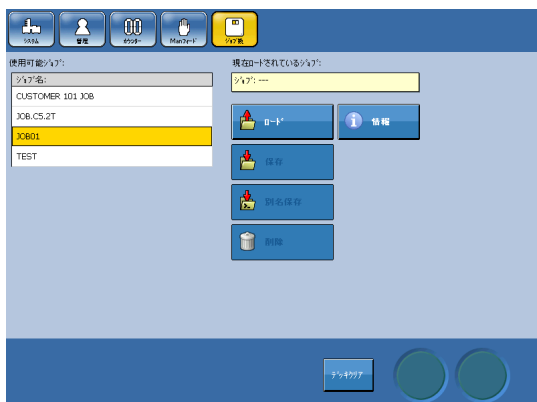


ジョブは、このセクションの後の「ジョブの保存」の指示に従って、いつでも保存することができます。

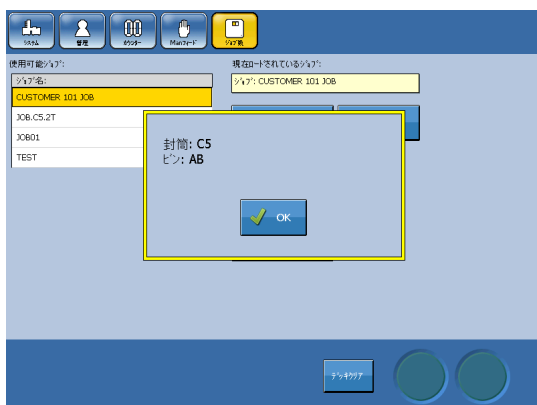


新しいジョブを作成する方法として、上記の方法とは別に、以前に保存したジョブを開いて変更を加え、「別名保存」を選択して、新しいジョブ名で保存する方法があります。このセクションの後の「ジョブの保存」を参照してください。

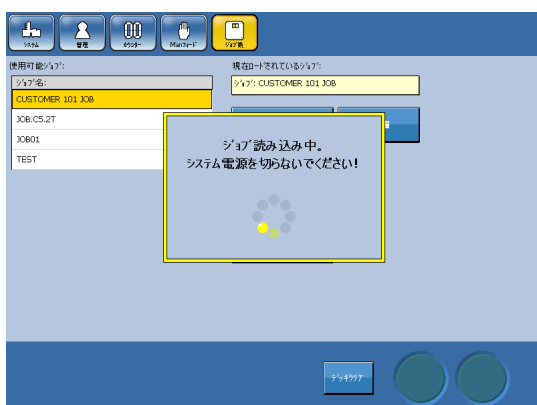
ジョブの呼び戻し



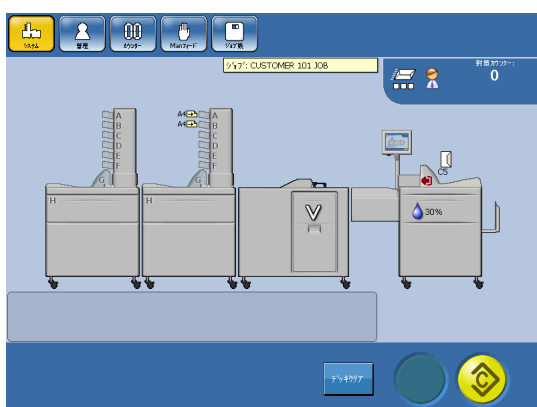
- 1 メイン画面で[ジョブ]ボタンを押し、特定のジョブをタッチしてください。



- 2 [情報]ボタンを押すと、ジョブの情報を見ることができます。



- 3 または [読み込み]を押して、ジョブを呼び出すことができます。



- 4 これでジョブが読み込まれ、現在のジョブとなります。

[システム]ボタンを押すと、メイン画面に戻ります。そこから[スタート]ボタンを押して、ジョブを開始することができます。

注

OMR/BCRの読み取りが必要な場合は、リーダーの電源を入れることを忘れないでください。リーダーの電源の入れ方については、4項を参照してください。

ジョブの保存、削除、名前の変更

インサーターには、さまざまなジョブを無制限に保存することができます。

ジョブの保存

3.ジョブ



設定を保存するには、管理者としてログインする必要があります。「1 基本事項」を参照してください。

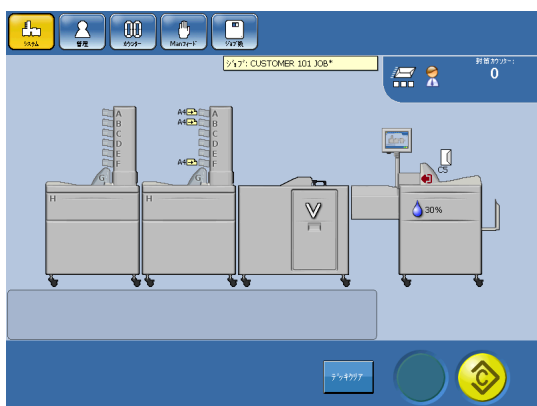


設定を保存するためには、システム内の機械の電源が入っている必要があります。

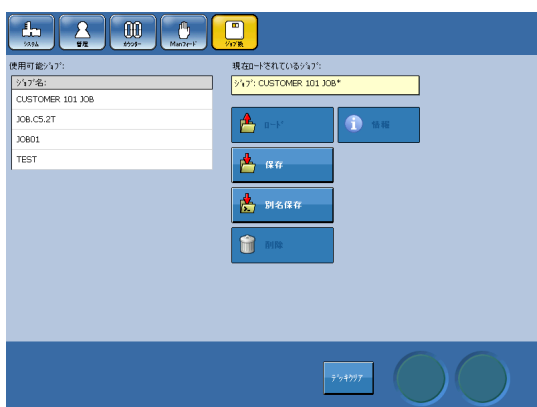
4 設定に従って行われる特定のジョブの設定変更は一時的なものです。

この状態でシステムを動かすことは可能ですが、再度設定を変更すると前の設定は失われます。これらの設定を永続的に保持するには、ジョブを保存する必要があります。

一時的に変更した状態で実行し、その後に設定を保存することも可能です。



変更されたがまだ保存されていないジョブには、[*]が付いています。



ジョブを保存するには、[ジョブ] ボタンを押し、[保存] ボタンを押します。

以下いずれかの選択肢があります。

- [保存] を選ぶと、現在のジョブが上書きされます。現在のジョブの名前は画面上部に表示されます。
- [別名保存] を選択すると、新しいジョブとして保存するか、別のジョブを上書き保存することができます。

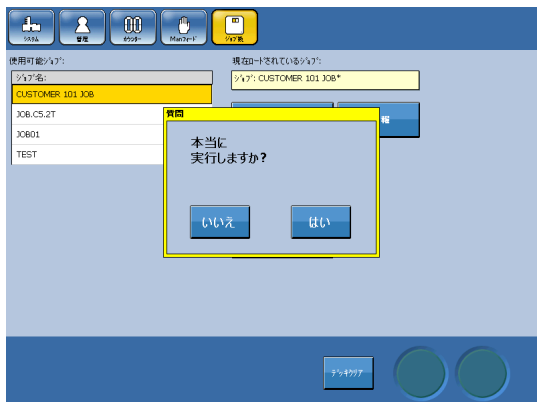
ジョブの削除

注

設定を保存するには、管理者としてログインする必要があります。「1 基本事項」を参照してください。



1 ジョブ画面で、削除したいジョブを選択します。

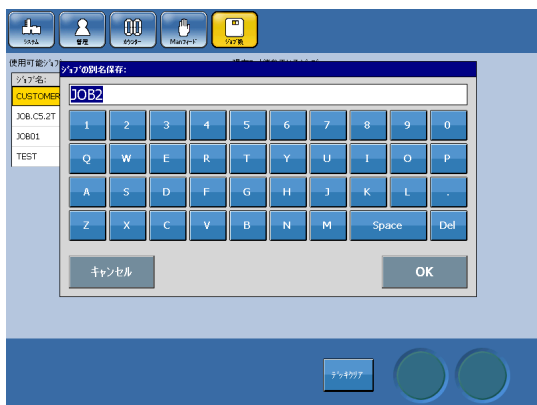


2 [削除]ボタンを押し、[はい]ボタンで削除を確定します。

ジョブの名前変更

注

設定を保存するには、管理者としてログインする必要があります。「1 基本事項」を参照してください。

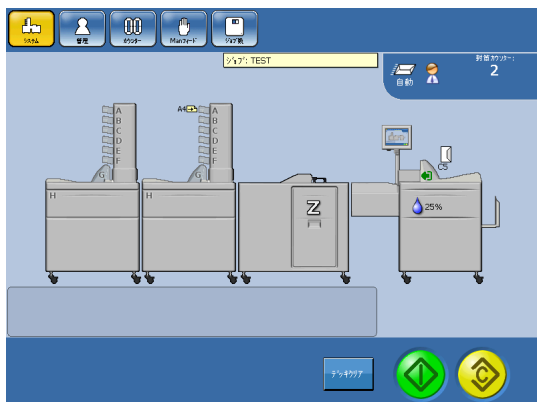


ジョブの名前を変更する場合は、[別名保存] ボタンでジョブを保存してから、古いジョブを削除してください。

このページは意図的に空白になっています。

4.設定

一般的な手順



メインスクリーンから、設定を変更したい機器をタッチします。



変更したい設定を選択します。

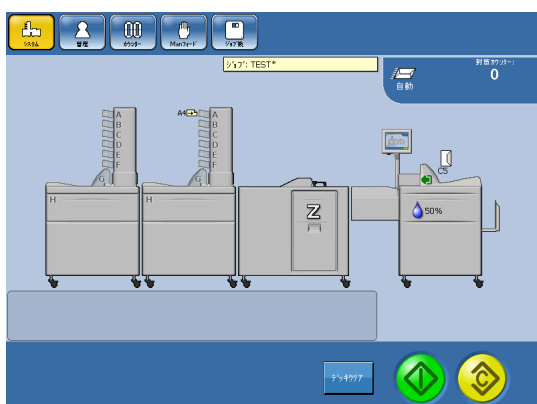
ボタンを押して新しい設定を入力し、[画面終了]ボタンを押す。



新しい設定でシステムが更新されます。

次に設定を変更したい機器を選択し、同様に続けます。

変更が終わったら、[システム]ボタンを押して、メインスクリーンに戻ります。



黄色の[テスト]ボタンを押して、設定を確認します。

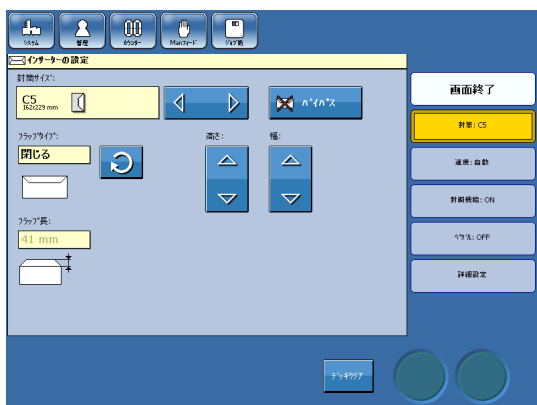
緑色の[スタート]ボタンを押します。

インサーターの設定



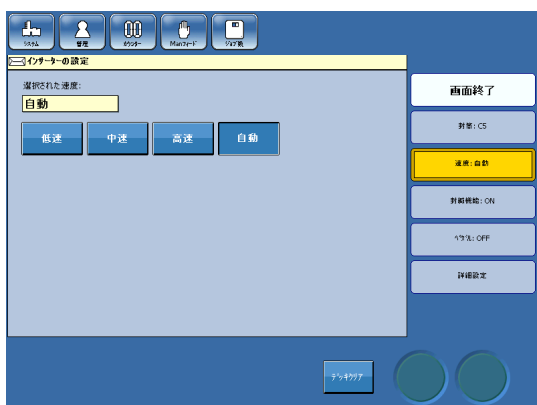
- 1 メインスクリーンで、インサーターをタッチします。
- 2 インサーター画面の右側のリストで、変更したい設定を選択し、対応するボタンを押します。

封筒のサイズとフラップタイプの設定



- 1 [封筒:xx]ボタンを押します。
 - 2 矢印ボタンで封筒を選択します。
- 注**
封筒に封入しない場合は、[バイパス]ボタンを押します。「バイパス」にすると封筒に封入されずに排出されます。
- 3 ループ矢印で、使用する封筒のフラップが開いているか閉じているかを設定します。開いているタイプを選択した場合は、フラップの長さを測定し、測定値を入力してください。
 - 4 他のインサーターの設定を続けるか、インサーターの設定変更を終了する場合は、[画面終了]ボタンを押します。

速度の調整



- 1 [速度:xx] ボタンを押す。
- 速度は低速、中速、拘束、または自動に設定可能です。最高のパフォーマンスと信頼性を得るには、自動を選択してください。ジョブの設定、封筒のサイズおよび封入物の厚さに応じてシステムが自動的に速度を調整します。
- 高速封入物 < 2 mm (1/8)
中速封入物 2~6 mm (1/8) ~ 1/4 (1/8)
低速封入物 > 6 mm (1/4") インサート

次ページに続く

速度の調整、続き



- 2 該当するボタンを押して、速度を選択します。
- 3 他のインサーターの設定を続けるか、インサーターの設定変更を終了する場合は、[画面終了] ボタンを押します。

注

封筒によっては、より安定して動作させるために速度を落とす必要がある場合があります。「2 操作方法」のセクションの「ヒントとコツ」を参照してください。

封緘水量の調整



- 1 [封緘機能:xx] ボタンを押します。
封緘機能は「OFF」または「ON」に設定可能です。「ON」に設定すると、封緘水量を4つのプリセット値または微調整から選択できます。
封筒を適切に封緘できない場合は、封緘水量を多くしてください。封筒に封緘水が付きすぎるようであれば、封緘水量を減らしてください。
- 2 ボタンでプリセット値を選択し、矢印ボタンで微調整します。
- 3 他のインサーターの設定を続けるか、インサーターの設定変更を終了する場合は、[画面終了] ボタンを押します。

注

この調整は、実行中にメインスクリーンから行うことも可能です。

フットペダル機能のオン／オフの選択



1 [ペダル:xx]ボタンを押します。

ペダルは "OFF"、"最初"、"最後" に設定可能です。
 "OFF" – フットペダルは使用しません。
 "最初" – メールフィーダーからの送り込みの前に手動で封入物をデッキに送ります。
 "最後" – メールフィーダーからの送り込みの後に手動で封入物をデッキに送ります。

2 希望する設定のボタンを押します。

3 他のインサーターの設定を続けるか、インサーターの設定変更を終了する場合は、[画面終了] ボタンを押します。

詳細設定



1 [詳細設定]ボタンを押す。

2 以下のように、封入オフセット、停止位置、封緘遅延を調整します。

3 他のインサーターの設定を続けるか、インサーターの設定変更を終了する場合は、[画面終了] ボタンを押します。

封入オフセット

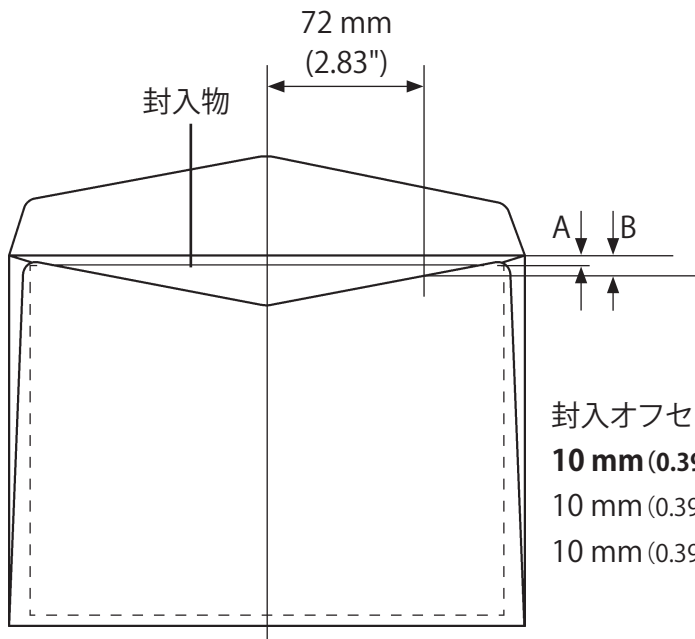
封入オフセットとは、フラップの折り目から封入物の外側の端(トレイルエッジ)までを測定した間隔であり、封入物が封筒内にどれだけ深く挿入されているかを示します。

封入物をより深く挿入したい場合は、封入オフセットを調整します。デフォルトでは、封入オフセットは10 mm(0.39インチ)です。矢印ボタンを押して、この値を調整します。

実際の封入オフセット(A)は、封入オフセット設定と停止位置設定の両方に影響されます。下の説明を参照してください。必要な実際の封入オフセットを求めるには、停止位置設定を確認して、以下の表に示す例に従って封入オフセットを調整します。

次ページに続く

封入オフセット



封入オフセット	停止位置	実際の封入オフセット
10 mm (0.39インチ)	8 mm (0.31インチ)	2 mm (0.08インチ)
10 mm (0.39インチ)	10 mm (0.39インチ)	0 mm (0.0インチ)
10 mm (0.39インチ)	12 mm (0.47インチ)	-2 mm (-0.08インチ)

注

実際の封入オフセット (A) が (B) を超えることはできません。(B) は、封筒の中央から72 mm(2.83") の位置で測った封筒のフラップの折り目からボトムフラップの端までの長さです。

停止位置

停止位置とは、封筒が開かれて封入が行われる前に封筒が停止している位置です。スロートオープナーでの封筒開けミスや封入ミス(エラーコード IN-0406 および IN-0311)が発生する場合は、封筒の停止位置を調整して、スムーズに封筒を開いて封入することができます。初期値は8 mm(0.31インチ)です。この値を大きくすると、封筒はより後の位置で停止します。矢印ボタンを押して、この値を調整します。

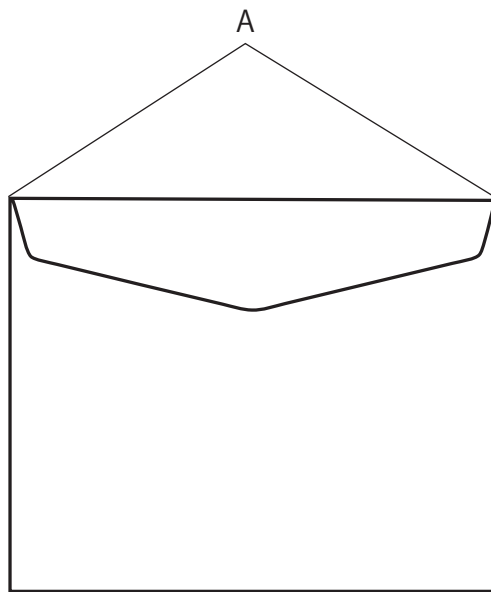
注

封入物を十分に深く挿入するために、停止位置を調整したときは、それに応じて封入オフセットも調整する必要があります。停止位置を大きくすると、実際の封入オフセットは小さくなります。詳細や例については、前述の封入オフセットを参照してください。

フラップの破れ

ヒンジライン[A]でフラップが破れる場合は、停止位置と封入オフセットを調整することで、この問題を解決できます。

- 停止位置を12 mm(0.47インチ) ~ 14 mm(0.55インチ)の間で設定します。
- 封入オフセットは10 mm(0.39インチ) ~ 14 mm(0.55インチ)の間で変化させることができます。



封緘ディレイ

封筒によっては、適切に封緘するために長めに圧力をかける必要があります。封筒の封緘がうまくいかない場合、封緘ディレイを調整してフラップをおさえる時間を長くすることができます。矢印ボタンを押して、この値を調整します。



封緘ディレイを調整する前に、前述の説明を参照し封緘水量を増やしてください。

メールフィーダーの設定

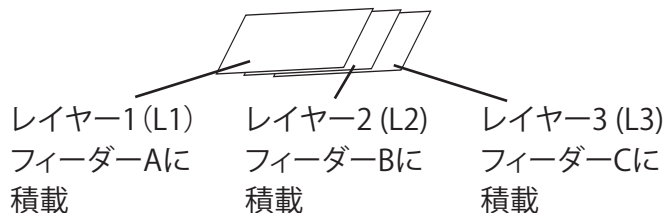
メールフィーダーは、ブックレットフィーダー、アキュムレーター、タワーフィーダー (6フィーダー) の最大8つのソースから給紙することができます。メールフィーダーの使い方は、ユーザーの要望に応じたジョブを設定するために、いくつかの方法があります。第二メールフィーダーは、第一メールフィーダーのフィーダー H に給紙されます。

レイヤー

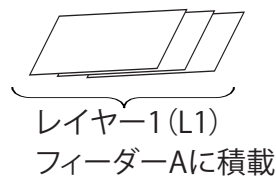
メールフィーダーの設定で示しているように、封入物は1～10のレイヤーで構成されています。1レイヤーのシート/冊子の最大枚数は60で、1回の封入におけるシート/冊子の総量は最大60枚までです。レイヤーの順序は、用紙を封筒に封入する順序に対応します。1つのレイヤーを挿入すると、新しいレイヤーが作成されます。既存のレイヤーを編集して、用紙サイズなどの設定を変更することができます。レイヤーの作成と編集方法についてはこのセクションの後半を参照してください。



3枚の用紙から成る封入セットを作成する際、各用紙を3つの異なるフィーダーに積載して丁合いする場合は、1レイヤーあたり1枚で3つのレイヤーを使用します。



3枚の用紙から成る封入セットを作成する際、1つのフィーダーから3枚ずつフィードして丁合いする場合は1レイヤーの枚数を3に設定します。



封筒に封入される用紙の順序はレイヤーの順序と同じです。メールフィーダーの設定に応じた用紙の順序については、以下のページの例を参照してください。

生産性を高めるには、フィーダーのアルファベットが昇順になるようにレイヤーの順序を設定します。



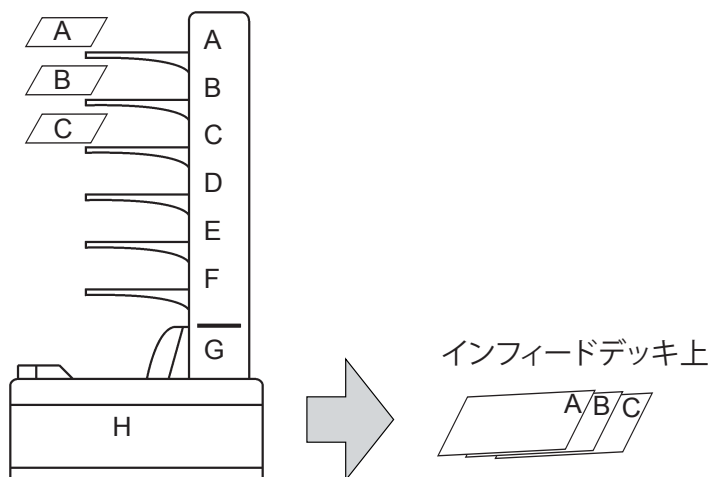
アルファベット昇順

メールフィーダーの設定の例



例1 - 丁合い

この例ではタワーフィーダーは丁合機として設定され、各フィーダーから1枚ずつ給紙されます。丁合後の用紙の順番はレイヤーの順番通りになります。

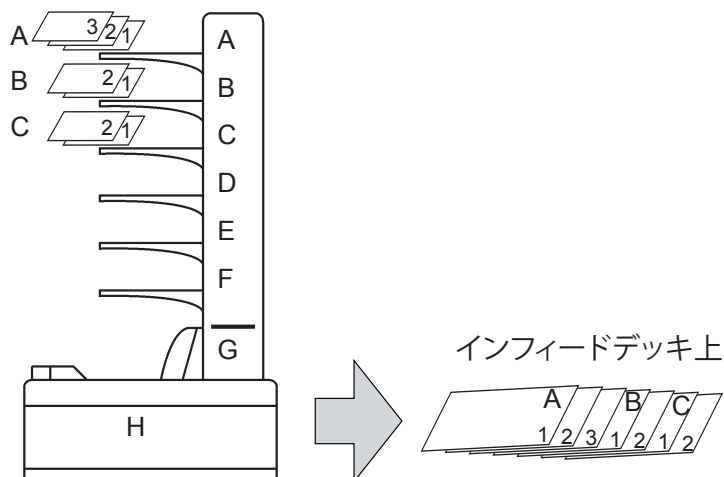


4.設定



例2 - 複数枚のフィード

タワーフィーダーは、この例のように各フィーダーから複数枚のシートを供給するフィーダーとして使用することも可能です。事前丁合い済みまたはページ順に印刷された内容物に使用することができます。



注

タワーフィーダーは、トップフィード、つまり、一番上のシートを最初に送り込みます。そのため、事前丁合い済みの用紙を複数枚フィードにて封入する場合、封筒の中で正しい順序に並べるためには、逆順に丁合されていなければなりません。

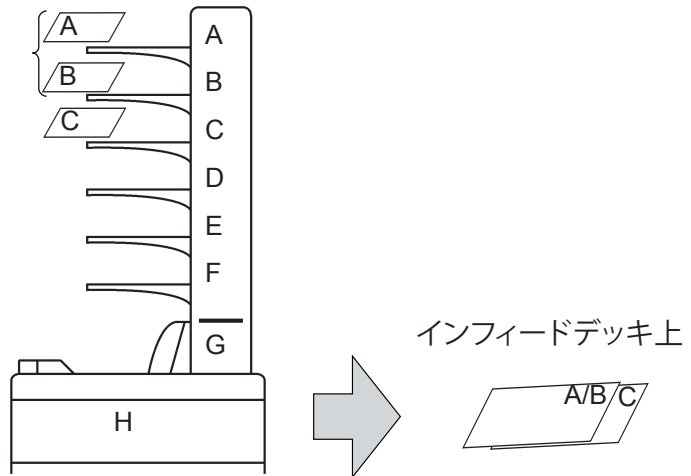
一方、ブックレットフィーダーはボトムフィード、つまり一番下の冊子/シートを最初に送り込みます。丁合い済みの封入物をブックレットフィーダーから送る場合は、用紙を封筒の中の順序と同じ順序で丁合いしておきます。

メールフィーダーの設定の例、続き



例3 – リンクフィーダー (カスケード)

この例のように複数のフィーダーをリンクし、レイヤー1に対してフィーダー AとB両方を選択することもできます。まずフィーダー Aから1枚ずつ用紙を送り、フィーダー Aが空になると、自動的にフィーダー Bに切り替わり動作を継続します。この設定を使用すると、機械の稼働中でも空になった方のフィーダーに用紙を補充することができます。



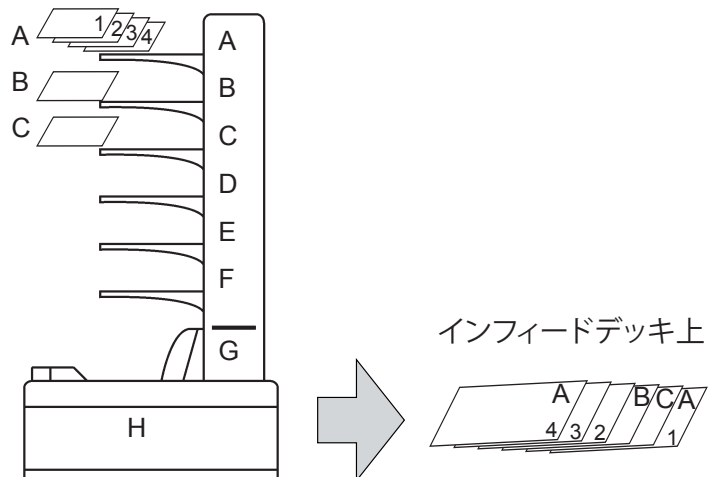
4.設定



例4

各フィーダーは、各ジョブ内で複数回使用することができます。この例では、フィーダー Aから1枚の用紙を送り込み、次にフィーダー Cから1枚、フィーダー Bから1枚を送り込んだ後、最後にフィーダー Aからもう3枚の用紙を送り込みます。

これは、丁合い済みの用紙のセットがすでにあり、そこに何枚かの追加の用紙を挿入したい場合に便利です。

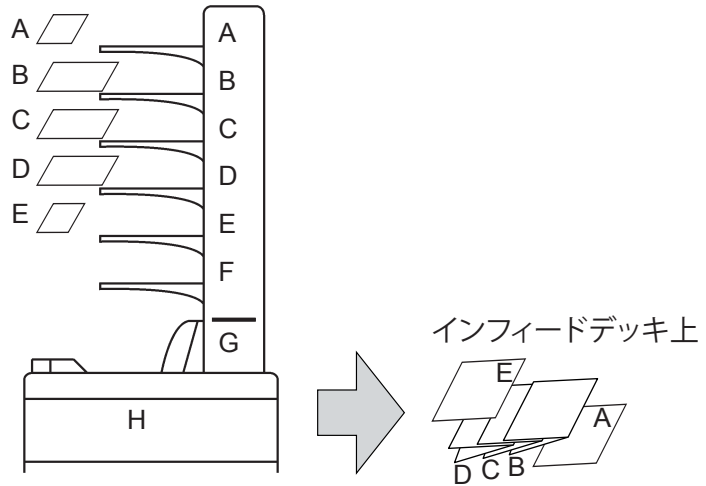


メールフィーダーの設定の例、続き



例5

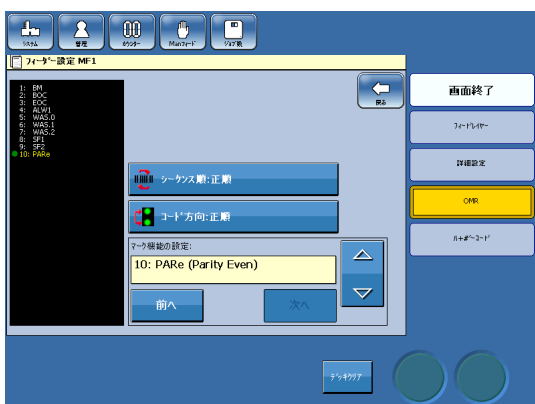
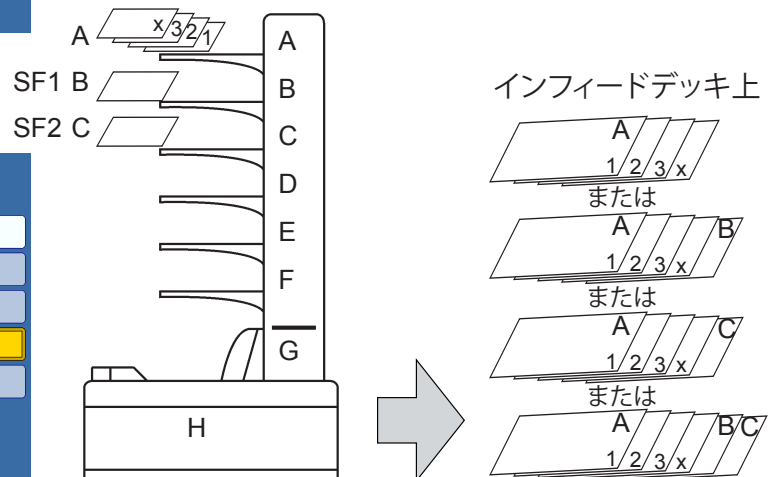
この例では、レイヤーが複数のフィーダーからの複数のシートで構成されます。フィーダー Aから1枚の用紙が送られ、フォルダーをバイパスし、インサーターに入ります。次にフィーダー B、C、Dからそれぞれ1枚の用紙がフォルダーに送られます。これらの用紙はフォルダーでまとめてV折りで折られ、それからインサーターに送られます。最後に、フィーダー Eから1枚の用紙が送られ、フォルダーをバイパスし、インサーターに入ります。



例6

典型的なスキャナーのセットアップ例。スキャンフィーダー (A)からは可変枚数をフィードし、Bおよび/またはCからは0枚、1枚または2枚の選択フィードをし、まとめ折りします。

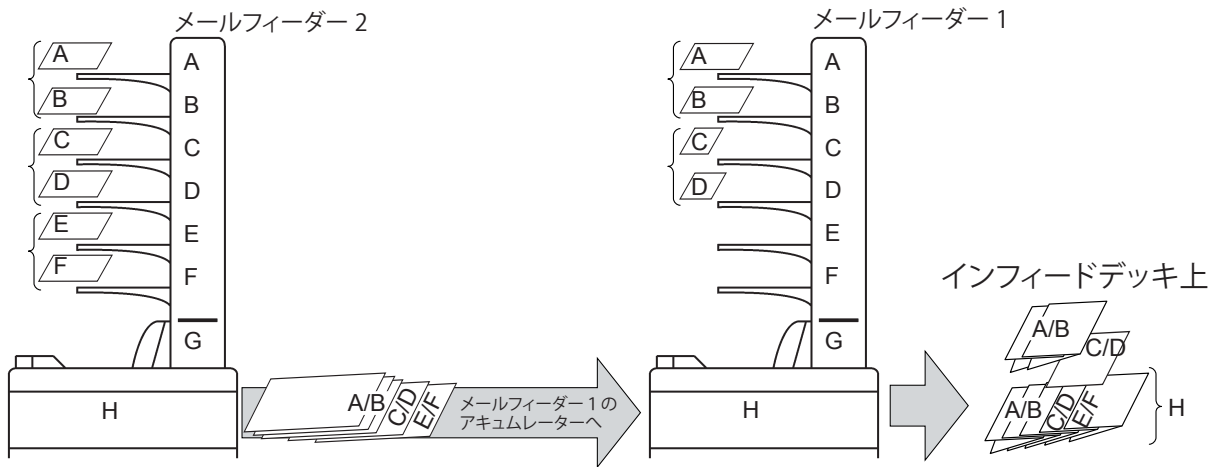
OMR/BCRコードは、インテグリティチェックやカウンターなどの安全機能を備え、セットごとの個別対応を実現し、フィードされた用紙1枚1枚の整合性を保証します。



メールフィーダーの設定の例、続き



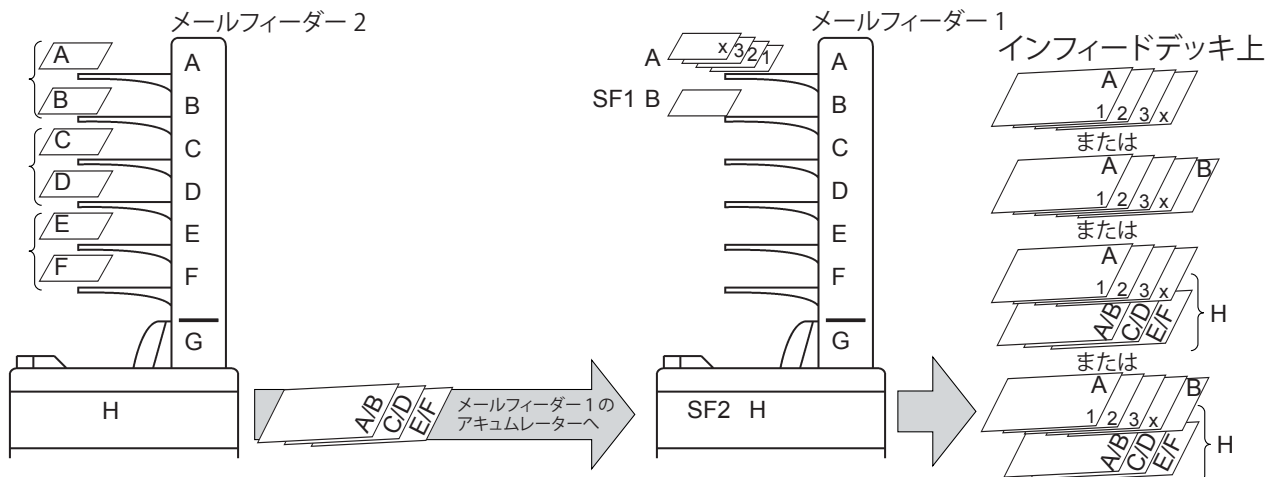
例7 - メールフィーダー 2台、OMR/BCRなし
 この例では、2台のタワーフィーダーを個別にフィーダーとコレータとして同時に使用しています。メールフィーダー 2はリンクフィーダー機能を使用しており、メールフィーダー 1では異なるサイズ用紙が混在しています。インフィードデッキに送られる用紙は、サイズや折りの有無が異なるものが混在しています。なお、メールフィーダー 2の丁合セットは分割してメールフィーダー 1側へ送り込むことはできません。



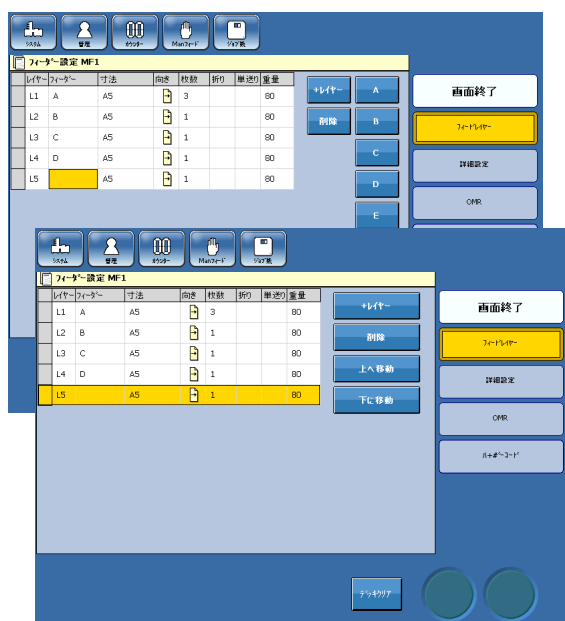
4.設定



例8 - 2台のメールフィーダーとOMR/BCRの場合
 スキャンフィーダー (A)からは可変枚数をフィードし、Bおよび/またはHからは0枚、1枚または2枚の選択フィードをします。メールフィーダー 1のフィーダー Hはメールフィーダー 2からくる丁合セットであり、ここでは選択フィードの対象として使用されています。なお、メールフィーダー 2の丁合セットは分割してメールフィーダー 1側へ送り込むことはできません。



新レイヤーの追加



- 1 メインスクリーンでメールフィーダーをタッチします。
- 2 [レイヤー]ボタンを押します。新しいレイヤーがリストの一番下に追加されます。
- 3 レイヤーの一番左側をタッチし、レイヤー全体が黄色で表示されるようにします。
- 4 [上へ移動]、[下へ移動]ボタンを使用して、レイヤーの位置を定めます。
- 5 「新レイヤーの設定」の説明を参照してレイヤーを設定してください。
- 6 [画面終了]を押します。

4.設定

レイヤーの編集



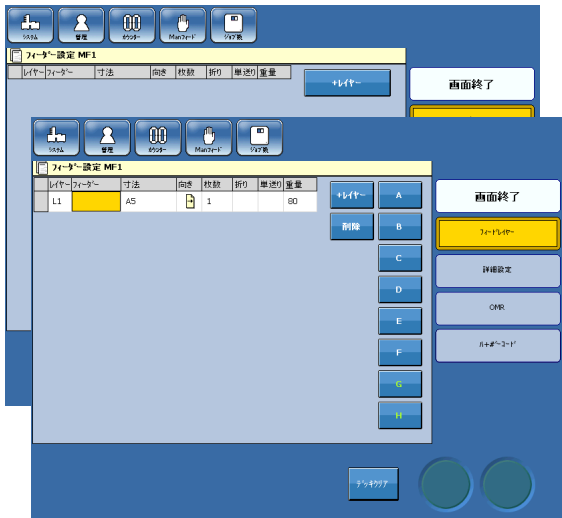
- 1 メインスクリーンでメールフィーダーをタッチします。
- 2 変更したい設定をタッチし、新しい設定を入力します。
各設定の詳細については、「新レイヤーの設定」を参照してください。
- 3 [画面終了]を押します。

レイヤーの削除



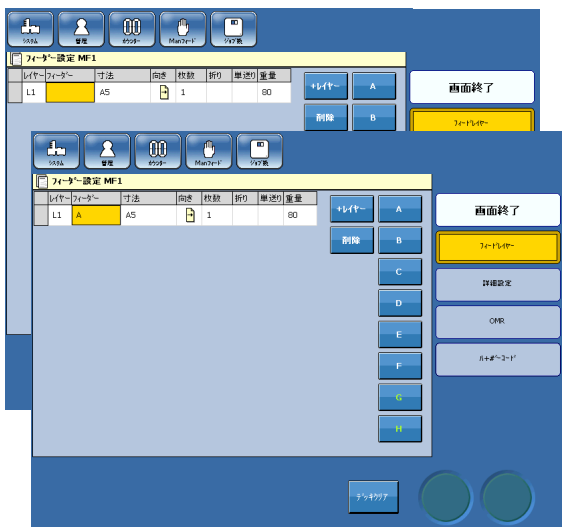
- 1 メインスクリーンでメールフィーダーをタッチします。
- 2 レイヤーの一番左側をタッチし、レイヤー全体が黄色で表示されるようにします。
- 3 [削除]ボタンを押します。
- 4 [画面終了]を押します。

新レイヤーの設定



- 1 メイン画面でメールフィーダーをタッチします。
- 2 [+レイヤー]ボタンを押します。新しいレイヤーがリストの一番下に追加されます。
- 3 該当するボックスをタッチし、設定または変更する項目を選びます。

フィーダーの選択



- 1 目的のレイヤーの「フィーダー」の列のボックスをタッチします。
- 2 該当するボタンを押して、使用するフィーダー (A～H) を選択します。選択したフィーダーを変更する時は、[削除] ボタンを押し、それから使用するフィーダーのボタンを押します。



- 3 この例のように複数のフィーダーをリンクし、レイヤー 1 に対してフィーダー A と B 両方を選択することもできます。フィーダー A が空になるまで、フィーダー A から 1 枚ずつ給紙されます。それからタワーフィーダーが自動的に切り替わり、フィーダー B から送り込みます。この設定を使用すると、稼働中に用紙を補充することができます。

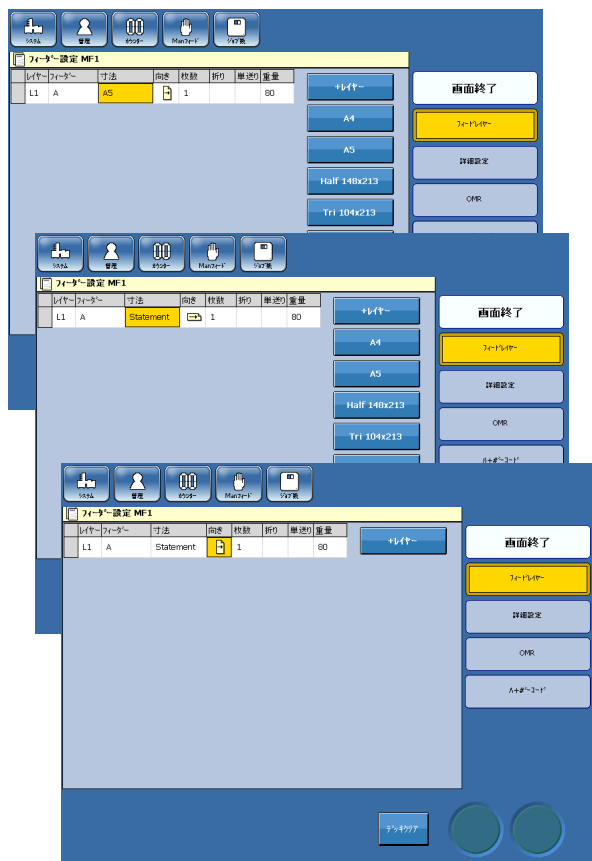
注

レイヤーごとに複数の選択を行うのはリンクしたフィーダー (カスケード) の場合のみであり、OMR/BCR 機能が「オン」にセットされている場合はフィーダー A でこの選択を行うことはできません。

- 4 続けて他のレイヤーについて変更を行うか、またはレイヤーでの設定変更が完了していれば [画面終了] を押します。

用紙のサイズと方向の設定

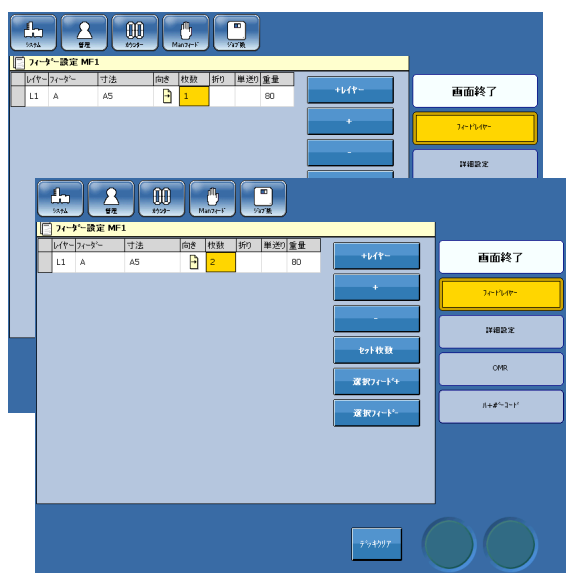
4.設定



- 1 目的のレイヤーの「寸法」の列のボックスをタッチします。
- 2 該当するボタンを押してサイズを選択するか、[次へ]または[前へ]ボタンを押し利用可能な用紙設定をスクロールにより選択します。
- 3 「向き」の列のボックスをタッチし、封入物の方向を選択します。
- 4 続けて他のレイヤーについて変更を行うか、またはレイヤーでの設定変更が完了していれば[画面終了]を押します。

注
カスタムサイズの用紙を作成するには、管理者としてログインする必要があります。

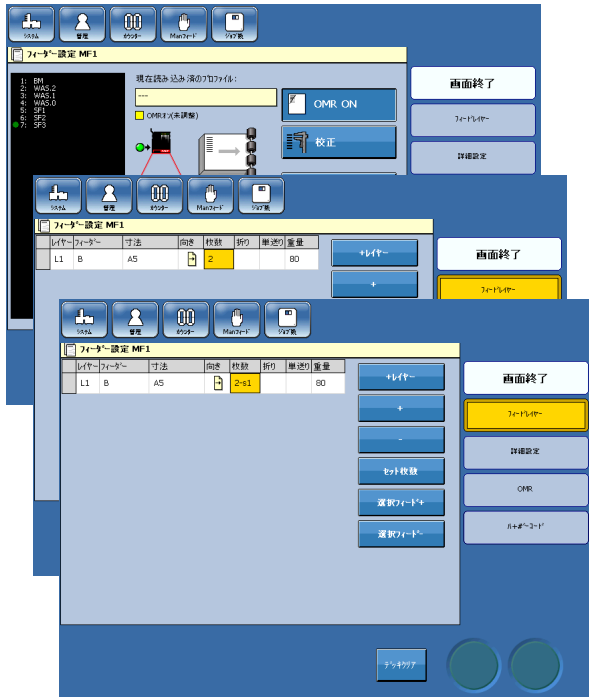
数量の設定



- 1 目的のレイヤーの「枚数」の列のボックスをタッチします。
- 2 [+]または[-]ボタンを押して数量を変更します。
- 3 続けて他のレイヤーについて変更を行うか、またはレイヤーでの設定変更が完了していれば[画面終了]を押します。

注
OMR/BCR機能がONに設定されている場合、フィーダー A の数量は必ず1にします。

選択フィード



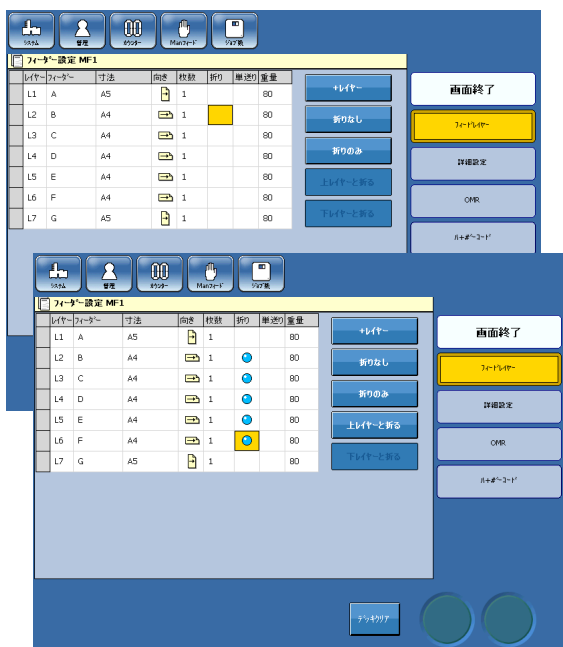
選択フィードとは、特定の封入物が実際の封入物セットに確実に追加されるようにするOMR/BCR機能です。選択フィードは、s1 から s7 の範囲で設定することができます。

- 1 目的のレイヤーの「枚数」の列のボックスをタッチします。
- 2 [選択フィード+]または[選択フィード-]ボタンを押して、選択される封入物が積載されたフィーダーとOMR/BCRマークの選択フィード番号が一致するように変更します。
- 3 続けて他のレイヤーについて変更を行うか、またはレイヤーでの設定変更が完了していれば [画面終了] を押します。

注

フィーダー A を選択フィードに設定しないでください。

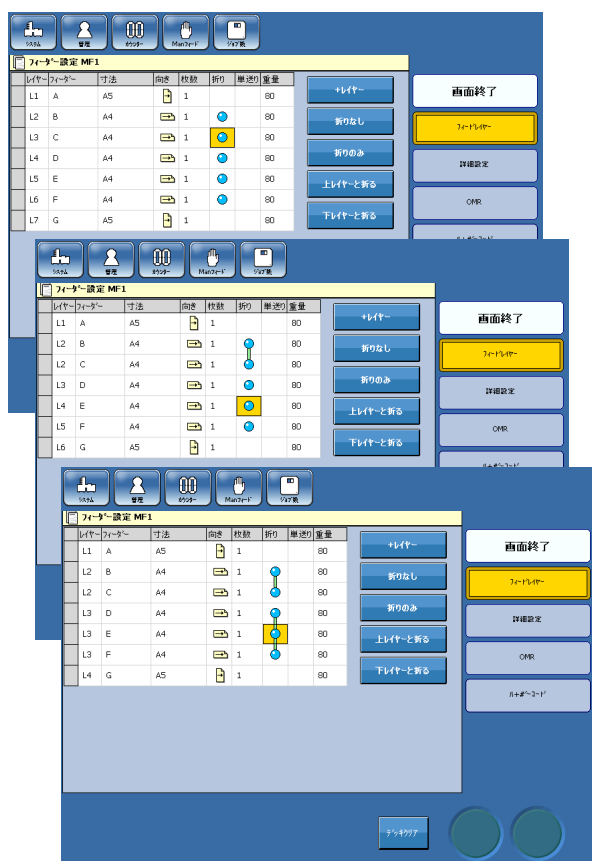
折る／折らないの選択



- 1 目的のレイヤーの「折り」の列のボックスをタッチします。
- 2 [折りのみ]ボタンを押して、折りの選択または選択の解除を行います。
- 3 続けて他のレイヤーについて変更を行うか、またはレイヤーでの設定変更が完了していれば [画面終了] を押します。

まとめ折りメニューの選択

4.設定



まとめ折りオプションにより、複数のレイヤーの用紙を重ねて折ることができます。

- 1 別のレイヤーとまとめ折りしたいレイヤーの「折り」の列のボックスをタッチします。
- 2 [上のレイヤーと折る]および/または[下のレイヤーと折る]ボタンを押します。
- 3 続けて他のレイヤーについて変更を行うか、またはレイヤーでの設定変更が完了していれば [画面終了] を押します。

注
まとめ折りするレイヤーは隣り合っていない必要があります。

単独フィードのオン/オフの選択

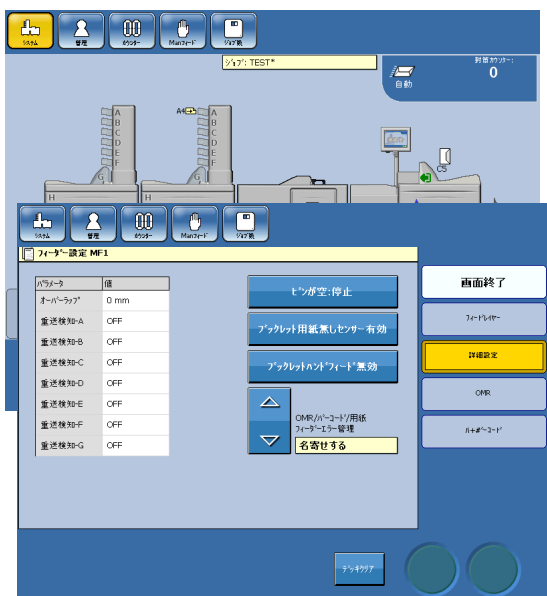


「単独フィード」を「はい」に設定すると、1つの用紙／冊子を送り込みデッキに送った後で、次の送りが開始します。これは「単独フィード」を「いいえ」に設定した場合と比べて時間がかかります。「いいえ」に設定すると、用紙／冊子を連続して送ることができます。

- 1 単独フィードしたいレイヤーの「単送り」の列のボックスをタッチします。
- 2 [はい]ボタンを押します。
- 3 続けて他のレイヤーについて変更を行うか、またはレイヤーでの設定変更が完了していれば [画面終了] を押します。

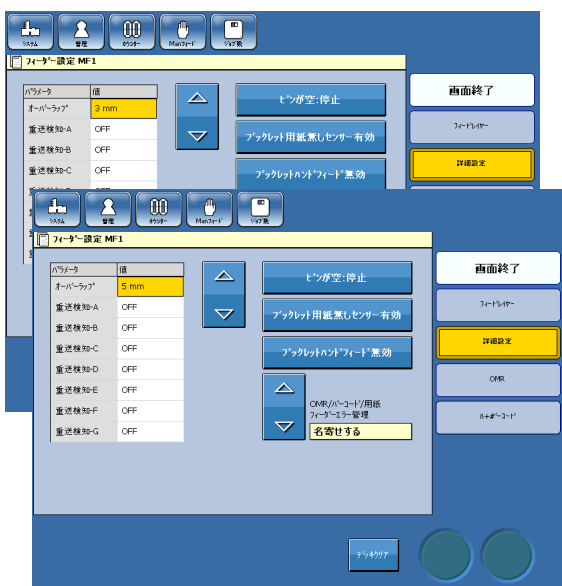
注
厚い冊子などを封入する場合は、問題を避けるため単独で送る必要があります。

詳細設定



- 1 メイン画面でメールフィーダーをタッチします。
- 2 [詳細設定]を押します。
- 3 設定・変更したい項目のボタンをタッチして選択します。
以下の手順を参照してください。

オーバーラップ



デフォルトでは、封入物はわずかにオーバーラップして送り込みデッキに送られます。光沢紙を使用するときは、場合によっては封入時や封緘時の問題を避けるためにこのオーバーラップを大きくする必要があります。初期値は3 mm(0.12インチ)です。

- 1 [詳細設定]ボタンを押します。
- 2 「オーバーラップ」の表示の横にあるボックスをタッチします。
- 3 オーバーラップを設定するには、上/下矢印ボタンを押します。
- 4 続けて他のレイヤーについて変更を行うか、またはレイヤーでの設定変更が完了していれば[画面終了]を押します。



オーバーラップを小さくした場合



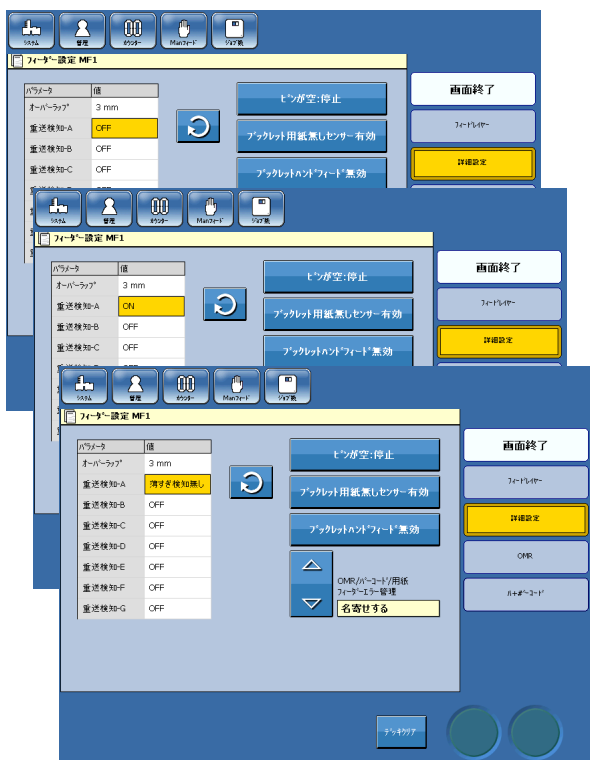
オーバーラップ値を大きくした場合

注

この調整は、稼働中にも行うことができます。

DSD (重送検知)

4.設定



重送検知 (DSD) には、3種類の設定があります。

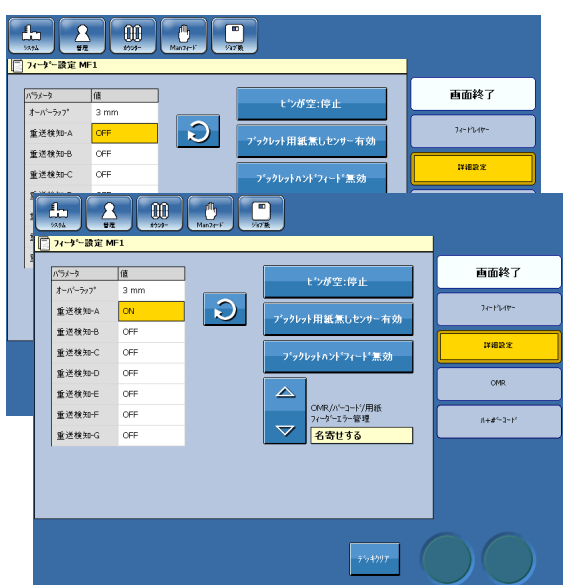
「OFF」—用紙の透明度のばらつきが大きく、メールフィーダーが誤ったダブルの表示を出す場合は、重送検知 (DSD) のスイッチをオフにすることができます。DSDセンサーは、シートが長すぎるか短すぎるかだけをチェックします。

「ON」—重送検知がオンの時は、シートが長すぎ、短すぎ、薄すぎ、あるいは厚すぎるかどうかをチェックします。

「薄すぎ検知無し」—用紙の透明度のばらつきが大きく、メールフィーダーが誤った薄すぎの表示を出す場合に、それでもダブルシートの検知を行いたい時に使用します。重送検知を「薄すぎ検知無し」に設定します。DSDセンサーは、シートが長すぎないか、短すぎないか、または厚すぎないかだけをチェックします。

次ページに続く

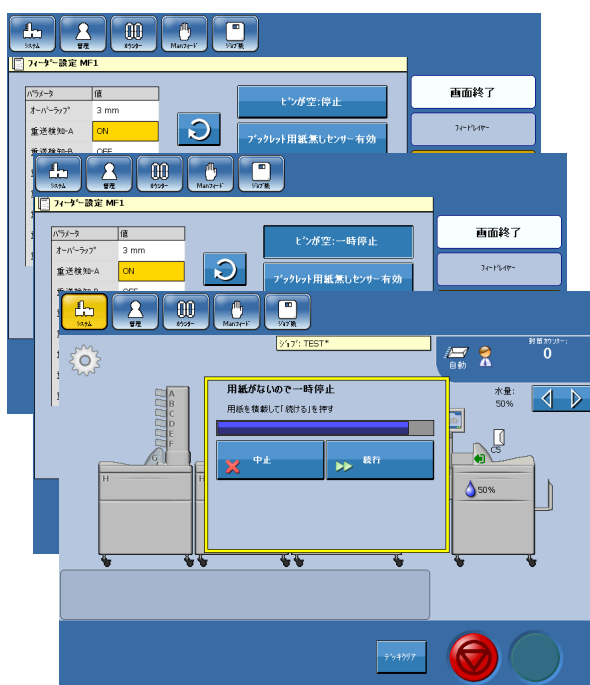
DSD (重送検知)、続き



DSD (重送検知)は以下の方法で設定します。

- 1 [詳細設定]ボタンを押します。
- 2 該当するフィーダーの「値」の列のボックスをタッチします。
- 3 ループ矢印ボタンを押して、希望の設定を選択します。
- 4 続けて他のレイヤーについて変更を行うか、またはレイヤーでの設定変更が完了していれば [画面終了] を押します。

用紙無し時の停止または一時停止

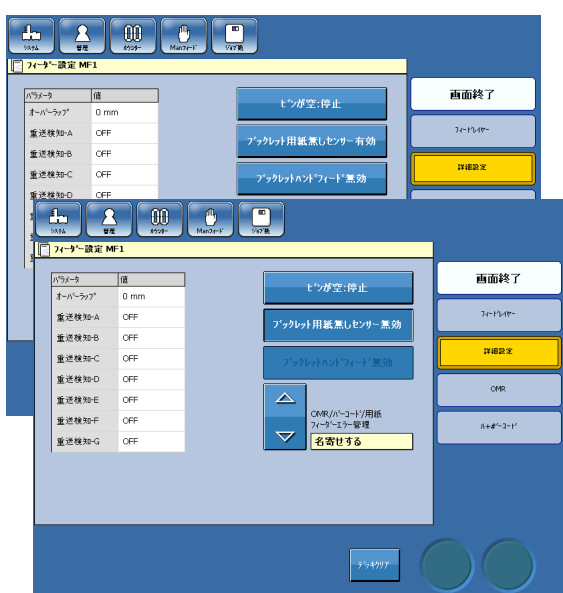


フィーダーが空になったときに、システムを停止するか一時停止するかを選択することができます。初期値では、システムを停止する設定になっています。代わりに、システムを一時停止しフィーダーへの用紙補充ができるようにするには、「フィーダーが空：一時停止」を選択します。「フィーダーが空で一時停止」というメッセージが表示されたら、空になったフィーダーに用紙を補充してから[続行]ボタンを押します。1分以内にフィーダーに用紙が補充されなければ、システムは停止します。

設定の変更方法

- 1 [詳細設定]ボタンを押します。
- 2 [フィーダーが空：停止/一時停止]ボタンをタッチし、設定を変更します。
- 3 続けて他のレイヤーについて変更を行うか、またはレイヤーでの設定変更が完了していれば[画面終了]を押します。

ブックレット用紙無しセンサー

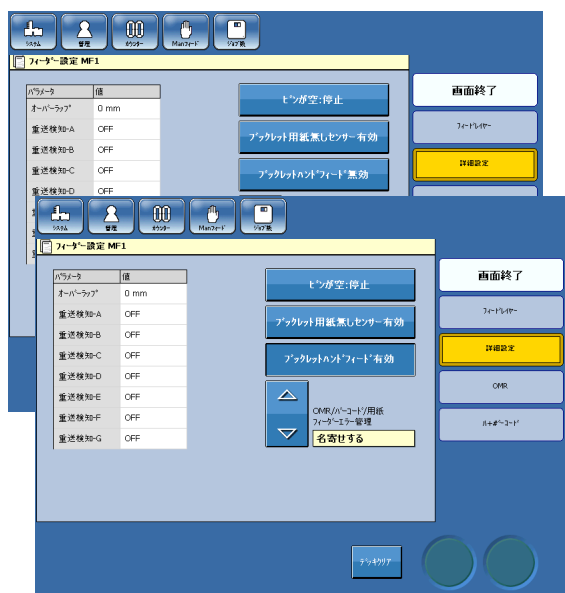


ブックレット用紙無しセンサー機能を有効にすると、ブックレットフィーダーの材料がなくなったことを検知してシステムが停止します。表紙の色が黒や濃い色の冊子など、センサーが感知しにくい冊子を給紙した場合、センサーが誤って空と判断してシステムを停止することがあります。それを避けるために、[ブックレット用紙無しセンサー有効]ボタンを押して、機能を無効化することができます。ボタンを押すと[ブックレット用紙無しセンサー無効]に切り替わります。

注

ブックレット用紙無しセンサーを無効にすると、ブックレットハンドフィード機能も利用できなくなります。[ブックレットハンドフィード有効/無効]ボタンは使えなくなります。

ブックレットハンドフィード



手差し給紙を行うには、「ブックハンドフィード」機能を有効にする必要があります。その場合は、[ブックレットハンドフィード無効]ボタンを押し、[ブックレットハンドフィード有効]と表示されるようにしてください。この機能を有効にすると、メールフィーダーは給紙動作を開始する前に、センサーが作動する(カバーされる)のを待ちます。

注

ブックレットハンドフィード機能は、ブックレット用紙無しセンサー(上記参照)が有効な場合にのみ有効にすることができます。

1分以内にセンサーがカバーされないと、システムは自動的にサイクルを停止します。

OMR/バーコード/用紙フィーダーエラー管理



この機能により、ユーザーはエラー管理を3つの選択肢から選択することができます。

- 封緘しない
- 停止
- セット回収

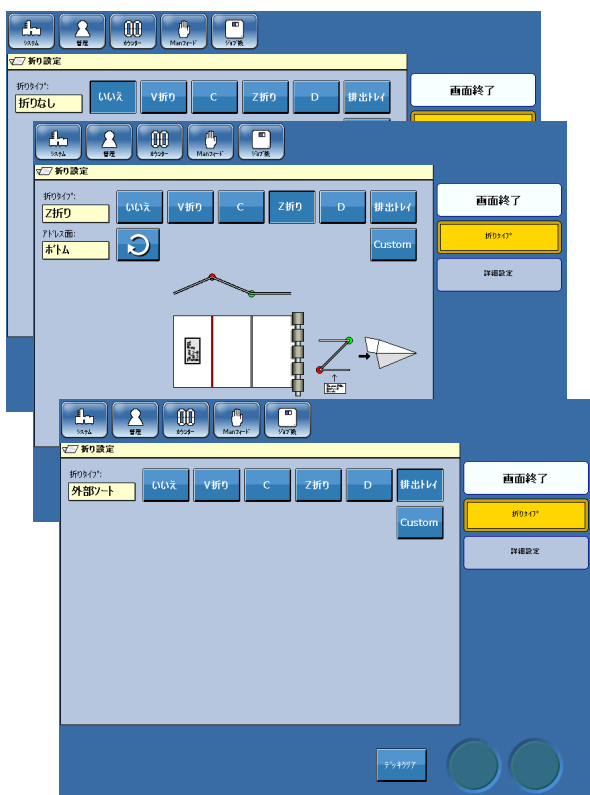
この3つのオプションは、上下の矢印を押すことで切り替わります。

スタンドアロンモードでは、リーダーが誤読を検知した時点で以下のように動作します。

- 「封緘しない」を選択した場合、システムはジョブの処理を続行し、欠陥のあるセット一式を封筒に挿入しますが封緘せずに排出します。
注! 「封緘しない」オプションが使用され、システムにダイバートモジュールが含まれていない場合は、注意が必要です。
- 「停止」を選択した場合、誤読後すぐに処理を停止し、メッセージを表示します。
この場合、オペレータは
 1. インフィードデッキのハッチを開けて、紙を取り除き、
 2. 該当セットの残りのページをフィーダー上から取り除きます。
- 「セット回収」を選択した場合、システムは封筒の搬送を停止し、不具合のあるセット一式をインフィードデッキまで搬送し封筒に挿入せず停止します。
この場合、オペレーターはインフィードデッキのハッチを開けて紙を取り除く必要があります。

マルチファンクションフォルダーの設定

フォルダーには3種類の基本機能があります。4つの折りタイプのどれかで折りを行う、折らない場合はバイパスする、そしてメールフィーダーから送られる封筒や封入物のスタッカーとして使用する、の3つの機能です。



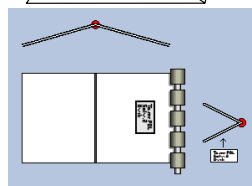
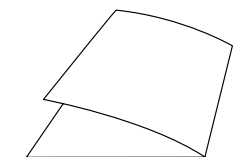
- 1 メインスクリーンでフォルダーをタッチします。
- 2 フォルダーを無効にするには、[バイパス] ボタンを押します。この操作は、フォルダーで用紙や封入物セットを折らない場合に行います。

フォルダーを有効にするには、[V折り]、[C折り]、[Z折り]または[D折り] ボタンを押します。各折りタイプについては、後述の説明をご参照ください。

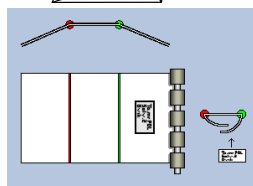
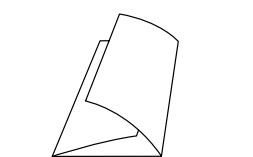
フォルダーをメールフィーダー用のスタッカーとして用いる場合は、[排出トレイ] ボタンを押します。封入物セットまたは用紙はフォルダーの上にある排出トレイに送られます。

- 3 [画面終了] ボタンを押す。
- 4 テストを実行します。必要な場合は、折り長さとアドレス位置を調整します。

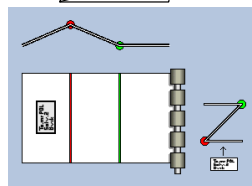
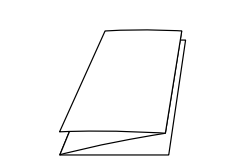
折りタイプ



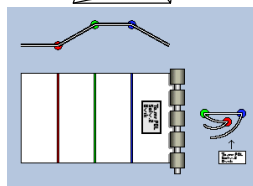
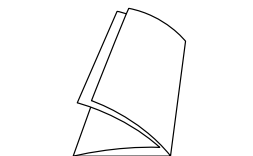
V折り



C折り



Z折り



D折り

フォルダーでは4種類の折りを行うことができます。

V折り — シートを一度折ります。

C折り — 内三つ折りになるように用紙を二度折ります。

Z折り — 外三つ折りになるように用紙を二度折ります。

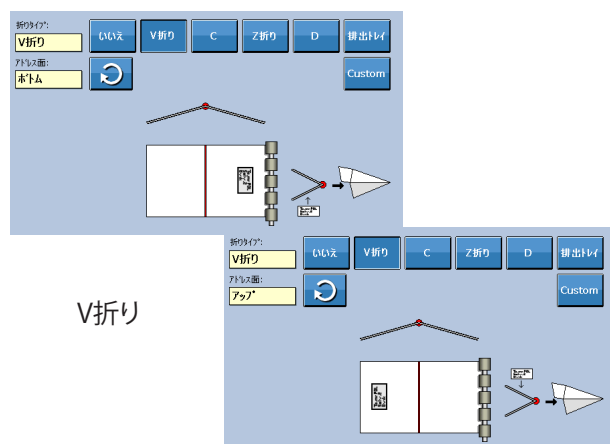
D折り — シートを二度V折りにします。

Custom — 設定によりカスタム折りを作成することができます。

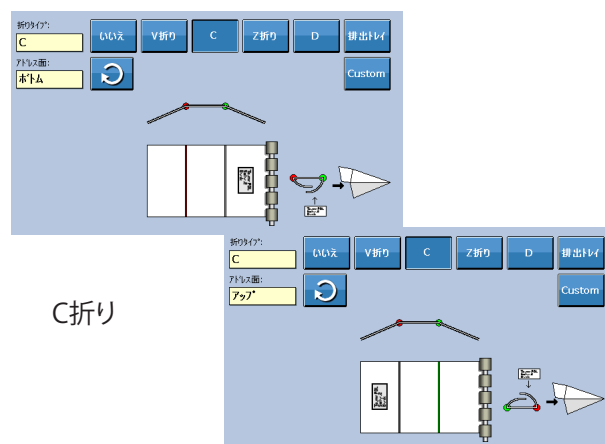
シートの位置決め

「アドレス面」の横にある円形の矢印ボタンを用いて、折り済みの用紙が送り込みデッキに達した時にアドレスの位置が上面と下面のどちらになるかを設定します。ユーザーインターフェースで、必要な結果を得るためのフィーダーでの積載方法がグラフィック表示されます。

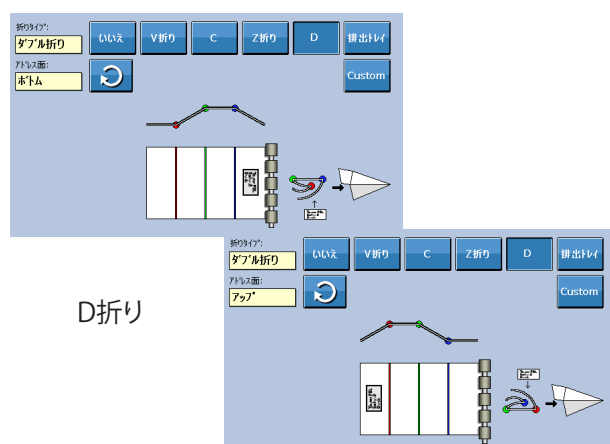
4.設定



V折り

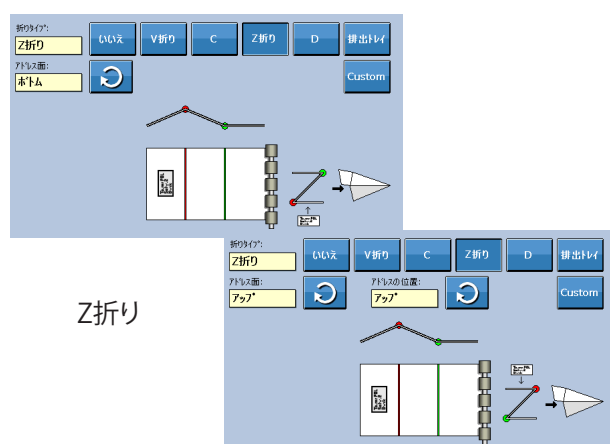


C折り

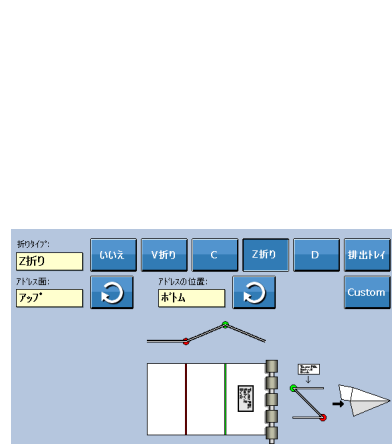


D折り

Z折りについても同様ですが、アドレスを上面にすることを選択した場合に左右対称な2種類の折り方が可能です。

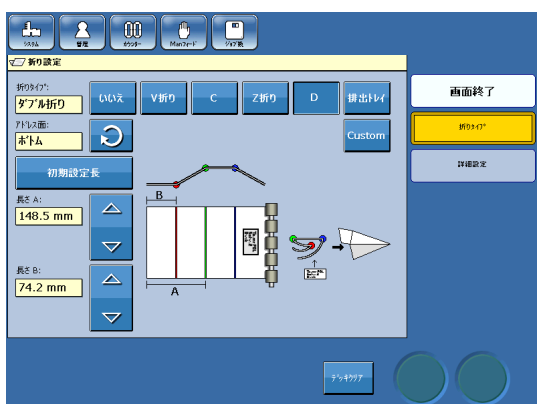
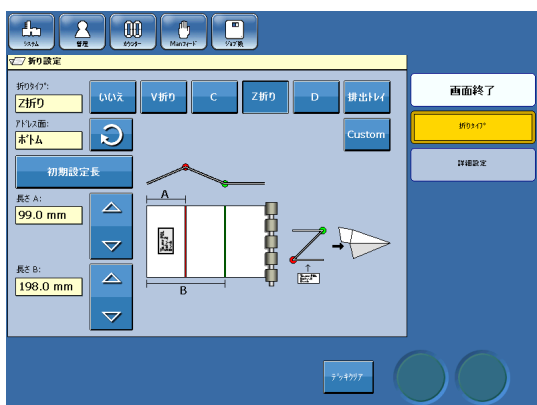
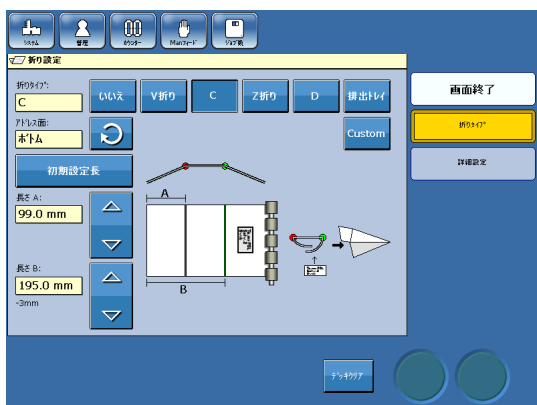
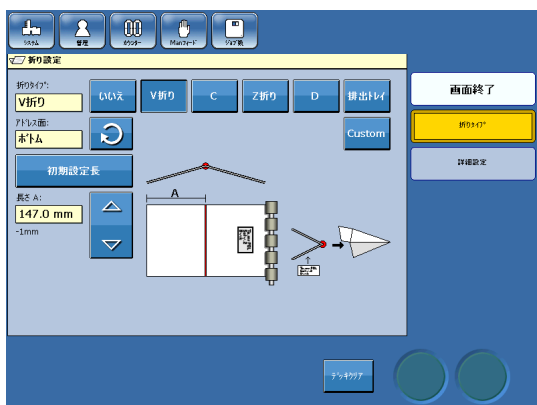


Z折り



折り長さの調整

封筒内でのアドレスの位置をより正確に設定するために、折り長さを調整することができます。折りタイプに応じて、長さを1種類または2種類調整します。



- 1 メインスクリーンでフォルダーをタッチします。
- 2 折り長さを希望の長さに変更します。
- 3 [画面終了]ボタンを押します。
- 4 テストを実行します。
- 5 満足な結果が得られるまで、上記の操作を繰り返します。

詳細設定

マルチファンクションフォルダーの仕様に定められた数を上回る用紙を含む封入物セットを折る場合は、これを分割することができます。



1 メインスクリーンでフォルダーをタッチします。

2 [詳細設定]ボタンを押します。

3 矢印ボタンを用いて、何枚でセットを分割するかを設定します。

注

9項参照。まとめ折りが可能な最大用紙数について詳しくは仕様 セクションを参照してください。

4 [画面終了]ボタンを押します。

5 テストを実行します。

OMR

OMR - 光学式マーク認識または光学式マーク読み取り - では、事前に決められた位置にマークがあるかないかを検出するために用紙のスキャンを行います。OMR機能は、あらゆるOMRコードにマッチするようフレキシブルにプログラム可能です。

OMR機能は主に以下二つの目的に分けられます。それは安全機能と機器制御機能です。

安全機能

安全機能は、OMRによる完全で正確なコードの読み取りを実施し、送られる各用紙の整合性を確保するための機能です。

イグノア (IGN)

特定のマークを無視することを命令する機能です。使用されるOMRコードにシステムがサポートしていないマークがある時、または特定のマークを無視することが望ましい時にこの機能を使用します。

パリティ偶数 (PARE)

パリティ偶数設定時は、毎回の読み取り時のマーク数の合計が偶数である必要があります。実際のマークの数が奇数の場合は、「PARE」を用いてマークを一つ追加し、マークの総数を偶数にします。

パリティ奇数 (PARo)

パリティ奇数設定時は、毎回の読み取り時のマーク数の合計が奇数である必要があります。実際のマーク数が偶数であれば、PARoを使ってマークを追加し、合計のマーク数を奇数にします。

ラップアラウンドシーケンス (WAS)

この機能は、各シート上の定義された特定のマークが**シーケンス内**の正しい順番に従っているかどうかを確認するカウンターです。

このカウンターは開始または終了は選択した値で行いますが、送られる用紙1枚につき1ずつ増加または減少します。終了値に達した場合、カウンターは再び最初から開始されます。

この動作が、処理するセット数に関係なく、送り込みシーケンス全体で継続します。

カウンターは2進法で行われ、読み取り方向によっては結果に差が生じるため、読み取り方向を指定する必要があります。

バイナリーコードの100を左から右へ読むと1になります。

同じバイナリーコードを右から左に読むと、4になります。

常時無し(0) (ALW0)

この機能は完全性をチェックします。OMRプロファイルで「常時無し(0)」が定義されていれば、リーダーは各用紙のこの位置で0(ゼロ)を期待します。それ以外の場合は、完全性エラーとみなされます。

常時あり(1) (ALW1)

この機能は完全性をチェックします。OMRプロファイルで「常時有り(1)」が定義されていれば、リーダーは各用紙のこの位置で1を期待します。それ以外の場合は、完全性エラーとみなされます。

セット内照合 (SI)

この機能ではセット内照合をチェックします。同一封筒に入るシートは、セット内すべてのシートに同じ照合値があることを確認します次のセットでは、照合値は違う値でなくてはなりません。どのように違うかは重要ではありません。下の例を参照してください。

セット	シート	SI 値
1	1	111
1	2	111
1	3	111
2	4	000
3	5	100
3	6	100

セット内シーケンス (SSQ)

この機能は、各シート上の定義された特定のマークが**セット内**で正しい順番で並んでいるかどうかをチェックするカウンターです。WASとの違いとしては、SSQの場合はセットごとに最初からカウントが開始されます。

このカウンターは開始または終了は選択した値で行いますが、送られる用紙1枚につき1ずつ増加または減少します。EOCマーク(後述の説明参照)に達すると、カウンターは次のセットで再び最初から開始されます。

この動作が、行われた封入数に関係なく、送り込みシーケンス全体で継続します。

カウンターは2進法で行われ、読み取り方向によっては結果に差が生じるため、読み取り方向を指定する必要があります。

バイナリーコードの100を左から右へ読むと1になります。

同じバイナリーコードを右から左に読むと、4になります。

機器制御機能

機器制御機能は、個別の封入セットの扱い方についてシステムに指示を出す機能です。

開始ページ(BOC)

このマークは、新しいセットの開始を示します。フィーダーは、セット終了マーク(EOS)が検出されるまで、用紙を送ります。

終了ページ(EOC)

このマークはセットの終了を示します。このマークが検出されると、セットはジョブに設定されたとおりに扱われます。例えば、折られて、それから封筒に挿入されます。

選択フィード1~7(SF1~7)

このマークが検出されると、選択された1つ以上の封入物が実際のセットに追加されます。新たなSFxマークが検出されない限り、次のセットには封入物は一切追加されません。

注

SFx マークは、新しいセットの最初のシート上に**必ず必要**なマークです。

ハンドフィード最後(HFI)

「ハンドフィード最後」とは、挿入前にセットの一番上に手動で追加される封入物が実際のセットにあることを意味します。このマークが検出されると、実際のセットは、インサーターの送り込みデッキ上で一時停止します。インフィードデッキデッキのインターロックは解除されます。インフィードデッキのカバーを開けて封入物を手動で追加し、それからフットペダルを押してサイクルを完了させます。

注

HFIマークは、新しいセットの最初のシートに**必ず必要**なマークです。

ハンドフィード最初(HFf)

「ハンドフィード最初」とは、挿入前にセットの一番下に手動で追加される封入物が実際のセットにあることを意味します。このマークが検出されると、システムは一時停止し、インフィードデッキインターロックは解除されます。これで、オペレーターはインフィードデッキのカバーを開けて、送り込みデッキに封入物を入れることができます。フットペダルを踏むと、システムはそのサイクルを完了します。

注

HFfマークは、新しいセットの最初のシートに**必ず必要**なマークです。

ダイバートフィニッシュ(DVF)

このマークが検出されると、実際のセットは、封筒を**封緘せず**に処理されます。新たなDVFマークが検出されない限り、次のセットでは封筒は封緘されます。



DVFマークは、新しいセットの最初のシートに**必ず必要**です。

ダイバートデッキ (DVD)

このマークが検出されると、実際のセットはフォルダーの排出トレイに搬送されます。次のセットは、新しいDVDマークが検出されない限り、プログラム通りに処理されます。



DVDマークは、新しいセットの最初のシートに**必ず必要**なマークです。

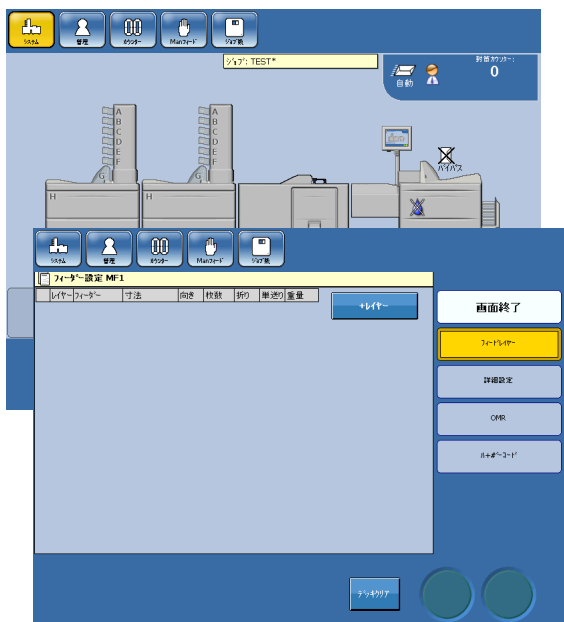
ストップ(ST)

このマークが検出された場合、実際のセットの処理後にシステムが停止します。



STマークは、新しいセットの最初のシートに**必ず必要**なマークです。

OMRプロファイルの作成

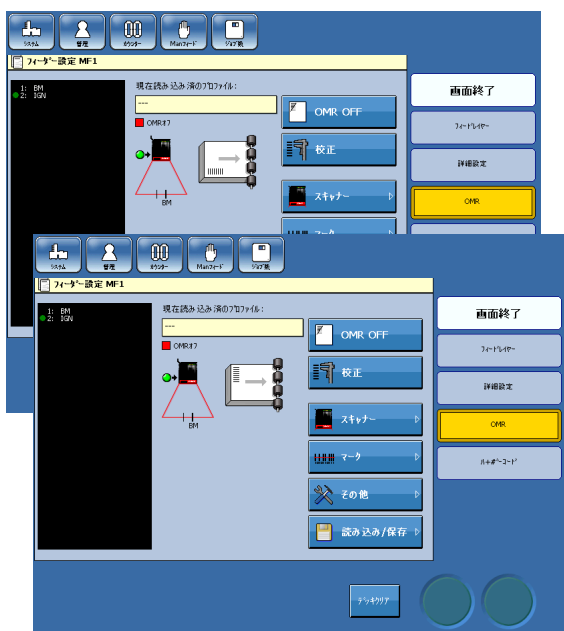


マーク数ならびに各マークの機能を決定するために、ジョブに対するOMRコードの仕様をチェックします。

- 1 メインスクリーンで、フィーダーをタッチします。
- 2 [OMR]ボタンをタッチします。

注：
また、本書の「メールフィーダーの設定」の「詳細設定」にあるエラー管理の設定を行ってください。

OMRマーク読み取り方向の定義

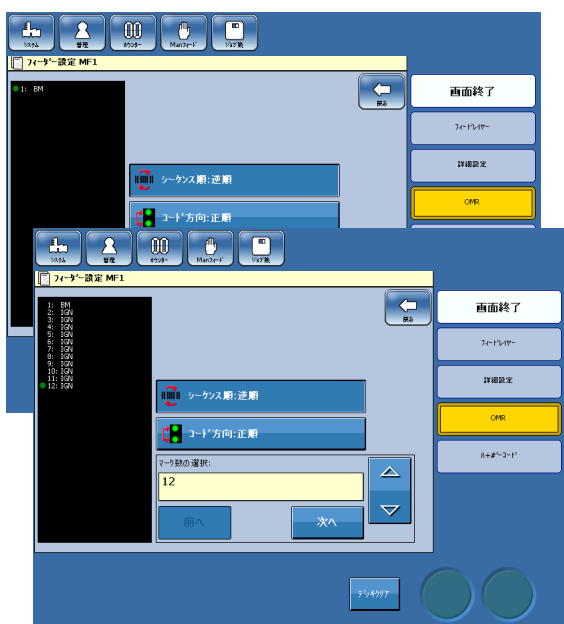


- 1 画面上の紙の束の図を押して、OMRマークの読み取り方法がラダー型とピケットフェンス型(説明は9仕様を参照)のいずれであるかを定義します。

OMRマーク数の設定



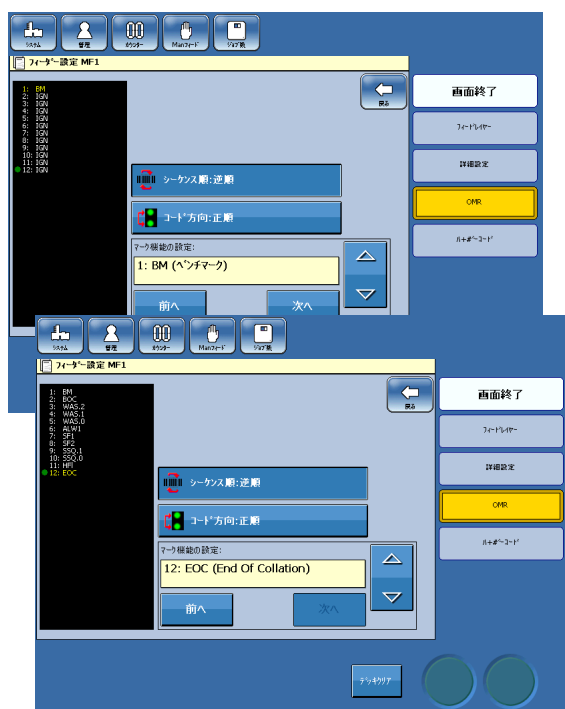
1 [マーク]ボタンをタッチします。



2 マーク数を矢印ボタンで選択します。
続けて、OMRのマークを定義します。

4.設定

OMRマークの定義



OMRマークの数を設定したら、[次へ] ボタンを押して、各マークの機能を設定します。選択したマークは黄色い文字で表示されます。矢印ボタンを押して、機能を選択します。

再び[次へ] ボタンを押して次のマークを選択し、それから矢印ボタンを押してそのマークの機能を選択するという操作を続けます。

注

最初にプログラムするマークは、常にBM(ベンチマーク)にします。

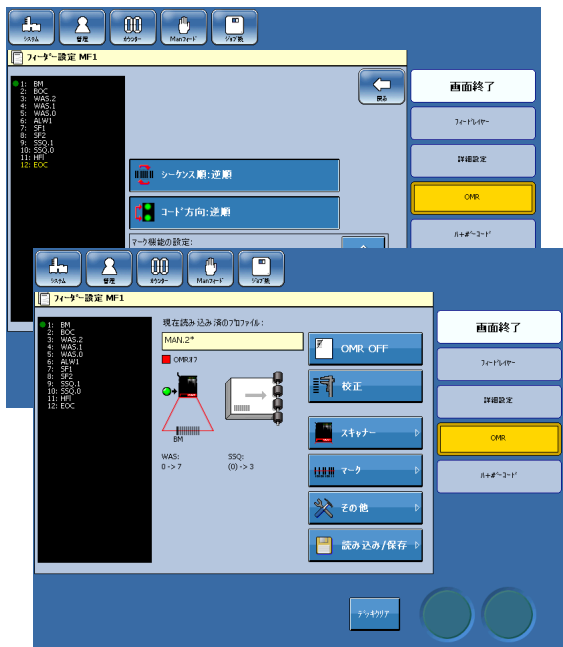
続けて、OMRコードの方向を設定します。



以下のリストは、利用可能なすべての機能とその表示順を示しています。

- 1 IGN (イグノア)
- 2 BM (ベンチマーク)
- 3 PARe (パリティ偶数)
- 4 PARo (パリティ奇数)
- 5 WAS (ラップアラウンドシーケンス)
- 6 BOC (開始ページ)
- 7 EOC (終了ページ)
- 8 NBOC (Not開始ページ)
- 9 NEOC (Not終了ページ)
- 10 ALW0 (常時無し(0))
- 11 ALW1 (常時有り(1))
- 12 SF1 (選択フィード1)
- 13 SF2 (選択フィード2)
- 14 SF3 (選択フィード3)
- 15 SF4 (選択フィード4)
- 16 SF5 (選択フィード5)
- 17 SF6 (選択フィード6)
- 18 SF7 (選択フィード7)
- 19 SI (セット内照合)
- 20 S SQ (セット内シーケンス)
- 21 HFf (ハンドフィード最初)
- 22 HFf (ハンドフィード最後)
- 23 DVF (ダイバートフィニッシュ)
- 24 DVD (ダイバートデッキ)
- 25 ST (ストップ)

OMRコード方向の設定



すべてのマークが定義されたら、コードの方向、すなわち、OMRリーダーの緑色のマークに対してスタートマークがどこにあるかを設定する必要があります。この設定は、「読取方向」ボタンを押すか、「戻る」ボタンを押した後でビームをタッチすることで実行できます。OMR機能リスト中の緑のドットは、OMRコードの読み取りがどの方向から行われるかを示します。また変更時には、「読取方向」も「標準」と「逆」の間で変更されます。

続けて以下を行います。

WASおよび/またはSSQカウンターの設定(設定している場合)。

または
OMRプロファイルの保存

4.設定

WASおよび/またはSSQカウンター

4	2	1	合計
0	0	0	0
0	0	1	1
0	1	0	2
0	1	1	3
1	0	0	4
1	0	1	5
1	1	0	6
1	1	1	7

バイナリカウント

逆方向	WAS2	WAS1	WAS0	通常方向
0	0	0	0	0
4	0	0	1	1
2	0	1	0	2
6	0	1	1	3
1	1	0	0	4
5	1	0	1	5
3	1	1	0	6
7	1	1	1	7

通常方向と逆方向でのOMRカウント

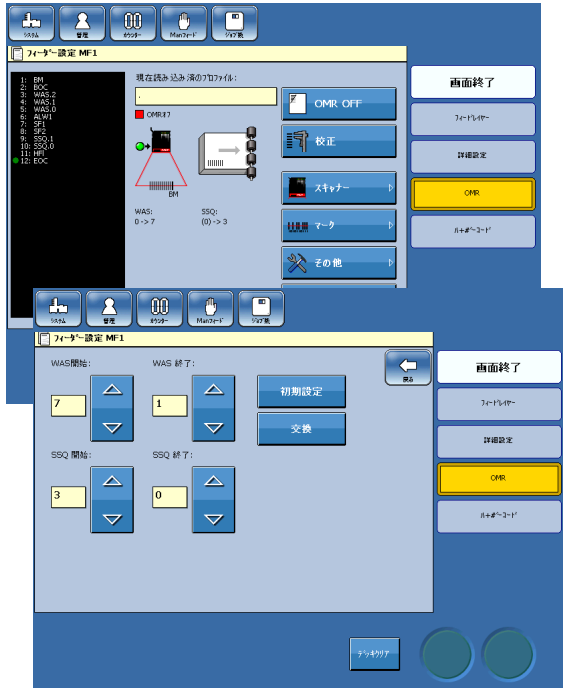
WAS (ラップアラウンドシーケンス)またはSSQ (セット内シーケンス)などのカウンターがOMRコードに含まれている場合は、方向と合わせて最小(開始)値と最大(終了)値を設定する必要があります。

WASカウンターとSSQカウンターはいずれも2進カウンターです。2進法では、0と1の2つの数字しか使用されません(OMRの場合は、マーク無しかマーク有り)最初の数字(マーク)は値1、次は値2、次は値4という順になります。2進法で左に数字をカウントすると同様に、通常は右から左に合計を計算します。したがって、3桁の2進コードは、0から7までの8つの値を持つことができます。

(WASカウンターを例として)左に示すOMRカウント数を見ると、各方向からカウントした際の値の違いが良くわかります。同じことがSSQカウンターにもあてはまります。

次ページに続く

WASおよび/またはSSQカウンター、続き



1 最小(開始)値と最大(終了)値ならびに読み取り方向を設定するには、[その他] ボタンを押します。

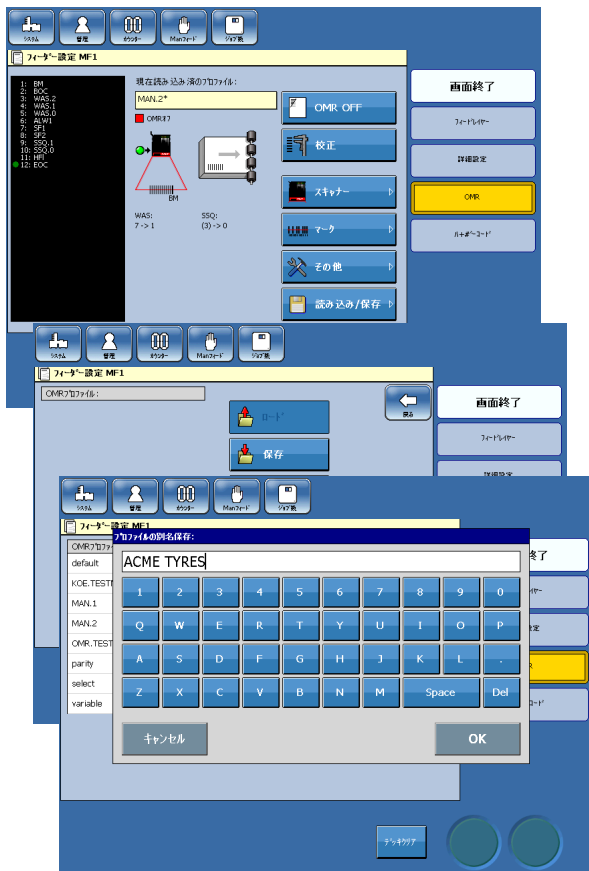
2 該当する矢印ボタンを押して、最小値と最大値を設定します。最小値と最大値は個別に設定できません。読み取り方向の変更には、[反転] ボタンを押します。読み取り方向は、WASとSSQ両方で変更されません。

[戻る] ボタンを押します。

OMRプロファイルの保存



設定を保存するには、管理者としてログインする必要があります。「**1 基本事項**」を参照してください。



OMRプロファイルの保存は、ジョブの保存と同じ方法で行われます。**3. ジョブの「ジョブの保存、削除、名前の変更」**を参照してください。

1 OMRプロファイルを保存するには、[読み込み/保存] ボタンを押してください。

2 画面内の[保存] ボタンを押します。

3 OMRプロファイルの名前を入力し、[OK] ボタンを押します。

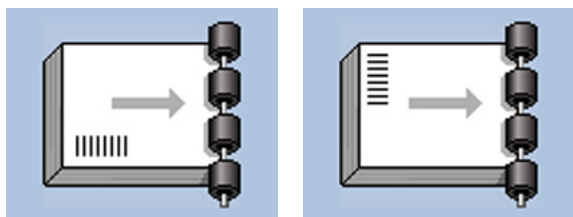
OMRプロファイルの使用

4.設定

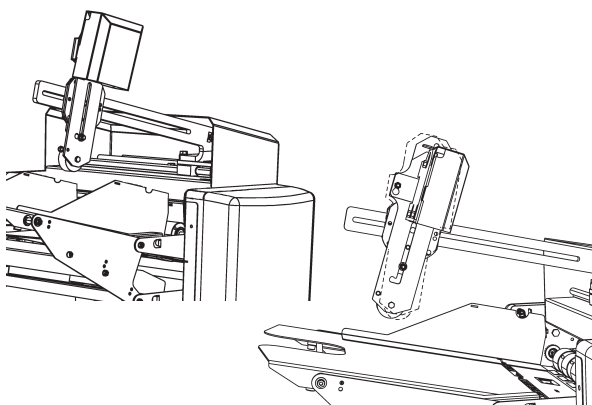


1 OMR プロファイルを作成するか（本セクション内の前の説明を参照）、既存のプロファイルを読み込みます。

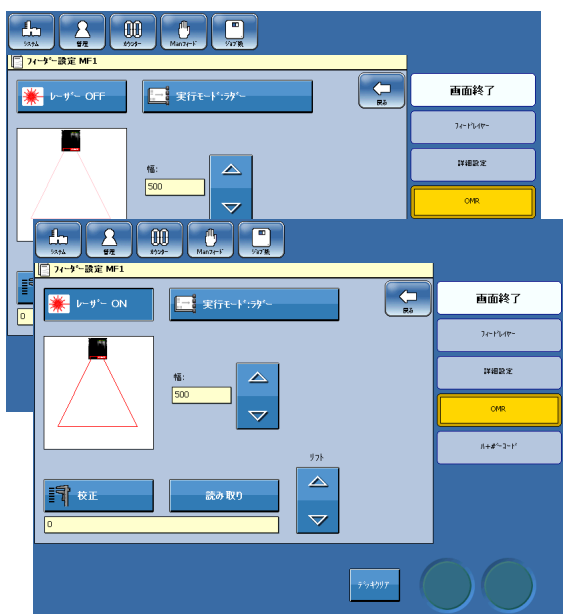
- フィーダーをタッチします。
- [OMR] ボタンを押します。
- [読み込み/保存] ボタンを押します。
- OMRプロファイルをタッチします。
- [読み込み] ボタンを押します。
- [OK] ボタンを押して確定します。



2 実際のジョブのキャリブレーションシートをフィーダー A に置きます。



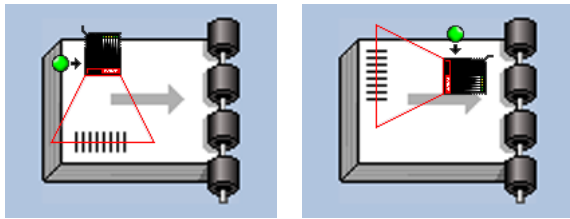
3 OMR マークを読み取るために、OMR リーダーが物理的に正しい位置（フェンス/ラダー）にあることを確認してください（**1 基本事項、スキャナーの位置調整参照**）。



4 [スキャナー] ボタンを押して表示される画面の[レーザー OFF] ボタンを押すと[レーザー ON] に切りかわり、スキャナからレーザービームが出ます。

次ページに続く

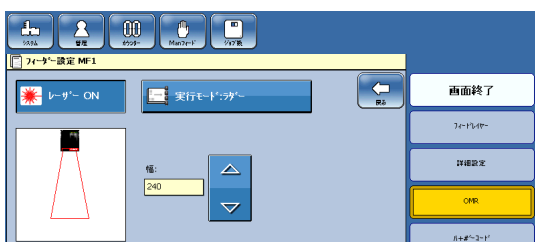
OMRプロファイルの使用、続き



5 レーザービームが OMR マークの中央にくるように配置します。



6 レーザービームの幅を、両側の OMR マークより約 10～15mm 広くなるように調整します。この操作は、矢印を押すか、ビームをタッチしドラッグすることで実行できます。



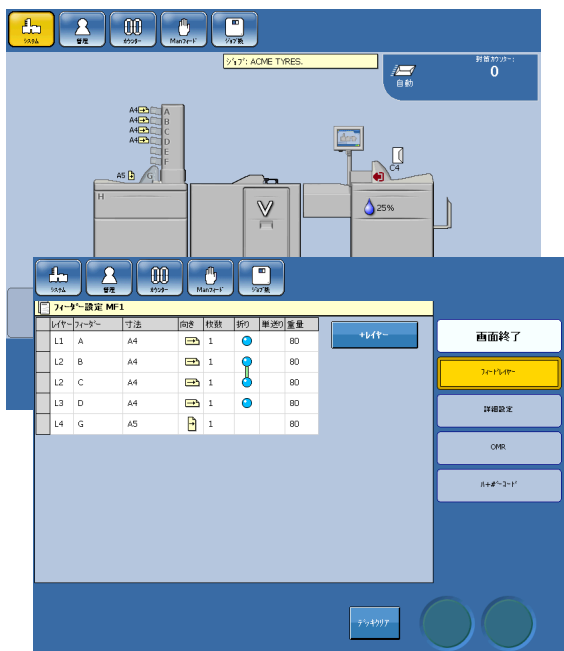
7 テストを実行します。同じ画面から [キャリブレーション] ボタンを押すか、[戻る] ボタン → [キャリブレーション] ボタンの順に押してください。フィーダーは一番上のシートを少し引きこみます。



8 キャリブレーションが成功したら、キャリブレーションシートを取り除きます。[OMR OFF] ボタンを押し、[OMR ON] に切替えます。これで OMR の設定は完了です。続けて、システムの他の設定や読み込みを行うことができます。

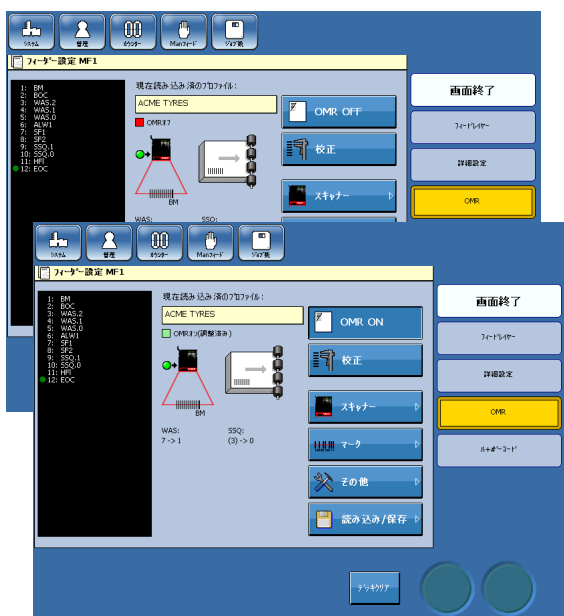
電源オフ/電源オン後のOMR

4.設定

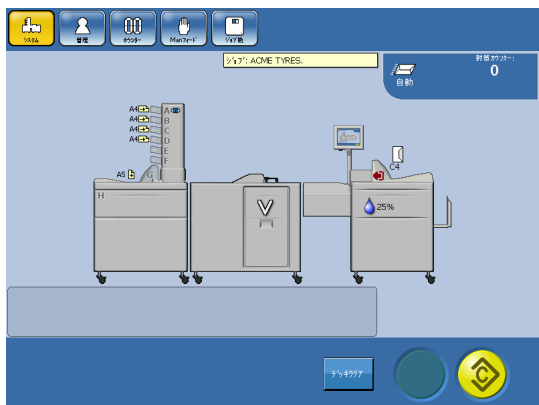


システムの電源を切った後、電源を入れると、すべてのジョブおよびOMRの設定は残りますが、スキャナーの電源は切れます。

1 OMRスキャナーをオンにするには、フィーダーをタッチして、[OMR] ボタンを押します。



2 [OMR OFF] ボタンを押して、[OMR ON] に切り替えます。



3 これでシステムの準備は完了です。

BCR

BCR - バーコード認識 - タワーフィーダーに追加されるオプションで、用紙上の所定の位置にあるバーコードをスキャンする機能です。Code 39、Code 128、ITF、DataMatrix、PDF417を扱うことができます。

システムにおけるBCRの解釈は、大きく2つの目的に分けられます。それは安全機能と機器制御機能です。

安全機能

安全機能は、BCRをスキャンすることにより、送られる各用紙の整合性を確保するための機能です。

イグノア (IGN)

開始文字と終了文字の両方とビットを "IGN" に設定するとそれらは無視されます。

ラップアラウンドシーケンス (WAS)

この機能は、各シート上の定義された特定のマークが**シーケンス内**の正しい順番に従っているかどうかを確認するカウンターです。

このカウンターは開始または終了は選択した値で行いますが、送られる用紙1枚につき1ずつ増加または減少します。終了値に達した場合、カウンターは再び最初から開始されます。

この動作が、処理するセット数に関係なく、送り込みシーケンス全体で継続します。

スキャナ

カウンターは2進法で行われ、読み取り方向によっては結果に差が生じるため、読み取り方向を指定する必要があります。

バイナリーコードの100を左から右へ読むと1になります。

同じバイナリーコードを右から左に読むと、4になります。

カメラ

カウンターは、完全なキャラクタ値で10進数です。

セット内シーケンス (SSQ)

各シート上の決められたマークや文字が、**セット内**で正しい順番で並んでいるかどうかをチェックするカウンターです。WASとの違いとしては、SSQの場合はセットごとに最初からカウントが開始されます。このカウンターは開始または終了は選択した値で行いますが、送られる用紙1枚につき1ずつ増加または減少します。EOCマーク(後述の説明参照)に達すると、カウンターは次のセットで再び最初から開始されます。

この動作が、行われた封入数に関係なく、送り込みシーケンス全体で継続します。

スキャナ

カウンターは2進法で行われ、読み取り方向によっては結果に差が生じるため、読み取り方向を指定する必要があります。

バイナリーコードの100を左から右へ読むと1になります。

同じバイナリーコードを右から左に読むと、4になります。

カメラ

カウンターは、完全なキャラクタ値で10進数です。

機器制御機能

機器制御機能は、個別の封入セットの扱い方についてシステムに指示を出す機能です。

開始ページ(BOC)

このマーク/キャラクタは、新しいセットの開始を表します。フィーダーは、セット終了マーク(EOS)が検出されるまで、用紙を送ります。

終了ページ(EOC)

このマーク/キャラクタは、セットの終了を表します。このマーク/文字が検出されると、セットはジョブに設定されたとおりに扱われます。例えば、折られて、それから封筒に挿入されます。

選択フィード1~7(SF1~7)

このマーク/キャラクタが検出されると、選択された1つ以上の封入物が実際のセットに追加されます。新たなSFx マークが検出されない限り、次のセットには封入物は一切追加されません。

注

SFxマーク/文字 は、新しいセットの最初のシートに**必ず必要**です。

ハンドフィード最後(HFI)

「ハンドフィード最後」とは、挿入前にセットの一番上に手動で追加される封入物が実際のセットにあることを意味します。このマーク/キャラクタを検出すると、実際のセットはインサーター上のインフィードデッキで一時停止します。インフィードデッキデッキのインターロックは解除されます。インフィードデッキのカバーを開けて封入物を手動で追加し、それからフットペダルを押してサイクルを完了させます。

注

HFIマーク/文字 は、新しいセットの最初のシートに**必ず必要**なマークです。

ハンドフィード最初(HFf)

「ハンドフィード最初」とは、挿入前にセットの一番下に手動で追加される封入物が実際のセットにあることを意味します。このマーク/キャラクタが検出されると、システムは一時停止し、インフィードデッキインターロックは解除されます。これで、オペレーターはインフィードデッキのカバーを開けて、インフィードデッキに封入物を入れることができます。フットペダルを踏むと、システムはそのサイクルを完了します。

注

HFfマーク/文字 は、新しいセットの最初のシートに**必ず必要**なマークです。

ダイバートフィニッシュ(DVF)

このマーク/キャラクタが検出された場合、実際のセットは**封緘せず**に処理されます。新たなDVFマークが検出されない限り、次のセットでは封筒は封緘されます。



DVFマーク/文字は、新しいセットの最初のシートに**必ず必要**です。

ダイバートデッキ (DVD)

このマーク/キャラクタが検出されると、実際のセットはフォルダー上の排出トレイに搬送されます。次のセットは、新しいDVDマークが検出されない限り、プログラム通りに処理されます。



DVDマーク/文字は、新しいセットの最初のシートに**必ず必要**です。

ストップ(ST)

このマーク/キャラクタが検出された場合、実際のセット処理が行われた後に停止します。



STマーク/文字は、新しいセットの最初のシートに**必ず必要**です。

ページ番号 (PN)

各シート上の特定の定義された文字が、**セット内で正しい順序で並んでいるかどうか**をチェックするカウンターです。1枚給紙されるごとに、カウンターは1ずつ増加または減少します。PN=PC(カウントアップ)またはPN=1(カウントダウン)のとき、EOC(上記参照)信号が発生します。EOC信号の後、次のセットで再びカウンターを開始します。PNはPCと連動して機能します。PNカウンターはキャラクタ全体を使用します。バーコードの設定で、カウント方向を選択する必要があります。

ページカウント(PC)

セット内の総枚数を定義します。PC=PN(カウントアップ)またはPN=1(カウントダウン)のとき、EOC(上記参照)信号が発生します。PCはPNと連動して機能します。

PNカウンターはキャラクタ全体を使用します。

ジョブID (JID) (BCR 2Dのみ)

ジョブIDフィールドは、ジョブ内のすべてのシートの一貫した識別子を作成し、オペレーターがまだ郵送される予定のないジョブからスタックを取得しないようにするものです。

ジョブIDはメール実行中(スタートからストップまで)に変更されてはいけません。

セット内照合 (SI)

この機能ではセット内照合をチェックします。同一封筒に入るシートは、セット内すべてのシートに同じ照合値があることを確認します次のセットでは、照合値は違う値でなくてはなりません。どのように違うかは重要ではありません。下の例を参照してください。

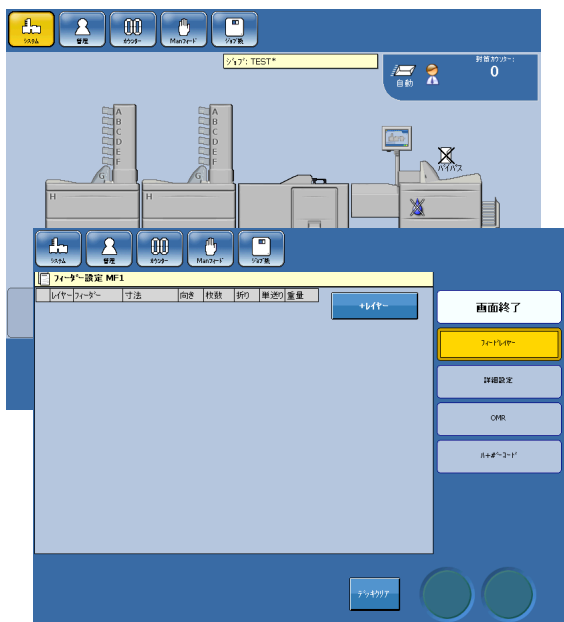
セット	シート	照合値
1	1	111
1	2	111
1	3	111
2	4	000
3	5	100
3	6	100

顧客ID (CID) (BCR 2Dのみ)

これは、セット内のすべてのシートが同じ顧客IDを持っていることを確認するためのセット・インテグリティ・チェックです。新しい顧客IDが検出されると、前のシートがそのセットの最後のシートであることを意味し、EOC (照合終了)信号が生成されます(以下の例を参照)。

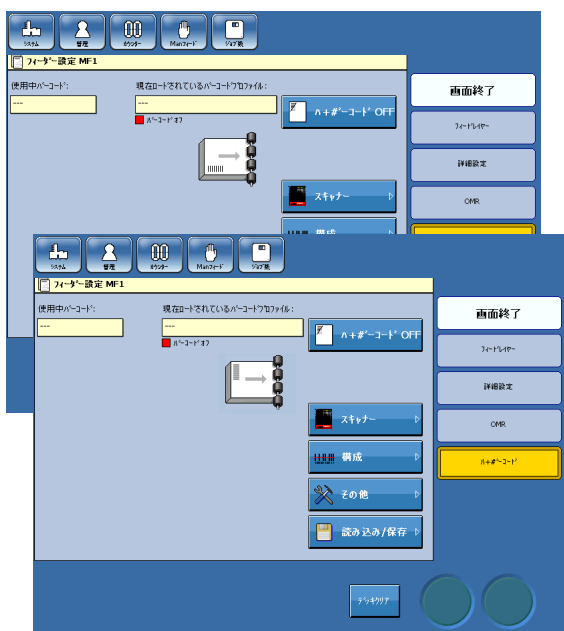
セット	シート	顧客ID
1	1	123
1	2	123
1	3	123
2	4	125
3	5	1001
4	6	1002

バーコードプロフィールの作成



各キャラクター / ビットの機能を決定するために、ジョブのバーコードの仕様を確認します。

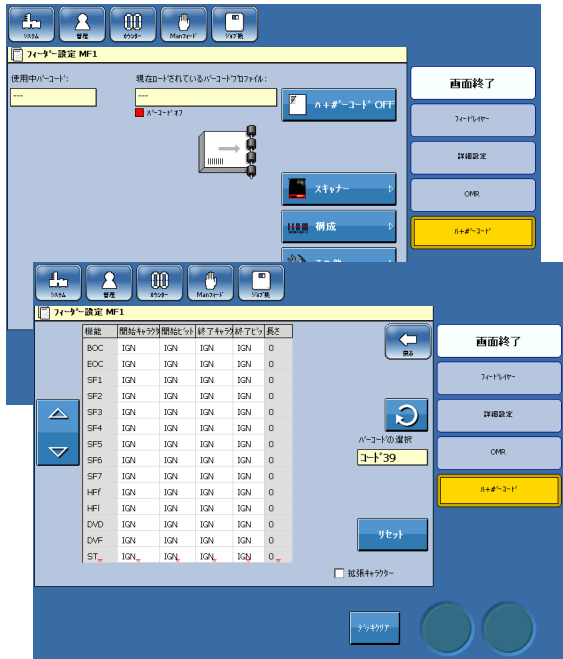
- 1 メインスクリーンで、フィーダーをタッチします。
- 2 [バーコード]ボタンをタッチします。



- 3 スキャナ
画面上の紙の束の図を押して、バーコードの読み取り方法がラダーまたはピケットフェンス (説明は 9 仕様を参照) のいずれかであることを定義します。

カメラ
カメラは一方向にしか配置できません。

BCRマーク数設定



1 [構成]ボタンをタッチします。

2 ループ矢印ボタンを押して、シンボル (Code39、ITF、Code128、Datamatrix、PDF417) を選択します。

BCRの解釈の定義



スキャナ

使用する各機能の位置 (キャラクタ、ビット) を定義します。実際の機能の隣にある最初のボックスをポイントして、上矢印ボタンで開始キャラクタを変更します。実際の機能の隣にある2番目のボックスをポイントして、上矢印ボタンで開始ビットを変更します。終了キャラクタと終了ビットは自動的に同じ値に変更され、一番右のボックスで長さを確認することができます。複数のビットを使用する機能では、上記のようにストップキャラクタとストップビットを正しい値に変更します。

カメラ

使用する各機能の位置 (文字) を定義します。実際の機能の隣にある最初のボックスをポイントして、上矢印ボタンで開始キャラクタを変更します。終了キャラクタは自動的に同じ値に変更され、一番右のボックスで長さを確認することができます。関数が複数のキャラクタを使用する場合、上記のように停止キャラクタを正しい値に変更します。

注

終了キャラクタ及び終了ビットの値は、開始キャラクタ及び開始ビットの値と同じかそれ以上とすることができます。

その結果、下矢印ボタンで開始キャラクタと開始ビットを下げても、終了キャラクタと終了ビットは影響を受けません。エンドキャラクターとエンドビットの値を下げたい場合は、実際の値をポイントして下矢印ボタンを使用する必要があります。

何も入力しない場合、すなわちすべてのボックスにIGNが表示されている場合は、この機能は有効ではありません。

BCRの解釈の定義、続き

機能	開始+ラップ	開始+リターン	終了+ラップ	終了+リターン	表示
BOC	0	0	0	0	1
EOC	0	1	0	1	1
SF1	1	0	1	0	1
SF2	1	1	1	1	1
SF3	1	2	1	2	1
SF4	IGN	IGN	IGN	IGN	0
SF5	IGN	IGN	IGN	IGN	0
SF6	IGN	IGN	IGN	IGN	0
SF7	IGN	IGN	IGN	IGN	0
HFf	IGN	IGN	IGN	IGN	0
HFf	IGN	IGN	IGN	IGN	0
DVD	2	0	2	0	1
DVF	IGN	IGN	IGN	IGN	0
ST	2	1	2	1	1

以下のリストは、利用可能なすべての機能とその表示順を示しています。

- 1 BOC (開始ページ)
- 2 EOC (終了ページ)
- 3 SF1 (選択フィード1)
- 4 SF2 (選択フィード2)
- 5 SF3 (選択フィード3)
- 6 SF4 (選択フィード4)
- 7 SF5 (選択フィード5)
- 8 SF6 (選択フィード6)
- 9 SF7 (選択フィード7)
- 10 HFf (ハンドフィード最初)
- 11 HFf (ハンドフィード最後)
- 12 DVD (ダイバートデッキ)
- 13 DVF (ダイバートフィニッシュ)
- 14 ST (ストップ)
- 15 SSQ (セット内シーケンス)
- 16 WAS (ラップアラウンドシーケンス)
- 17 PN (ページ番号)
- 18 PC (ページ数)
- 19 SI (セット内照合)
- 20 CID 顧客ID
- 21 JID (ジョブ ID)

WASおよび/またはSSQカウンター

4	2	1	合計
0	0	0	0
0	0	1	1
0	1	0	2
0	1	1	3
1	0	0	4
1	0	1	5
1	1	0	6
1	1	1	7

バイナリカウント

逆方向	WAS2	WAS1	WAS0	通常方向
0	0	0	0	0
4	0	0	1	1
2	0	1	0	2
6	0	1	1	3
1	1	0	0	4
5	1	0	1	5
3	1	1	0	6
7	1	1	1	7

カウント 通常方向と逆方向

WAS (Wrap Around Sequence) やSSQ(Set Sequence)などのカウンタがコード内にある場合は、min(開始)、max(終了)値や方向を設定する必要があります。

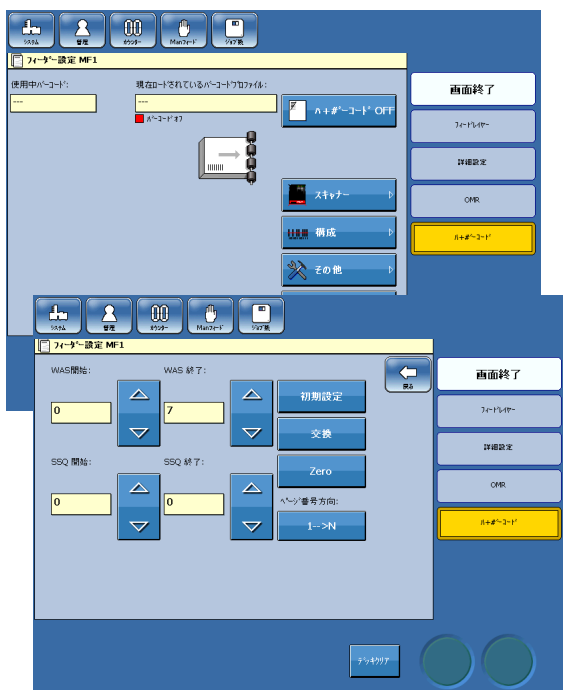
スキャナ

WASカウンターとSSQカウンターはいずれも2進カウンターです。2進法では、0か1(無印・有印)の2つの数字しかありません。最初の数字(マーク)は値1、次は値2、次は値4という順になります。2進法で左に数字をカウントするのと同様に、通常は右から左に合計を計算します。したがって、3桁の2進コードは、0から7までの8つの値を持つことができます。

(WASカウンターを例として)左に示すOMRカウント数を見ると、各方向からカウントした際の値の違いは明らかです。同じことがSSQカウンターにもあてはまりません。

カメラ

WASとSSQのカウントは10進数です。



1 最小(開始)値と最大(終了)値ならびに読み取り方向を設定するには、[その他] ボタンを押します。

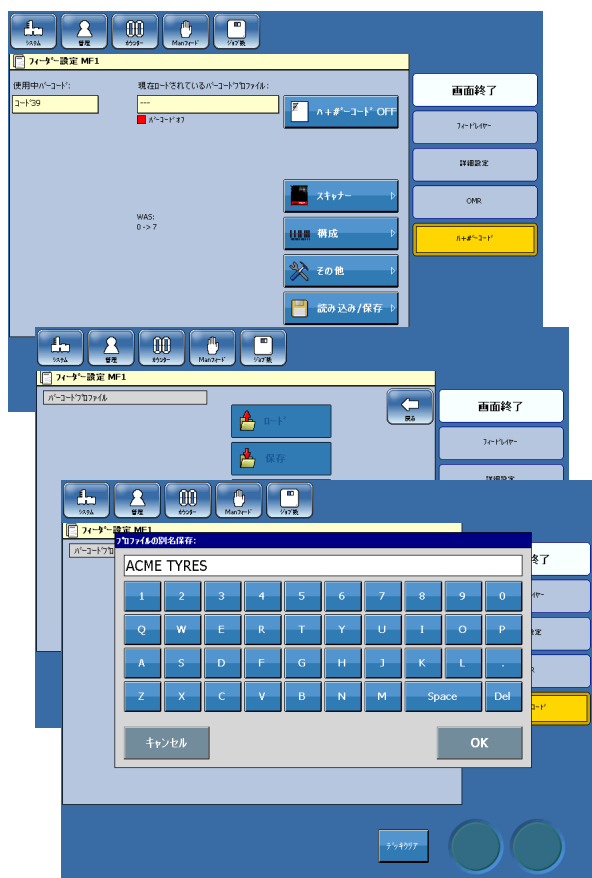
2 該当する矢印ボタンを押して、最小値と最大値を設定します。最小値と最大値は個別に設定できます。読み取り方向の変更には、[反転] ボタンを押します。読み取り方向は、WASとSSQ両方で変更されません。

[戻る] ボタンを押します。

BCRプロファイルの保存



設定を保存するには、管理者としてログインする必要があります。「**1 基本事項**」を参照してください。



BCRプロファイルの保存は、ジョブの保存と同じように行います。**3 ジョブ**の「ジョブの保存、削除、名前の変更」を参照してください。

- 1** [読み込み/保存]ボタンでBCRプロファイルを保存します。
- 2** 画面内の[保存] ボタンを押します。
- 3** BCRプロファイルの名前を入力し、[OK]ボタンを押します。

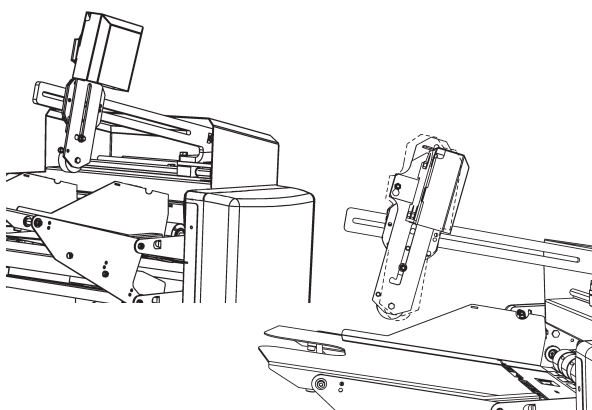
BCRプロファイルの使用

4.設定



1 BCRプロファイルを作成(このセクションで前述)するか、または既存のBCRプロファイルを読み込みます。

- フィーダーをタッチします。
- [BCR]ボタンを押します。
- [読み込み/保存] ボタンを押します。
- リストから該当のBCRプロファイルをタッチします。
- [読み込み] ボタンを押します。
- [OK] ボタンを押して確定します。

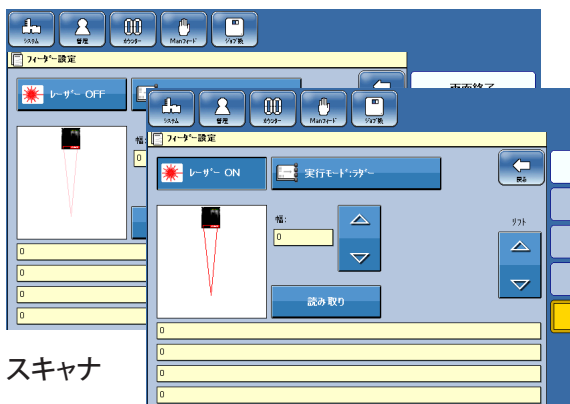


2 **スキャナ**
BCRマークを読み取るために、スキャナーが物理的に正しい位置(フェンス/ラダー)にあることを確認してください。**1 基本事項、スキャナーの位置決め**を参照してください。

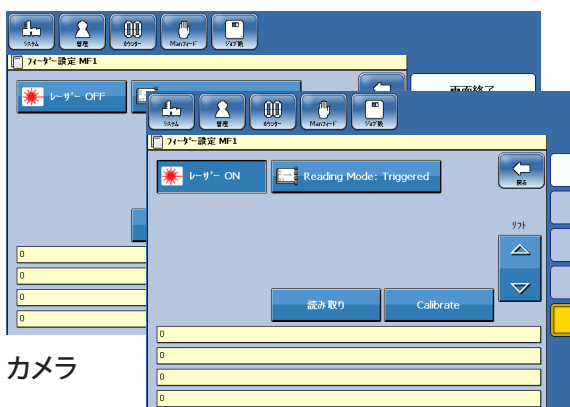
カメラ
カメラは一方向にしか配置できません。

3 [スキャナー] ボタンを押して表示される画面の [レーザー OFF] ボタンを押すと [レーザー ON] に切りかわり、スキャナからレーザービームが出ます。

手順は同じですが、スキャナーとカメラのどちらをインストールしているかによって、ユーザーインターフェイスが異なります。



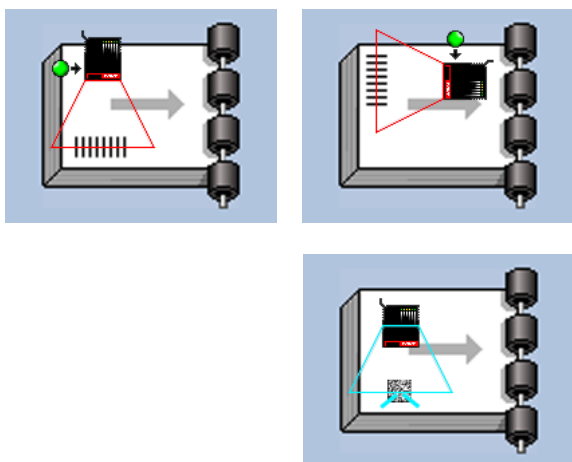
スキャナ



カメラ

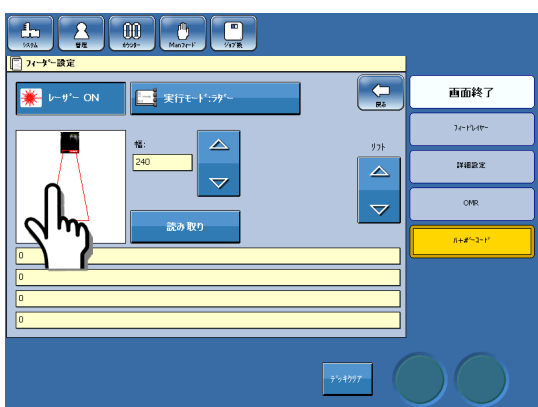
次ページに続く

BCRプロファイルの使用、続き

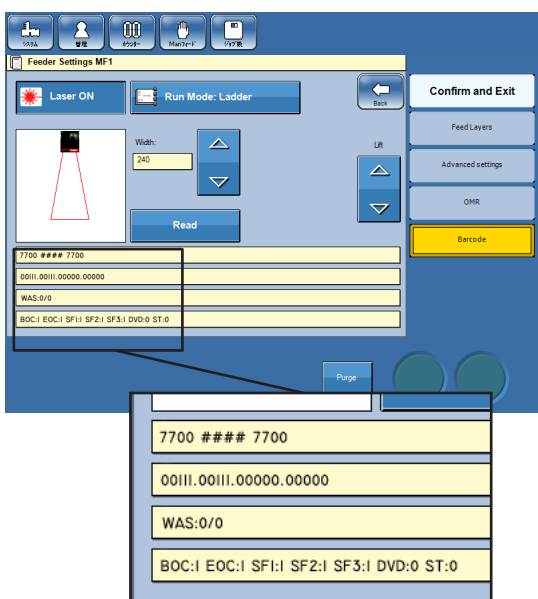


- 4 スキャナ**
BCRコードの中央にレーザービームを配置します。

カメラ
線が交差する点がコードの中心になるようにビームを配置します。



- 5 スキャナーのみ**
レーザー光の幅が、両側のBCRコードより約10～15 mm広くなるように調整します。
この操作は、矢印を押すか、ビームをタッチシドラッグすることで実行できます。



- 6** [レーザーON] ボタンを押し、[読み取り] ボタンを押す。黄色の4つのフィールドにBCRコードに関する情報が表示されるようになりました。

最初のフィールド:キャラクターの値が表示され
ます。

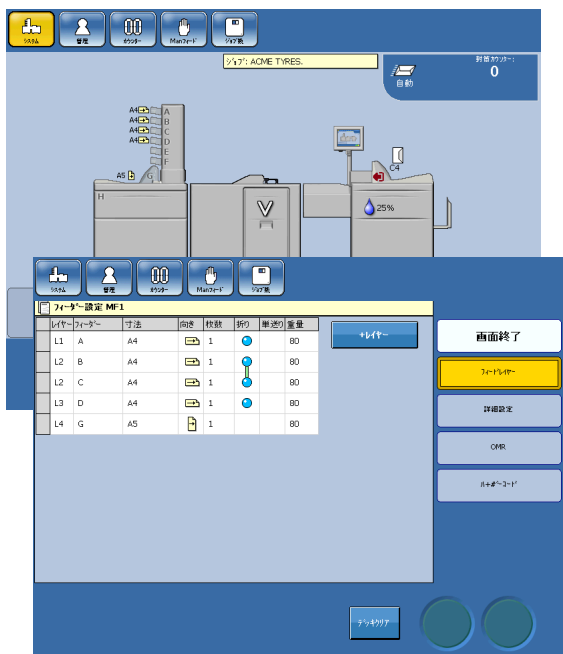
第2フィールド:キャラクタ値のバイナリ表現が表
示されます。

第3フィールド:WASおよび/またはSSQカウンタ
ーが使用されている場合は、ここに表示されま
す。また、その文字の値も表示されます。

第4フィールド:残りの機能とその値を表示しま
す。

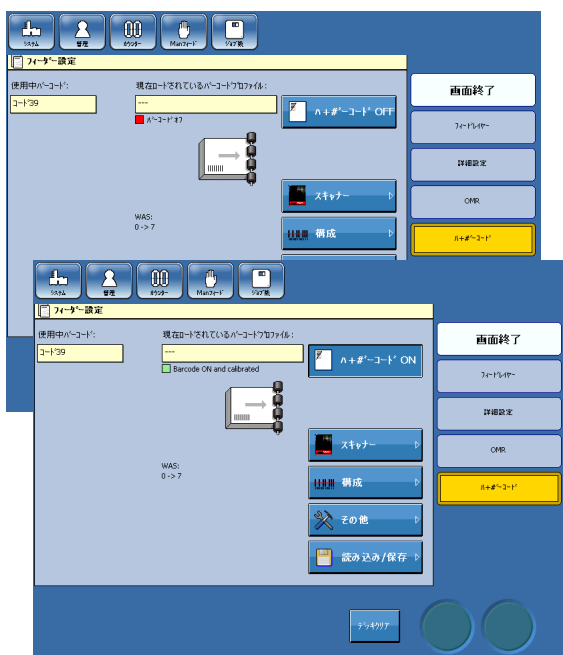
電源オフ/電源オン後のBCR

4.設定

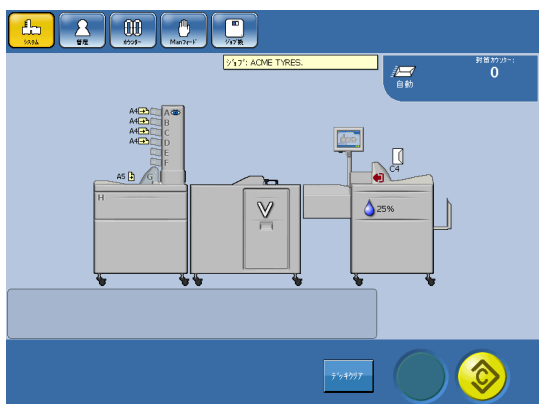


システムの電源を切った後、電源を入れると、すべてのジョブおよびBCRの設定は残りますが、スキャナーの電源は切れます。

1 スキャナのスイッチを入れるには、フィーダをポイントしてから、[バーコード] ボタンを押します。



2 [バーコードOFF]ボタンを押して、スキャナーをOFFからONに切り替えます。



3 これでシステムの準備は完了です。

5. 管理

管理画面

管理画面では、その他の機能や設定を確認することができます。また、管理者としてログインすると、カスタム封筒とカスタム用紙の作成や削除が可能になります。

注

特定の構成では、電源投入時に自動的に管理者としてログインします。
その場合は、このセクションをスキップしてください。



- 1 メインスクリーンで、[管理]ボタンを押す。

サイズ規格

管理画面では、用紙や封筒のサイズの規格を変更することができます。サイズ規格を変更することで、プリセットされている用紙や封筒のサイズを、その地域の規格に最適なものに変更することができます。

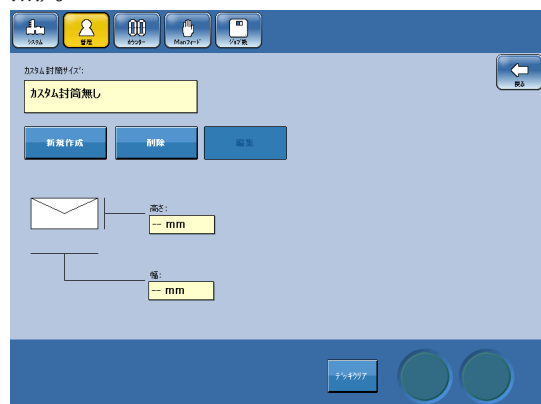


- 1 管理画面で、ループ矢印ボタンを押して、正しい地域規格を選択します。

カスタム封筒

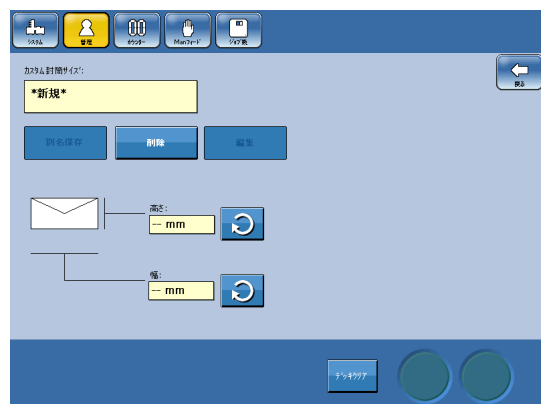


カスタム封筒の作成と削除を行うには、管理者としてログインする必要があります（「**1 基本事項**」を参照）。

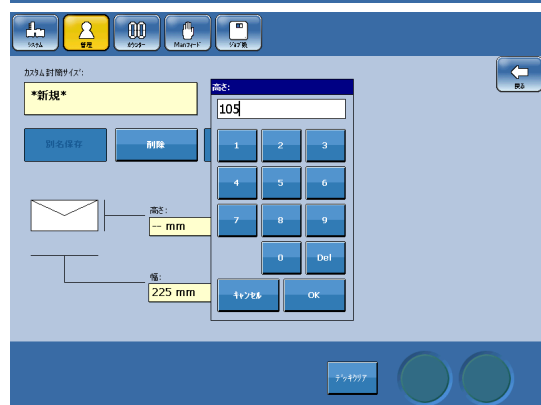


- 1 管理画面で、[カスタム封筒]ボタンを押します。

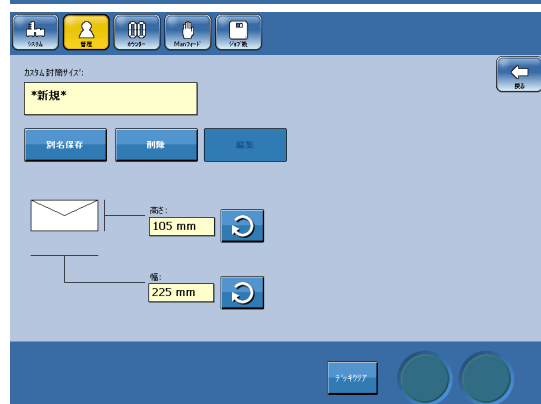
カスタム封筒の作成



- 1 カスタム封筒の画面で、[新規作成] ボタンを押します。または、[編集] ボタンを押して既存のカスタム封筒を編集します。ボタンがグレイアウトした[別名保存]ボタンに変わります。



- 2 「高さ」の見出しの横にあるループ矢印ボタンを押します。高さを入力し、[OK]ボタンを押します。続けて、同じように幅を入力します。



- 3 「別名保存」ボタンを押す。

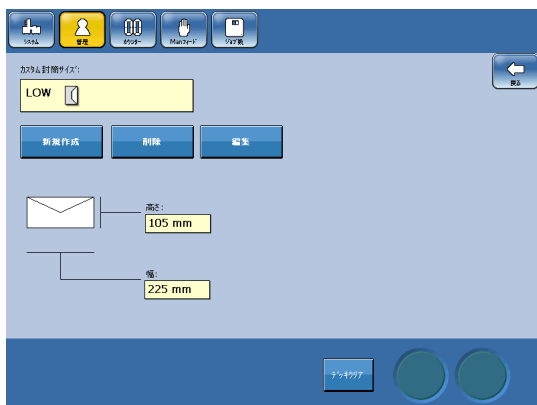
次ページに続く

カスタム封筒の作成、続き

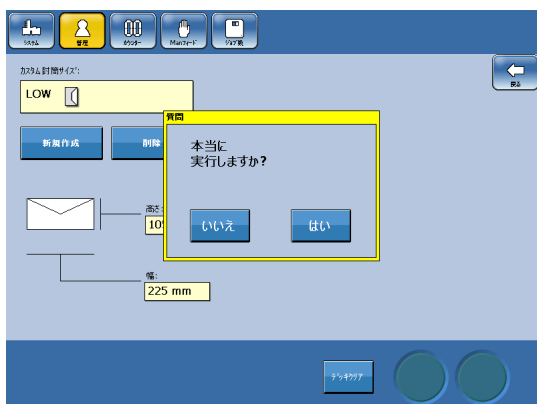


- 4 名前を入力し、[OK] ボタンを押します。

カスタム封筒の削除



- 1 カスタム封筒の画面で、削除したいカスタム封筒のサイズを選択し、[削除] ボタンを押します。

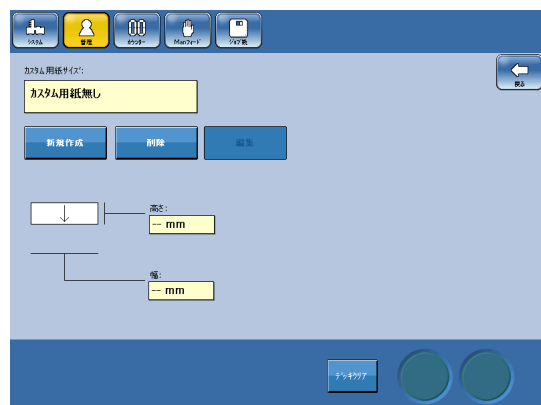


- 2 [はい] ボタンを押して確定します。

カスタム用紙

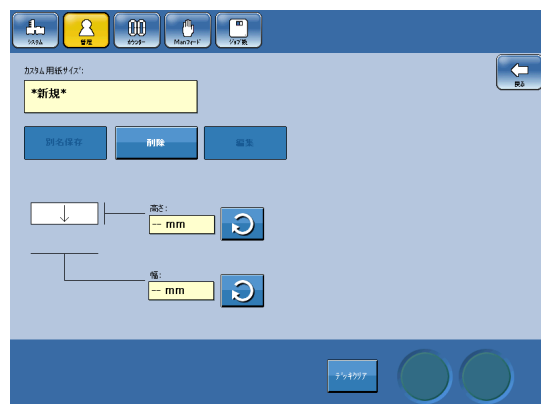


カスタム用紙の作成と削除を行うには、管理者としてログインする必要があります（「**1 基本事項**」を参照）。

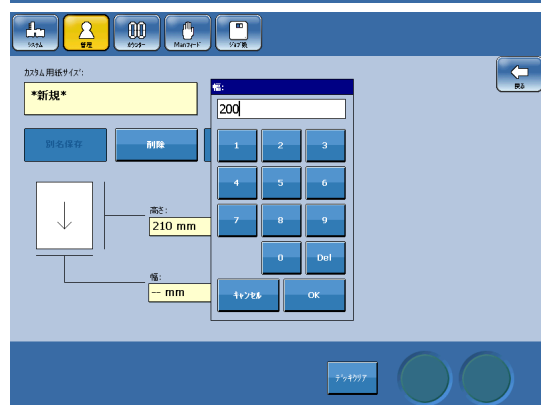


- 1 管理画面で、[カスタム用紙]ボタンを押します。

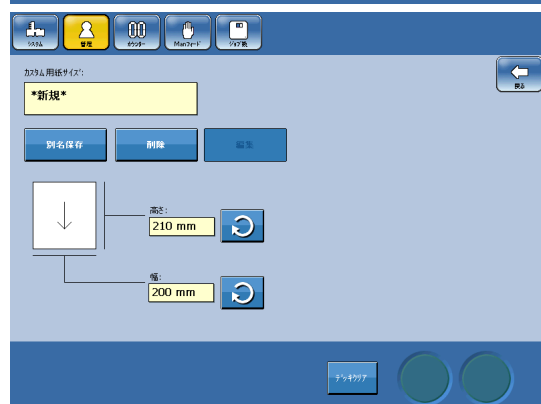
カスタム用紙の作成



- 1 カスタム用紙の画面で、[新規作成] ボタンを押します。または、[編集] ボタンを押して既存のカスタム用紙を編集します。
ボタンがグレーアウトした[別名保存]ボタンに変わります。



- 2 「高さ」の見出しの横にあるループ矢印ボタンを押します。高さを入力し、[OK]ボタンを押します。続けて、同じように幅を入力します。



- 3 「別名保存」ボタンを押します。

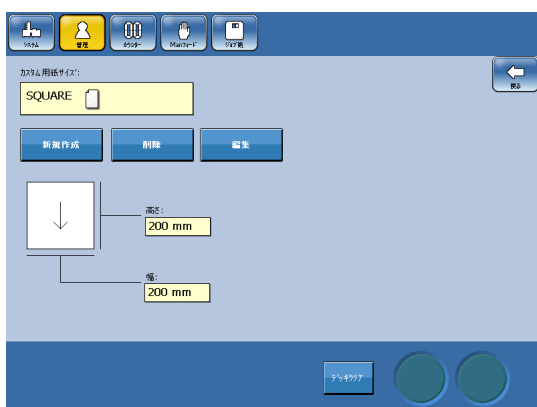
次ページに続く

カスタム用紙の作成、続き

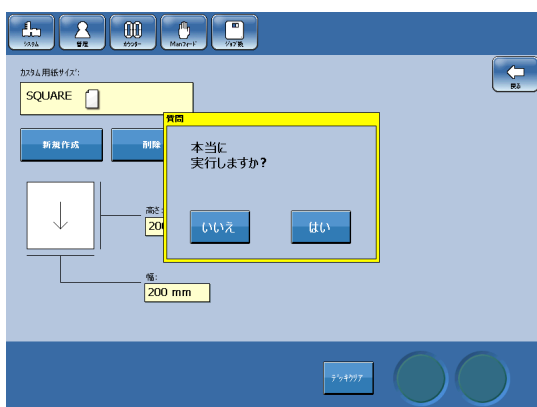


- 4 名前を入力し、[OK] ボタンを押します。

カスタム用紙の削除




- 1 カスタム用紙画面で、削除したいカスタム用紙サイズを選択し、[削除] ボタンを押します。



- 2 [はい] ボタンを押して確定します。

封緘機構の清掃

初めてシステムを稼動する場合、または本機に「液の補充 []」と表示された場合は、供給用のボトルに封かん水を入れてください。



- 1 供給用のボトルに封かん水を充填します。
- 2 メインスクリーンで、まず [管理] ボタンを、次に [封緘機構の清掃] ボタンを押します。

注

清掃プログラムを実行する前に、排水ボトルが満杯でないことを確認してください。清掃により最大20 cl (7 fl oz) の封緘水が排出されます。

[はい] ボタンを押して、封緘機構の清掃を行うことを確定します。

- 3 清掃プロセスが完了する(メッセージが消える)までお待ちください。
- 4 排水ボトルを取り外し、空にします。

封緘機構からの排水

インサーターを移動するときなど、封かん水を抜く必要がある場合は、以下の手順で行ってください。



- 1 メインスクリーンで、まず [管理] ボタンを、次に [封緘機構の清掃] ボタンを押します。

注

清掃プログラムを実行する前に、排水ボトルが満杯でないことを確認してください。清掃により最大20 cl (7 fl oz) の封緘水が排出されます。

次ページに続く

封緘機構からの排水、続き



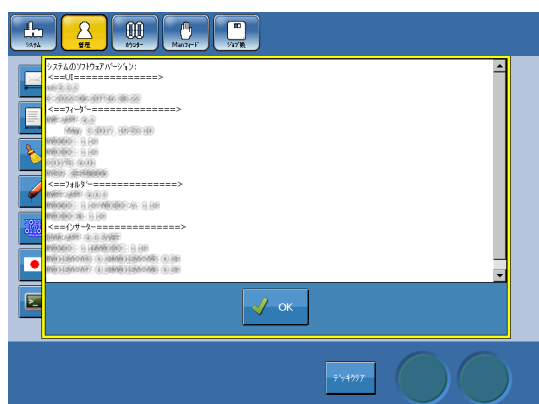
- 2 [はい] ボタンを押して、封緘機構からの封緘水の排出を行うことを確定します。

排出プロセスが完了する(メッセージが消える)までお待ちください。

- 3 両方のボトルを取り外し、空にします。

ソフトウェアバージョン

このウィンドウには、ユーザーインターフェース(UI)と、システムに含まれるすべてのモジュールのソフトウェアバージョンが表示されます。



- 1 メインスクリーンで[管理]ボタンを押し、[ソフトウェアバージョン]ボタンを押します。

- 2 [OK]ボタンを押して、ウィンドウを閉じます。

言語



- 1 メインスクリーンで[管理]ボタンを押し、[言語]ボタンを押します。

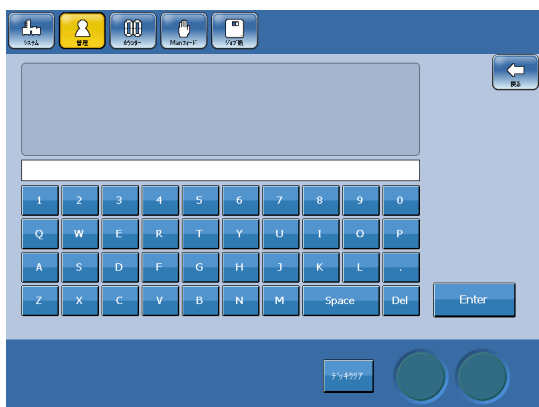
- 2 ループ矢印で言語を選択し、[✓] ボタンで決定します。

コマンドウィンドウ

コマンドウィンドウでは、システムのコマンドを実行することができます。カスタムサイズの封筒やインサートの作成、ジョブやOMR/BCRプロファイルの保存を行うには、管理者としてログインする必要があります。以下の例では、ログインの方法を示していますが、他のコマンドでも原理は同じです。



1 メイン画面で、まず[管理]ボタンを、次に[コマンドウィンドウ]ボタンを押します。



2 ボタンを使って、コマンド「ADMIN.」と入力後、続けてアクセスコードを入力します。[OK]を押して、ログインします。

5. 管理

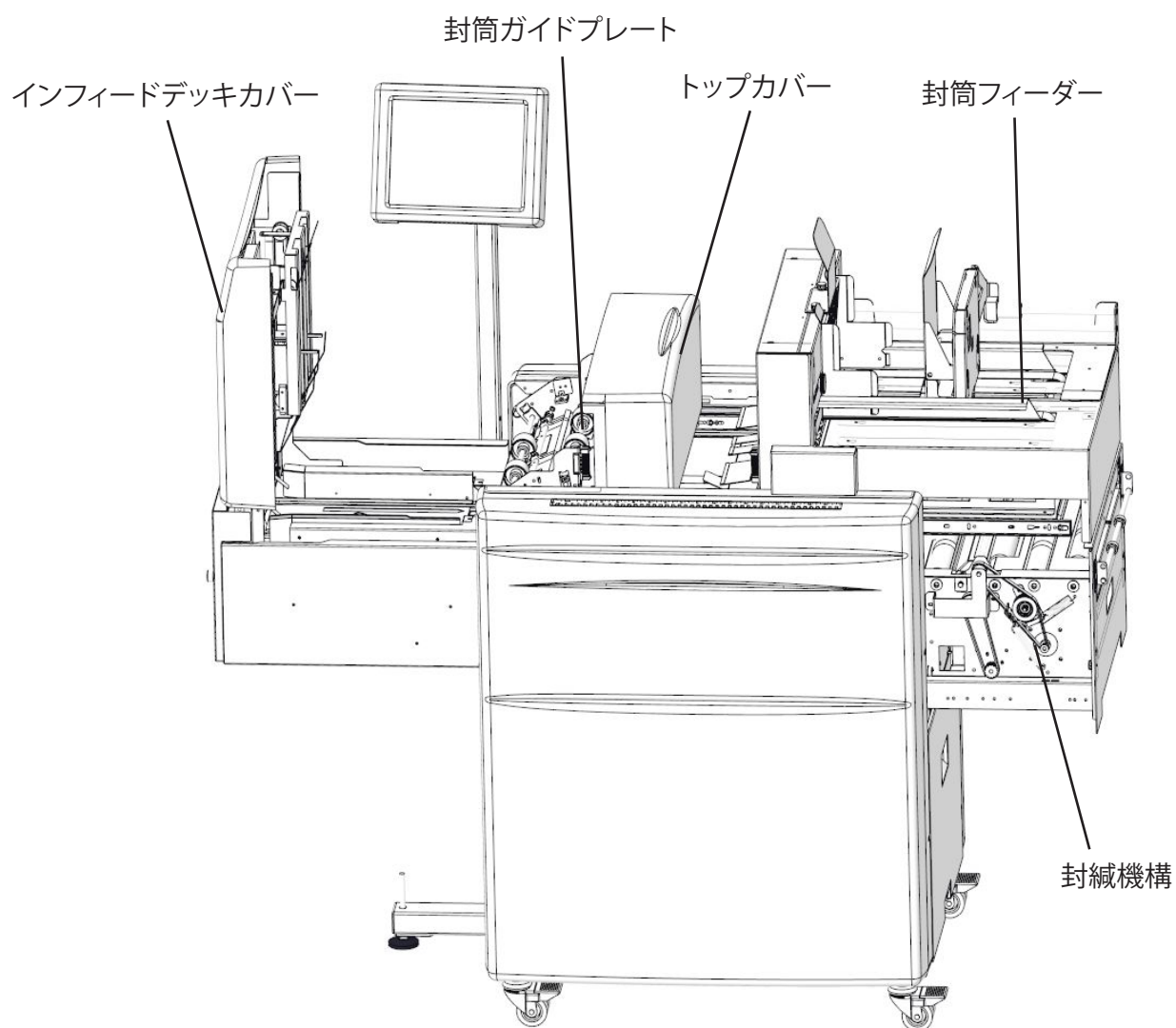
注

- アクセスコードは「1000」です。管理者用の正しいコマンドは「ADMIN.1000」です。
- アクセスコードを変更するには、サービス技術者に連絡してください。
- ログアウトするには、コマンド「ADMIN.」の後に正しいアクセスコード以外の何らかの数字を入力してください。
- インサーターの電源を切ると、自動的にログアウトされます。

6. ジャムの解決

インサーター

紙づまりや封筒づまりを解消するために、次のカバーやモジュールを開けることができます。



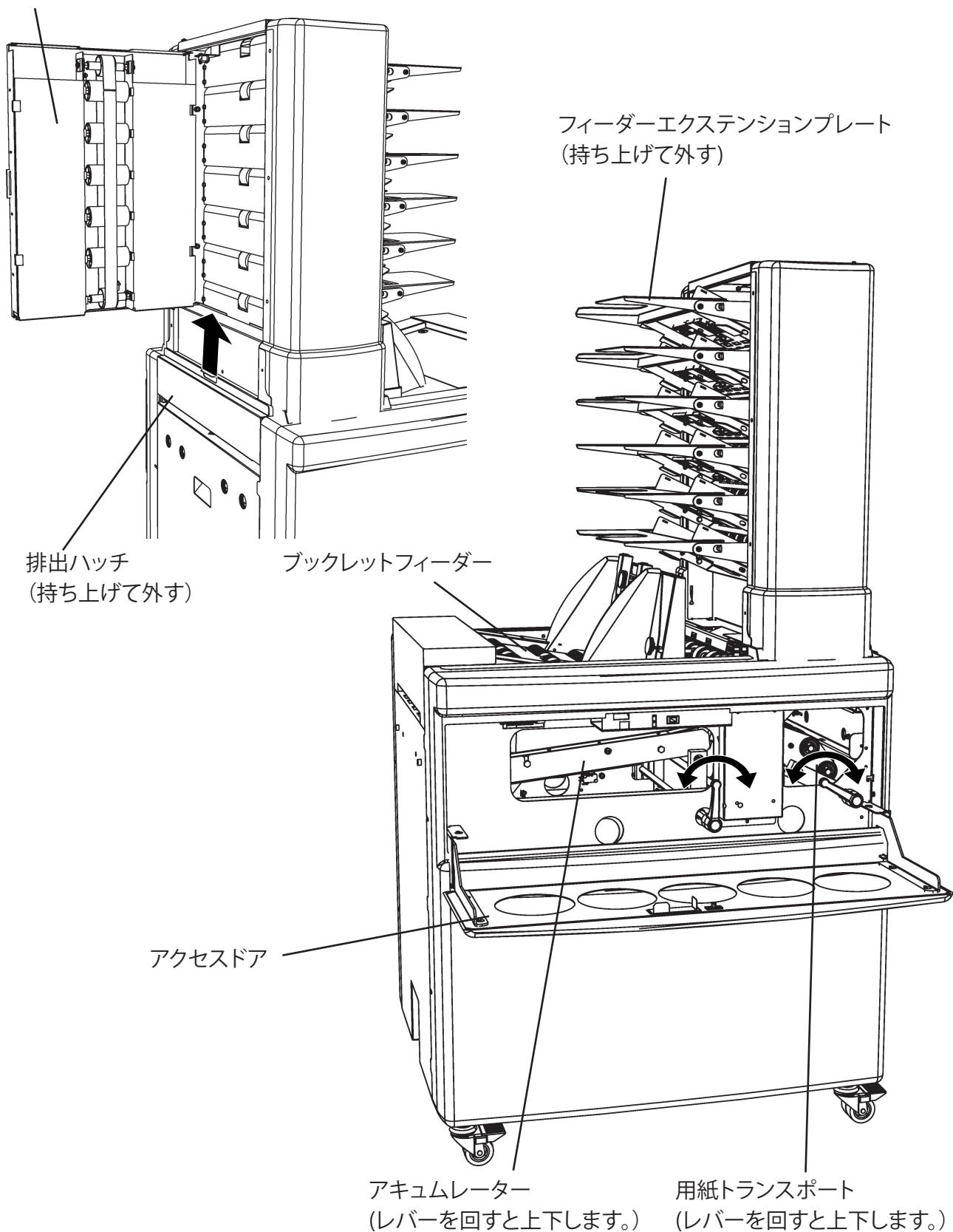
注

トップカバーを開けるには、まず封筒フィーダーをスライドさせてから開きます。

メールフィーダー

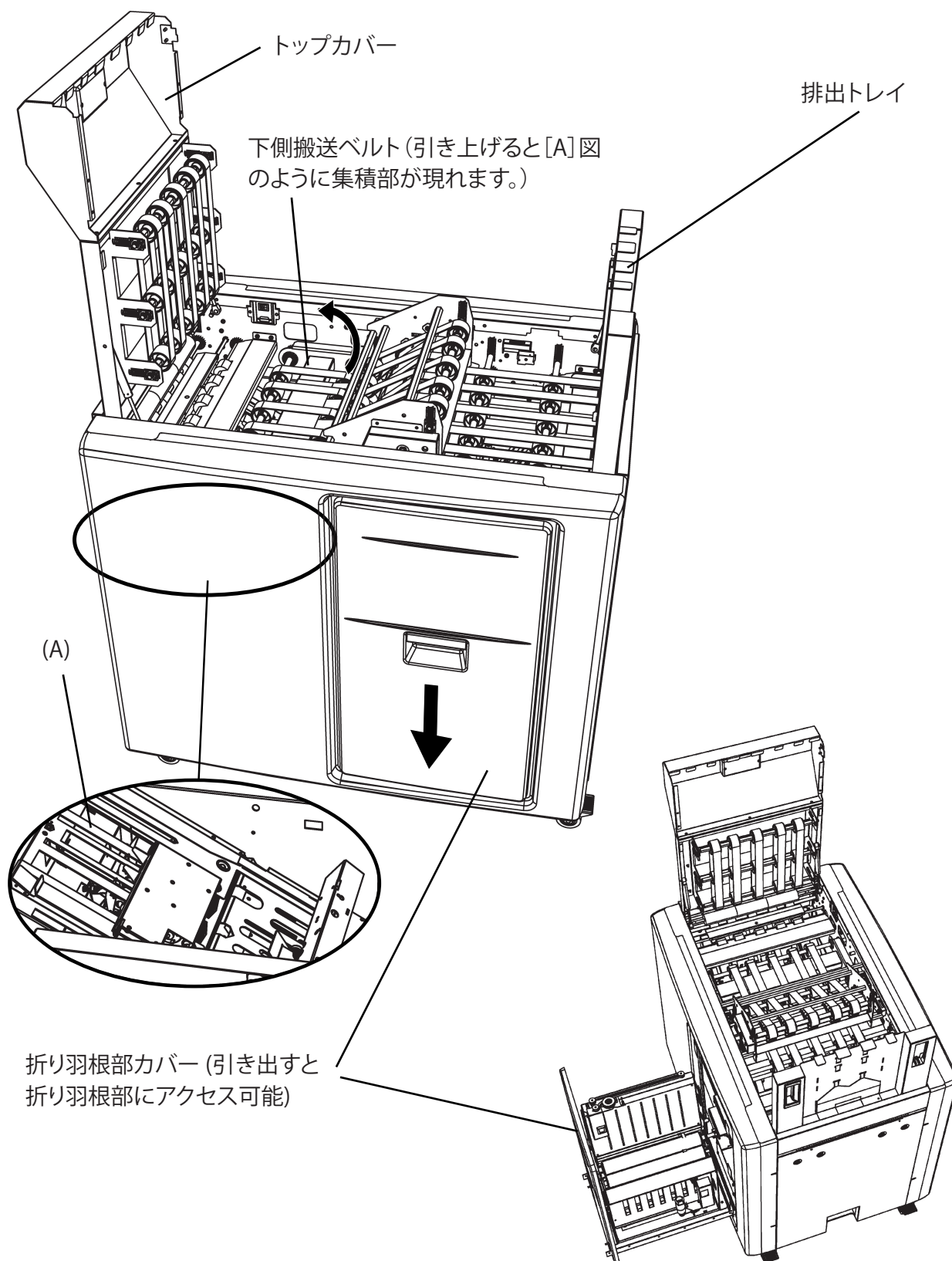
紙づまりを解消するために、次のカバーやモジュールを開けることができます。

タワーフィーダードア



フォルダー

紙づまりを解消するために、次のカバーやモジュールを開けることができます。



このページは意図的に空白になっています。

7.トラブルシューティング

一般事項

万一、ジャム(紙詰まり)などのエラーが発生した場合は、インサーターのディスプレイに表示されます。システムのどのユニットで、どのような障害が発生したかは、通常、ディスプレイの下部にテキストまたは障害コードとして表示されます。

エラーが発生した場合は、再起動、ジョブの再読み込みを試してください。それでも解決しない場合は、サービス担当者に連絡してください。

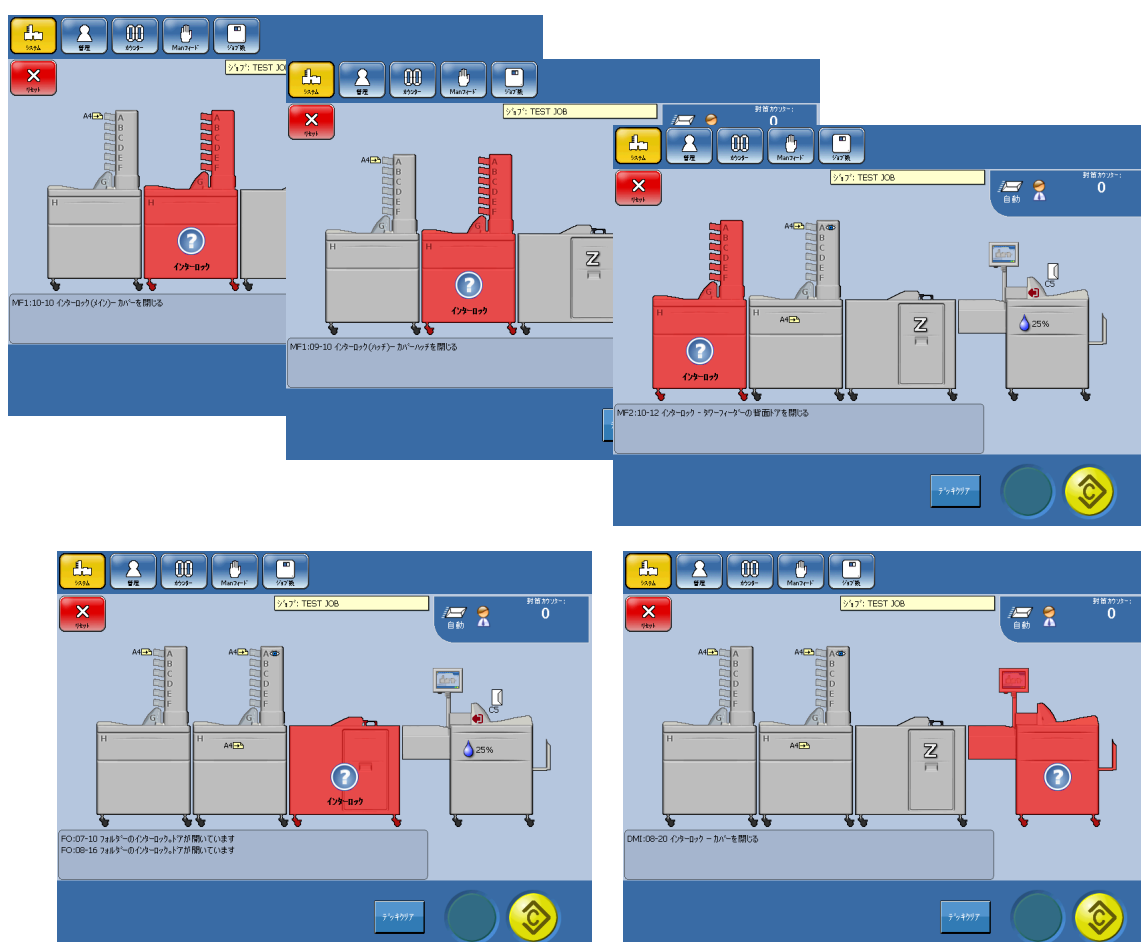


このセクションの説明や「2 操作方法」セクションの「ヒントとコツ」で問題が解決しない場合は、認定技術者に連絡してください。

表示されるメッセージ

インターロック

いずれかのカバーが開いている場合に表示されます。画面上のテキストは、開いているカバーを示しています。



次ページに続く

表示されるメッセージ(続き)

DMI:06-22 スタッカーからセットを取り除く

最後に処理された封筒は正しくない場合があります。スタッカー内の一番上の封筒を確認してください。[リセット]ボタンを押すと、メッセージが終了します。

DMI:06-15 スタッカーが満杯

スタッカーが満杯です。封筒を取り除いてください。[リセット]ボタンを押すと、メッセージが終了します。

注

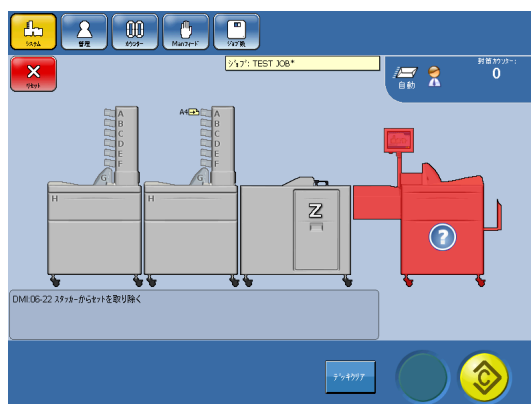
ベルトスタッカーを使用していて問題が発生した場合は、認定技術者に連絡してください。

DMI:01-14 封筒積載量不足

封筒フィーダーに封筒を追加してください。[リセット]ボタンを押すと、メッセージが終了します。

DMI:07-16 封筒封緘水量を確認

封筒封緘水量を点検し、**1 基本**の「充填/補充液」に記載されている要領で封緘水を充填します。[リセット]ボタンを押すと、メッセージが終了します。



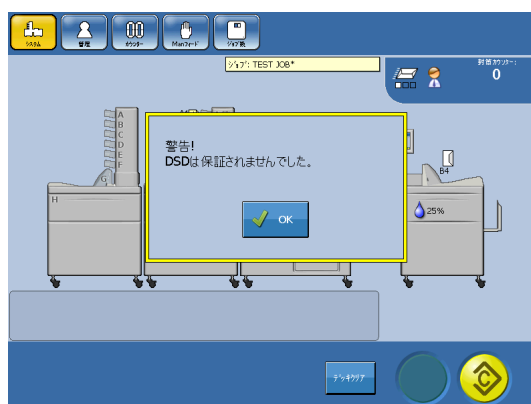
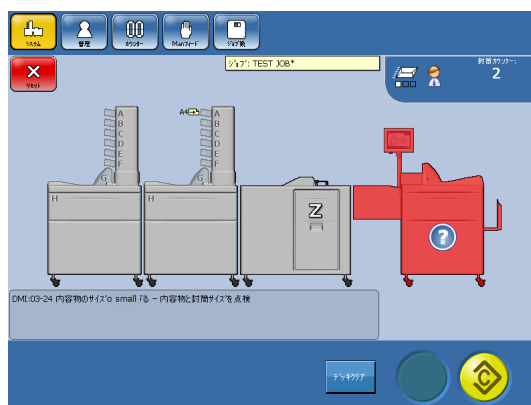
警告

DMI:03-24 用紙サイズが小さすぎます。

封筒と比較して、用紙サイズが推奨サイズ以下です。そのため、操作に悪影響を及ぼす可能性があります。[リセット]ボタンを押すと、メッセージが終了します。

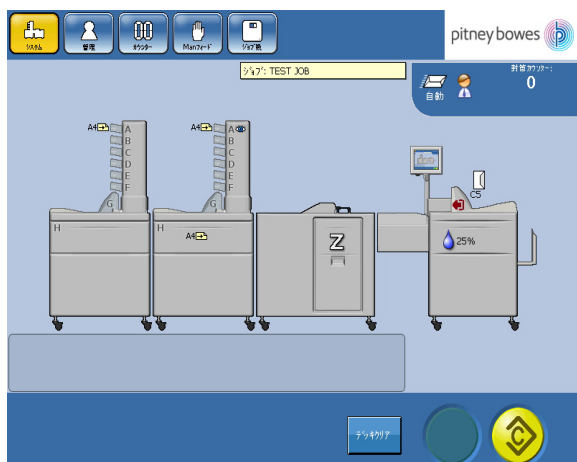
DSDは保証されませんでした。

極端に光を吸収する紙や厚い紙を使用した場合、重送検知機能に制限があり、重送検知が保証されません。吸光紙や厚紙を使用していないにもかかわらず問題が解決しない場合は、認定技術者にご相談ください。

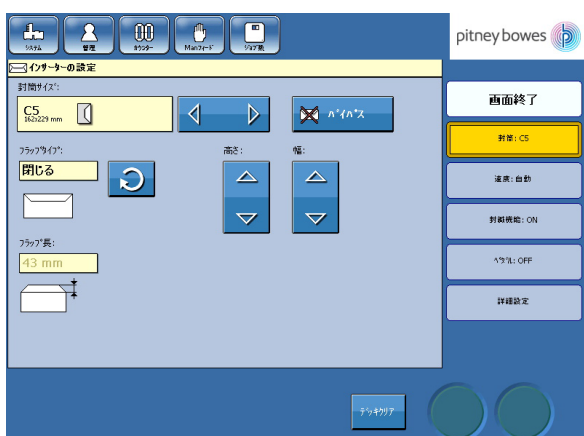


封筒搬送の問題

- 封筒搬送の問題は、いくつかの原因が考えられます。この問題の原因を診断するには、必ずフィーダーと封筒のセット方法を見ることから始めてください。一部の問題は、機器設定で解決することができます。



1 メインスクリーンから、インサーターを選択します。



2 「詳細設定」ボタンを選択します。



3 「遅延時間」ウィンドウの横にある[矢印]ボタンを選択します。

封筒搬送の問題、続き



- 4 「封筒フィーダー設定詳細」の例を参考に調整し、[OK] ボタンを選択します。

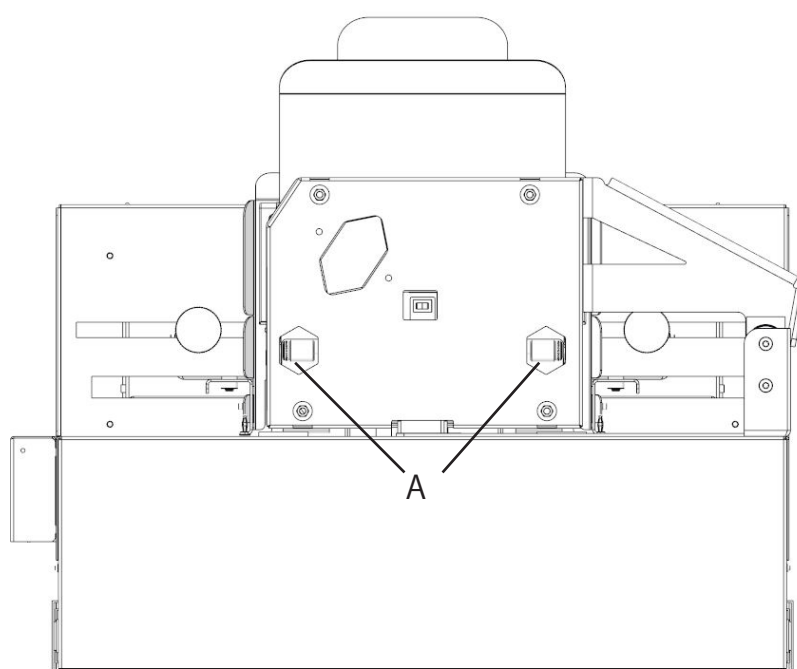
封筒フィーダー設定詳細

このセクションでは、さまざまな種類の封筒に対応した封筒フィーダーの設定方法について説明します。“バックウォールを傾ける”と記載している封筒については、以下の手順をご参照ください。

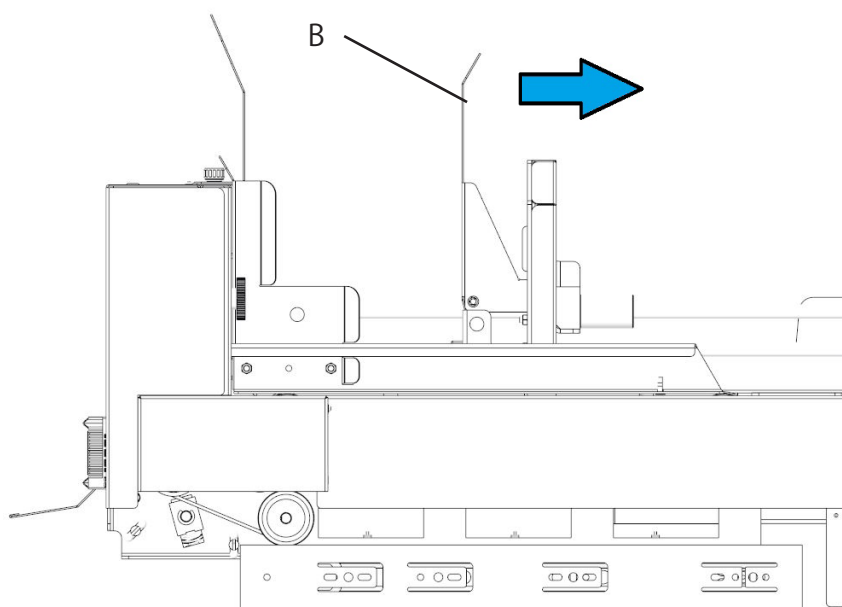
注

封筒フィーダーの部品の詳細については、「部品ガイド」の項を参照してください。

バックウォールを傾ける



- 1 封筒フィーダーの背面のロックネジ[A]を緩めます。



- 2 バックウォール[B]を傾け、ロックネジ[A]を締め付けます。

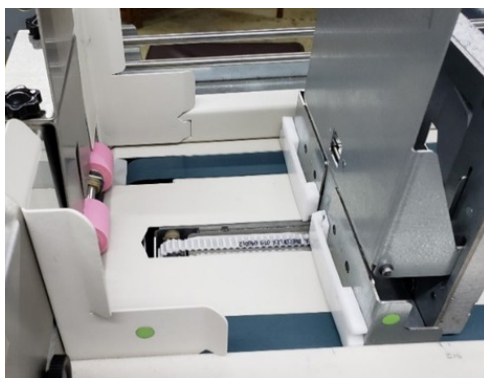
封筒フィーダー設定詳細、続き

#10 & C6/5 窓無し/一つ窓 封筒

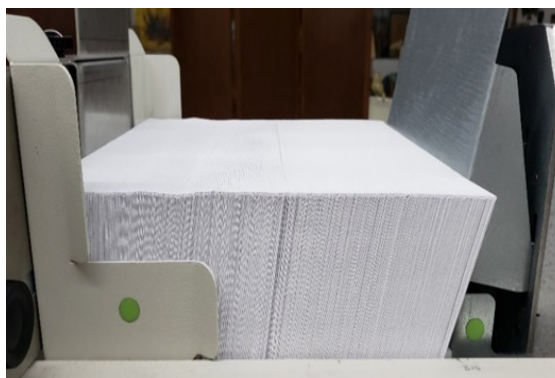
両側とも封筒の幅+0.5 mmで調整
フロントウォール：中間位置
バックウォール：スプリングロード式
バックウォール下部にスペーサーを2つ配置
遅延時間：20 ms
封筒積載：バックウォールを傾ける

特記事項

一般的に非常によく動く。封筒にダメージが見られる場合、遅延時間を減らすことにより改善する場合があります(5msで開始し、それ以上必要かどうか評価します)。



通常設定



通常の封筒積載方法

#10 & C6/5 二つ窓または大型窓のある封筒

両側とも封筒の幅+0.5 mmで調整
フロントウォール：伸長
バックウォール：スプリングロード式
バックウォール下部にスペーサーを2つ配置
遅延時間：3 ms
封筒積載：バックウォールを傾ける

特記事項

これらの多くは、ウィンドウにしわが寄るのを防ぐために、遅延時間を3 ms以下の低い値に設定します。



フロントウォール 伸長



二つ窓または大型窓封筒の積載

封筒フィーダー設定詳細、続き

6 X 9, 6X9.5 & C5 サイズ 窓無し / 窓あり封筒

両側とも封筒の幅+0.5 mmで調整

フロントウォール：中間位置

バックウォール：スプリングロード式

バックウォール下部にスペーサーを2つ配置

遅延時間：20 ms

封筒積載：バックウォールを傾ける

特記事項

通常、標準的な設定でよく動作します。ただし、C5素材(薄くて弱い)封筒の場合は封筒にダメージが見られることがあります。その場合は遅延時間を減らしてみてください。



通常設定



A4二つ折り封入用封筒の積載例

6 X 9, 6X9.5 & C5 サイズ 窓無し / 窓あり封筒

両側とも封筒の幅+0.5 mmで調整

フロントウォール：中間位置

バックウォール：10 mm傾ける

バックウォール下部にスペーサーを2つ配置

遅延時間：20 ms

封筒積載：背面壁に若干の角度をつける

特記事項

スタックが重すぎて、傾きが崩れる場合、バックウォールを調整して、フィーダー後部に向かう角度を制限します。C4封筒は10 mmの傾きに調整します。(バックウォール用の黒いスペーサー利用)



定形外封筒の設定



定形外洋封筒の積載

封筒フィーダー設定詳細、続き

C4, 9 X 12 & 10 X 13 窓なし/窓あり封筒

両側とも封筒の幅+0.5 mmで調整

フロントウォール：中間位置

バックウォール：垂直

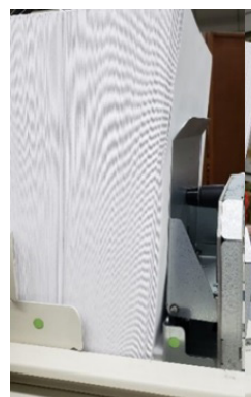
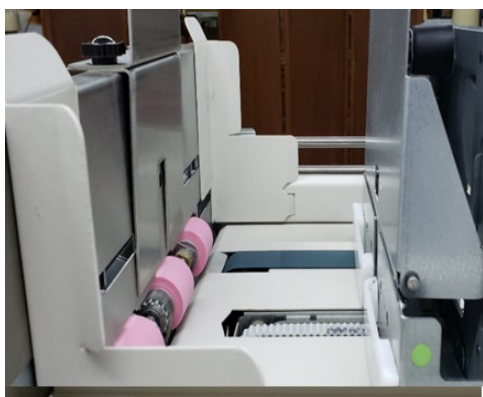
バックウォール下部にスペーサーを2つ配置

遅延時間：20 ms

封筒積載：バックウォール垂直に固定

特記事項

これらの用途では、いずれもバックウォールを垂直に固定する必要があります。



縦型定形外封筒使用時：バックウォール垂直

縦型スタック(前面)

背面図
スペーサー

フィード不良の発生する封筒

大きなカールやねじれがある封筒：スペーサーを利用して調整。

カールやねじれによりフロントウォールに接しない：後端側のスペーサーを2倍にする。

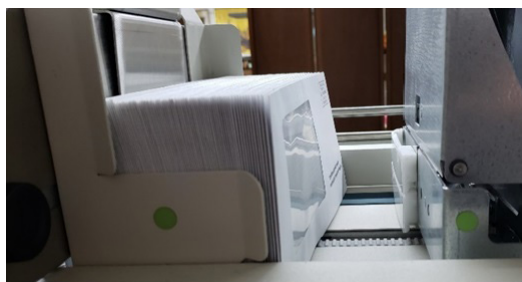
片側に大きな窓：両方のスペーサーを大きな窓の反対側に配置。

特記事項

6.4 mmを超えるねじれ(角から角)、カール(あらゆるエッジ)、反りのある素材は規格外です。



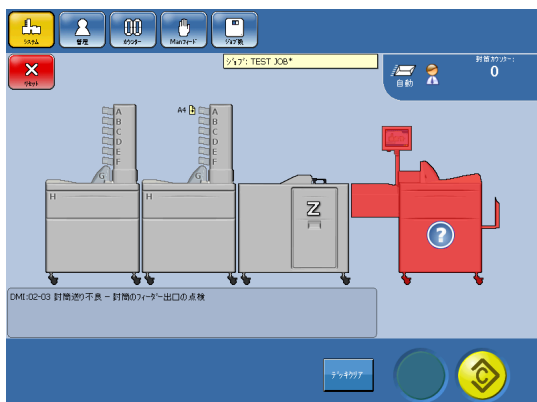
カールまたはねじれ - 下側角の引き込みをスペーサーにより調整する



片側に二つのスペーサーを配置
大きな窓の反対側

エラーコード

インサーターのエラーコード



以下に示すすべてのインサーターのエラーコードは、図のように表示されます。エラーコード部分は実際のコードが表示されます。

DMI:0203 封筒送り不良

封筒ジャム。封筒フィーダーをスライドさせて開き、トップカバーを開けます。封筒を取り除きます。メッセージ画面を閉じるには、[リセット]ボタンを押します。

「4設定」に従い、封筒のサイズが正しく設定されていることを確認してください。

- ・「4設定」に従って、正しい封筒タイプが設定されていることを確認してください。クローズフラップの封筒を使用しているときに、フラップタイプ:オープンを選択していると、この不具合が発生します。
- ・封筒のフラップが他の封筒に折り重なっていないことを確認してください。

DMI:0404 フラップ開けミス

封筒のフラップを正しく開けませんでした。

封筒フィーダーをスライドさせて開き、封筒を取り除きます。[リセット]ボタンを押してメッセージを終了します。

- ・「1基本事項」の「インサーターへの封筒の積載」の説明に従って、封筒が正しくセットされていることを確認してください。
- ・「4設定」に従って、正しい封筒タイプ(オープンフラップまたはクローズフラップ)が選択されていることを確認してください。

DMI:0406 スロートオープナーでの封筒開けミス

封筒を正しく開けませんでした。封筒フィーダーをスライドさせて開き、封筒を取り除いた後、[リセット]ボタンを押してメッセージを終了してください。

「1基本事項」の「インサーターへの封筒の積載」の説明に従って、封筒が正しくセットされていることを確認してください。

- ・サイドガイドを調整します。サイドガイドを緩く設定すると、封筒がまっすぐに送られず、封筒の開封不良の原因になります。
- ・セパレート圧を調整します。セパレート圧が不均一に設定されていると、封筒がまっすぐに送られず、封筒の開封ミスが発生することがあります。
- ・「2操作方法」の「ヒントとコツ」に従い、用紙サイズを変更します。
- ・このエラーを回避するために、「4設定」の詳細設定に記載されているように、封筒の停止位置を調整することができます。
- ・それでも問題が解決しない場合は、封筒が柔らかすぎるか、適切に糊付けされていないことが原因である可能性があります。封筒の要件については、「9仕様」を参照してください。

次ページに続く

インサーターのエラーコード、続き

DMI:0107 封筒が送られません

封筒フィーダーから封筒を送り込むことができませんでした。メッセージ画面を閉じるには、[リセット] ボタンを押します。

- 積載されている封筒が少ない場合は、追加のおもりを使用して封筒のミスフィードを防ぐことができます。
- 「4 設定」に従い、封筒のサイズが正しく設定されていることを確認してください。
- サイドガイドがきつすぎないか確認、調整します。
- 「8 一般情報」の「機械のメンテナンス」に従い、封筒フィードローラーを点検/清掃してください。

DMI:0508 封筒がスタックしました

封筒ジャム。封筒フィーダーをスライドさせて開き、封筒を取り除きます。メッセージ画面を閉じるには、[リセット] ボタンを押します。

- 「8 一般情報」の「機械のメンテナンス」に従って、用紙経路を清掃してください。
- それでも問題が解決しない場合は、認定技術者に連絡してください。

DMI:0609 封緘部ジャム

封緘が失敗しました。封緘されていない封筒をスタッカーから取り除きます。メッセージ画面を閉じるには、[リセット] ボタンを押します。

- 用紙経路がきれいであるか確認してください。糊が付着していると、封緘エラーの原因になります。「8 一般情報」の項にある「機械のメンテナンス - 封緘機構の清掃」を参照してください。
- 封緘機構の清掃プログラムを実行します。「8 一般情報」の「機械のメンテナンス - 封緘機構の清掃」を参照してください。
- 「4 設定」の「インサーターの設定」に従い、シール液の量を調整します。
- 「4 設定」のインサーターの設定に従って、速度を下げてください。
- 「4 設定」のインサーターの設定に従って、封緘ディレイを増やしてください。
- 「4 設定」のインサーターの設定に従って、封入オフセットを大きくしてください。

DMI:0310 プッシャーベルトスタック

インフィードデッキまたはインサーター内部で紙や封筒が詰まりました。

- インフィードデッキのカバーを開け、封筒フィーダーをスライドさせて開き、内容物セットと封筒を取り除きます。メッセージ画面を閉じるには、[リセット] ボタンを押します。
- それでも問題が解決しない場合は、認定技術者に連絡してください。

次ページに続く

インサーターのエラーコード、続き

DMI:0311 封入ミス

封入が失敗しました。インフィードデッキのカバーを開け、封筒フィーダーをスライドさせて開き、内容物セットと封筒を取り除きます。メッセージ画面を閉じるには、[リセット]ボタンを押します。

- この不具合を防ぐため、封筒の停止位置を「**4 設定**」の「停止位置」に従って調整することができます。
- 返信用封筒を給紙する場合は、返信用封筒のフラップ面を下にしてセットしてください。
- それでも問題が解決しない場合は、認定技術者に連絡してください。

DMI:0312 封入不良

封入が失敗しました。

- インフィードデッキのカバーを開け、封筒フィーダーをスライドさせて開き、内容物セットと封筒を取り除きます。メッセージ画面を閉じるには、[リセット]ボタンを押します。
- それでも問題が解決しない場合は、認定技術者に連絡してください。

DMI:0113 サイズがありません

テスト実行時に、メールフィーダーの設定で設定したインサートサイズが、インサーターの設定で選択した封筒サイズを超える場合に表示される画面です。メッセージ画面を閉じるには、[リセット]ボタンを押します。

- インサーターとメールフィーダーの設定が正しいか確認してください。
- 用紙の向き(横/縦)が正しく選択されていることを確認してください。
- 「**1 基本事項**」の「封入物の容量」を参照し、封筒内に封入物の厚さに応じた十分なクリアランスがあることを確認してください。

DMI:0317 デッキ上に 2 セットの用紙があります

稼働中に 2 セットの封入物が送り込みデッキに送られた場合に、この画面が表示されます。

- インフィードデッキカバーを開いて封入物を取り除きます。
- メッセージ画面を閉じるには、[リセット]ボタンを押します。

DMI:0318 用紙をインフィードデッキから取り除いてください

起動時に送り込みデッキに用紙が置かれていると、この画面が表示されます。

- インフィードデッキカバーを開いて封入物を取り除きます。
- メッセージ画面を閉じるには、[リセット]ボタンを押します。

DMI:0219 封筒を機器内部から取り除いてください

起動時にトップカバーの下で封筒ジャムが発生していると、この画面が表示されます。

- 封筒フィーダーをスライドさせて開き、トップカバーを開けます。
- 封筒を取り除きます。
- メッセージ画面を閉じるには、[リセット]ボタンを押します。

インサーターのエラーコード、続き

DMI:0323 デッキ部のストッパーを確認してください

インフィードストッパーがインフィードデッキの正しい位置で用紙を停止できませんでした。

- ・ インフィードデッキカバーを開き、封入物セットを取り出します。
- ・ メッセージ画面を閉じるには、[リセット]ボタンを押します。
- ・ それでも問題が解決しない場合は、認定技術者に連絡してください。

DMI:0525 封筒搬送ミス

封筒が封緘部センサー上に滞留しています。

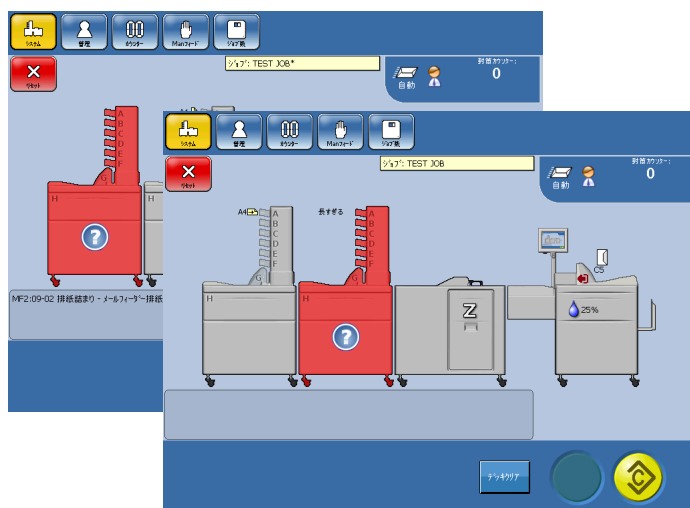
カバーを開け、封筒を封緘部から取り出します。

DMI:0326 デッキ部用紙搬送ミス

用紙の送り込みに失敗した場合に、この画面が表示されます。

- ・ [リセット]ボタンを押してメッセージを終了し、システムを再起動します。
- ・ エラーが解決しない場合は、認定技術者に連絡してください。

メールフィーダーのエラーコード



以下に示すすべてのメールフィーダーのエラーコードは、図のように表示されます。エラーコード部分は実際のコードが表示されます。

MFX:0902 排紙詰まり

メールフィーダーの排出部で紙詰まりが発生しています。

- ・ 排出ハッチを持ち上げて用紙を取り除きます。「**6 ジャムの解消**」を参照してください。
- ・ メッセージ画面を閉じるには、[リセット]ボタンを押します。

MFX:1011 メールフィーダーの設定不良

メールフィーダーが正しく設定されていません。

- ・ 「**4 設定**」に従い、メールフィーダーの設定で送り込み順序を設定してください。
- ・ メッセージ画面を閉じるには、[リセット]ボタンを押します。

長すぎる

テストに使用した用紙と比較して、紙/冊子が長すぎます。
ダブルフィード、または用紙の入れ間違いの可能性があります。

- ・ ブックレットフィーダーの場合は、「**1 基本事項**」のブックレットフィーダーへの冊子の積載を参照しセパレート圧を調整します。

次ページに続く

メールフィーダーのエラーコード、続き

- ・「**8 一般情報**」の「機械のメンテナンス」を参照し、セパレーターパッドを清掃してください。

短すぎる

テストに使用した用紙と比較して、紙/冊子が短すぎます。

テスト時に誤った用紙が積載されていたか、用紙フィード時に斜行していたことが考えられます。

- ・ 用紙を確認し、必要であれば再度テストを行います。
- ・ サイドガイドが正しく調整されていることを確認します。

タイムアウト

アキュムレーターが期待された材料封入物を受け取らなかったときに表示されます。

厚すぎる／薄すぎる

テストに使用した用紙と比較して、紙/冊子が厚すぎる/薄すぎます。

ダブルフィード、設定と異なる用紙の積載、または用紙が正しくセットされていないことが原因であると思われます。

- ・ ブックレットフィーダーの場合は、「**1 基本事項**」のブックレットフィーダーへの冊子の積載を参照しセパレート圧を調整します。
- ・ 「**8 一般情報**」の「機械のメンテナンス」を参照し、セパレーターパッドを清掃してください。
- ・ ダブルフィードが原因でない場合は、用紙を確認し、すべての用紙が同じ方向に揃えられていることを確認してください。

注

すでに丁合い済みの封入物を送り込む際にジャムが発生した場合は、フィーダーに封入物がすべてそろっていることを確認してください。これによって、封入プロセスを続行して、用紙を正しい順序で封筒に封入することができます。

用紙無し

用紙や冊子を補充してください。

注

黒く印刷された用紙を使用し、黒の領域が用紙切れセンサーの位置にくるように積載すると、センサーに誤ってフィーダーが空だと表示されることがあります。

用紙搬送ミス

用紙を送り込めませんでした。

- ・ ブックレットフィーダーの場合は、「**1 基本事項**」のブックレットフィーダーへの冊子の積載を参照しセパレート圧を調整します。
- ・ タワーフィーダーの場合は、「**1 基本事項**」の「タワーフィーダーへの用紙の積載」にあるように、すべての用紙がセパレートビームにあたるように置かれていることを確認してください。
- ・ 「**8 一般情報**」の「機械のメンテナンス」を参照し、フィードローラーを清掃してください。

メールフィーダーのエラーコード、続き

用紙ジャム

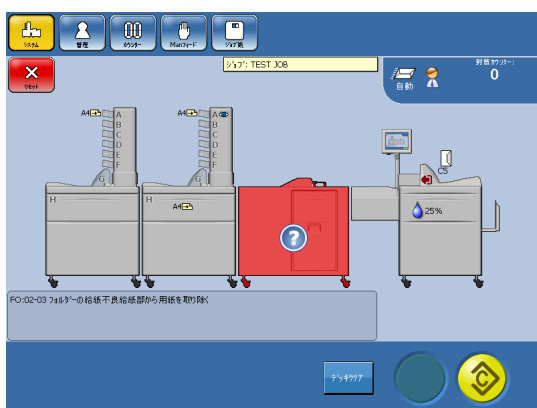
「6 ジャムの解消」を参照し、用紙を取り除く。

- ・セパレートパッドは「8 一般情報」の「機械のメンテナンス」に記載されている方法で清掃してください。
- ・「8 一般情報」の「機械のメンテナンス」を参照し、フィードローラーを清掃してください。
- ・「1 基本事項」に記載されている通り、用紙や冊子が正しくセットされていることを確認してください。用紙はインクが乾いていることを確認し、よく捌いてから、揃えて積載してください。

注

すでに丁合い済みの封入物を送り込む際にジャムが発生した場合は、フィーダーに封入物がすべてそろっていることを確認してください。これによって、封入プロセスを続行して、用紙を正しい順序で封筒に封入することができます。

フォルダーのエラーコード



以下に示すフォルダーのエラーコードは、すべて図のように表示されます。エラーコード部分は実際のコードが表示されます。

FO:0102 バイパス部ジャム

フォルダーのバイパス部で紙詰まりが発生しました。

- ・トップカバーと排出トレイを持ち上げて、用紙を取り除きます。
- ・[リセット]ボタンを押すと、メッセージが終了します。

FO:0203 用紙搬送ミス(入口)

給紙に失敗した場合にこの画面が表示されます。

- ・トップカバーと排出トレイを持ち上げて、用紙を取り除きます。
- ・[リセット]ボタンを押すと、メッセージが終了します。
- ・エラーが解決しない場合は、認定技術者に連絡してください。

FO:0304 集積部エラー

集積部で紙詰まりが発生しました。

- ・トップカバーを開け、下部の搬送ベルトを持ち上げた状態にして、集積部にアクセスできるようにします。
- ・詰まった紙を取り除いてください。
- ・[リセット]ボタンを押すと、メッセージが終了します。

次ページに続く

フォルダーのエラーコード、続き

FO:0406 折りエラー

紙折部で紙詰まりが発生しています。

折り羽根部のカバーを開いて、用紙を取り除きます。[リセット]ボタンを押すと、メッセージが終了します。

FO:0507 用紙搬送ミス(出口)

紙折部で紙詰まりが発生しています。

折り羽根部のカバーを開いて、用紙を取り除きます。[リセット]ボタンを押すと、メッセージが終了します。

FO:0508 用紙搬送エラー (出口)

フォルダーの排紙部で紙詰まりが発生しています。

排出トレイを持ち上げ、用紙を取り除きます。[リセット]ボタンを押すと、メッセージが終了します。

FO:0609 排出トレイのクリア

排出トレイから用紙を取り除きます。

FO:0212 入口部分の用紙をクリアしてください

入口部分に紙詰まりがある状態で本機を稼働させようとした場合に表示されます。

トップカバーを持ち上げて、用紙を取り除きます。[リセット]ボタンを押すと、メッセージが終了します。

FO:0313 集積部の用紙をクリアしてください

この画面は、集積部に紙詰まりが残っている状態で本機を動かそうとした場合に表示されます。

- ・ トップカバーを開け、下部の搬送ベルトを持ち上げた状態にして、集積部にアクセスできるようにします。詰まった紙を取り除いてください。
- ・ メッセージ画面を閉じるには、[リセット]ボタンを押します。

FO:0414 折り機内の用紙をクリアしてください

この画面は、フォルダーに紙づまりがある状態で本機を稼働させようとした場合に表示されます。

- ・ 折り羽根部カバーを引き出し、紙づまりのある折り羽根部を持ち上げて紙を取り除きます。
- ・ メッセージ画面を閉じるには、[リセット]ボタンを押します。

FO:0515 出口部分の用紙をクリアしてください

排紙部に紙づまりがある状態で本機を稼働させようとした場合に表示されます。

- ・ 排出トレイを持ち上げて、用紙を取り除きます。
- ・ メッセージ画面を閉じるには、[リセット]ボタンを押します。

FO:0419 折る用紙が厚過ぎます

折る用紙が厚過ぎます。

セットに含まれる紙の許容量と重量は、「9仕様」に記載されています。

「4設定」を参照し、適宜セットを調整するか、セットを分割してください。

FO:0320 折る用紙が小さ過ぎます

折る用紙が小さ過ぎます

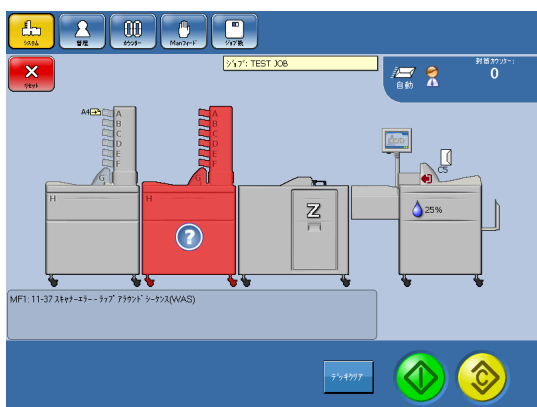
9章の仕様で、フォルダーの許容サイズに合わせてメールフィーダーの設定を行います。

FO:0421 折り機の設定と合っていません

メールフィーダーで折りタイプが設定されていて、フォルダー設定で折りタイプが設定されていない時にテストを実行すると、このメッセージが表示されます。

メッセージ画面を閉じるには、[リセット]ボタンを押します。

OMR/BCRのエラーコード



以下に示すOMR/BCRのエラーコードは、すべて図のように表示されます。エラーコード部分は実際のコードが表示されます。

一般的な手順

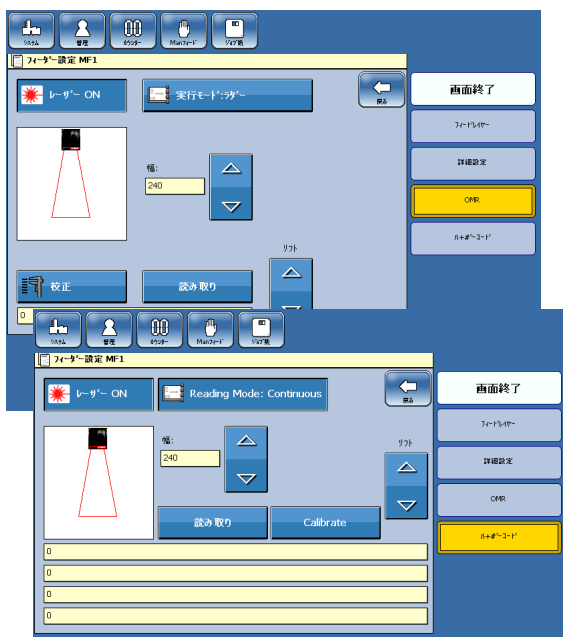
明らかな理由がなくエラーが検出された場合は、以下の手順で対処してください。

- レーザービームがコードの両端プラス15 mmをカバーしていることを確認してください。「4設定」の「OMRプロファイルの使用」または「BCRプロファイルの使用」を参照してください。
- フィーダーで適切な積載が行われ、積載された用紙がサイドガイドによってフィーダーの中央に配置されていることを確認します。1基本事項の「タワーフィーダーへの用紙の積載」を参照してください。
- OMRを使用する場合は、スキャナーがキャリブレーションされていることを確認します。「4設定」の「OMRプロファイルの使用」を参照してください。
- 正しいOMR/BCRプロファイルが選択されていることを確認します。「4設定」の「OMRプロファイルの使用」または「BCRプロファイルの使用」を参照してください。
- OMRを使用する場合、スキャナーが正しい方向からコードを読み取ることを確認してください。「4設定」の「OMRプロファイルの使用」を参照してください。
- 正確なコード読み取り方向(ラダー／フェンス)が選ばれていることを確認します。「4設定」の「OMRプロファイルの使用」または「BCRプロファイルの使用」を参照してください。

次ページに続く

一般的な手順、続き

- BCRコードが読み取れない場合、コード密度が仕様範囲内であることを確認してください。それでも直らない場合は、手動でコードが検出できることを確認してください。



- 1 メインスクリーンでメールフィーダーをタッチします。
- 2 【OMR】または【バーコード】のボタンを押します。
- 3 [スキャナー] ボタンを押します。
- 4 [読み取り] ボタンを押します。

エラーコード

MF1:11-33 コードなしエラー

コードが全く検出されません。

MF1:11-34 スキャナーエラー - パリティ

パリティチェックが検出されました。

- パリティを偶数(マーク数)に設定している場合に、奇数(マーク数)を検出しました。
- は、パリティを奇数(マーク数)に設定している場合に、偶数(マーク数)を検出しました。

MF1:11-35 スキャナーエラー – 常時1

整合性チェックで、1が期待されたのに0(ゼロ)が検出されました。

MF1:11-36 スキャナーエラー – 常時0

整合性チェックで、0(ゼロ)が期待されたのに1が検出されました。

MF1:11-37 スキャナーエラー – ラップアラウンドシーケンス(WAS)

シーケンスカウンターは、シーケンス内のシートの供給順序の乱れを検出しました。例えば、24,25,26ではなく、24,25,29と数えるなどです。

MF1:11-38 スキャナーエラー – セット内照合(SI)ビットエラー

セットの整合性チェックで、SI値が同じセット内で同じ値を運ばないことが検出されました。

MF1:11-41 スキャナーエラー – 開始ページ(BOC)なし

End Of Collation(EOC)を検出した後、Beginning Of Collation(BOC)が検出されませんでした。EOCを検出した後、次のシートでBOCが期待されます。BOCマークは必須ではないため、OMRコードにBOCが定義されている場合のみ適用されます。

次ページに続く

エラーコード、続き

MF1:11-42 スキャナーエラー — 終了ページ(EOC)なし

EOC (End Of Collation) が検出されずにBOC (Beginning Of Collation) が検出されました。BOCの直前には、その前のシートにEOCがあることが想定されます。

MF1:11-43 スキャナーエラー — タイムアウト

このエラーコードは、スキャナからの応答が間に合わない場合に発生します。一般的な手順で解決できない場合は、サービスに連絡してください。

MF1:11-44 スキャナーエラー — ピンが含まれていない

サイクルアップ中、スキャナーがOnに設定されているときに、フィーダーAがタワーフィーダーの使用フィーダーリストに含まれていないことが検出されました。

MF1:11-45 スキャナーエラー — パリティコンフリクト

サイクルアップ中に、パリティ偶数とパリティ奇数の両方がコードに含まれることが検出されました。

MF1:11-46 スキャナーエラー — ハンドフィードコンフリクト

サイクルアップ時に、ハンドフィードラストとハンドフィードファーストの両方がコードに含まれていることが検出されました。

MF1:11-47 スキャナーエラー — BOC前にEOCがない

サイクルアップ中に、コードにEOC (End Of Collation) がないことが検出されました。

MF1:11-48 スキャナーエラー — 複数のスキャナーレイヤー

サイクルアップ中に、複数のレイヤーでフィーダーAが選択されていることが検出されました。

MF1:11-49 スキャナーエラー — スキャナー設定枚数 > 1

サイクルアップ中に、フィーダー Aが複数のレイヤーで選択され、数量が1より大きく設定されていることが検出されました。

MF1:11-50 スキャナーエラー — スキャナーが選択的

サイクルアップ中に、フィーダーAが選択フィールドに設定されていることが検出されました。

MF1:11-51 スキャナーエラー — スキャナーがペア

サイクルアップ中に、フィーダーAが他のフィーダーにリンクしていることが検出されました。

MF1:11-59 スキャナーエラー — セット内シーケンス(SSQ)エラー

セット内シーケンスカウンターが、送り込まれた用紙のシーケンス順が違うことを検出しました。例えば、1,2,3ではなく、1,2,5と数えるなどです。

MF1:11-60 スキャナーエラー — スキャナーフィーダーAが空

フィーダーAは空です。

MF1:11-61 STOPマークで停止中

ストップマークが検出されたため、システムが停止しました。

MF1:11-62 スキャナーエラー — BOCがなし

BOC (Beginning Of Collation) がコードで定義されているが、サイクルアップ中にセットの最初のシートで検出されませんでした。

MF1:11-63 スキャナーエラー — BOCが矛盾

サイクルアップ中に、いくつかのBOC (Beginning Of Collation) マークが定義されます。

MF1:11-64 スキャナーエラー — EOCが矛盾

サイクルアップ中に、いくつかのEOC (End Of Collation) マークが定義されます。

8. 一般情報

必須事項と禁止事項

- 機器に表示されている、または機器に付属しているすべての警告に**必ず**従ってください。
- 機器を動かすときは、常に細心の注意を払ってください。機器を移動する場合は、**必ず**サービス担当者にご連絡ください。

注意

移動または再配置する前に、電源コードをコンセントと機械から抜いてください。機器を移動する場合は、必ずサービス担当者にご連絡ください。

- ネジで固定されているカバーやガードは取り外さないでください。
- 電氣的または機械的なインターロック装置を無効にしたり、バイパスしたりしないでください。
- 異音や異臭を感じたら、機器を操作しないでください。その場合は電源コードを抜いて、サービス担当者に連絡して、問題を解決してください。

警告

本製品はクラスA製品です。この機器を一般家庭で使用すると、無線干渉が発生する可能性があります。そのような場合、お客様ご自身で適切な対策を行う必要があります。

注

家庭環境とは、当該機器から10 m以内の距離で放送用ラジオ・テレビ受信機が使用される環境です。

- 本機の動作中は電源スイッチをオフにしないでください。機器の動作が終了していることを確認してください。
- 本機の動作中はカバーを開けないでください。
- 本機の動作中は機械を移動しさないでください。
- 本機に勝手な変更を加えないでください

本機の設置

設置環境

- **必ず**、本機の重量に耐える強度のある堅固な場所に設置してください。
- 磁石や強い磁界を持つ装置を本機に近づけることは避けてください。

設置場所でエアコンや暖房を使用する場合は、以下のような場所に本機を設置しないでください。

- 急激な温度変化にさらされる。
- エアコンの冷風を直接浴びる。
- ヒーターの熱を直接受ける

電源接続

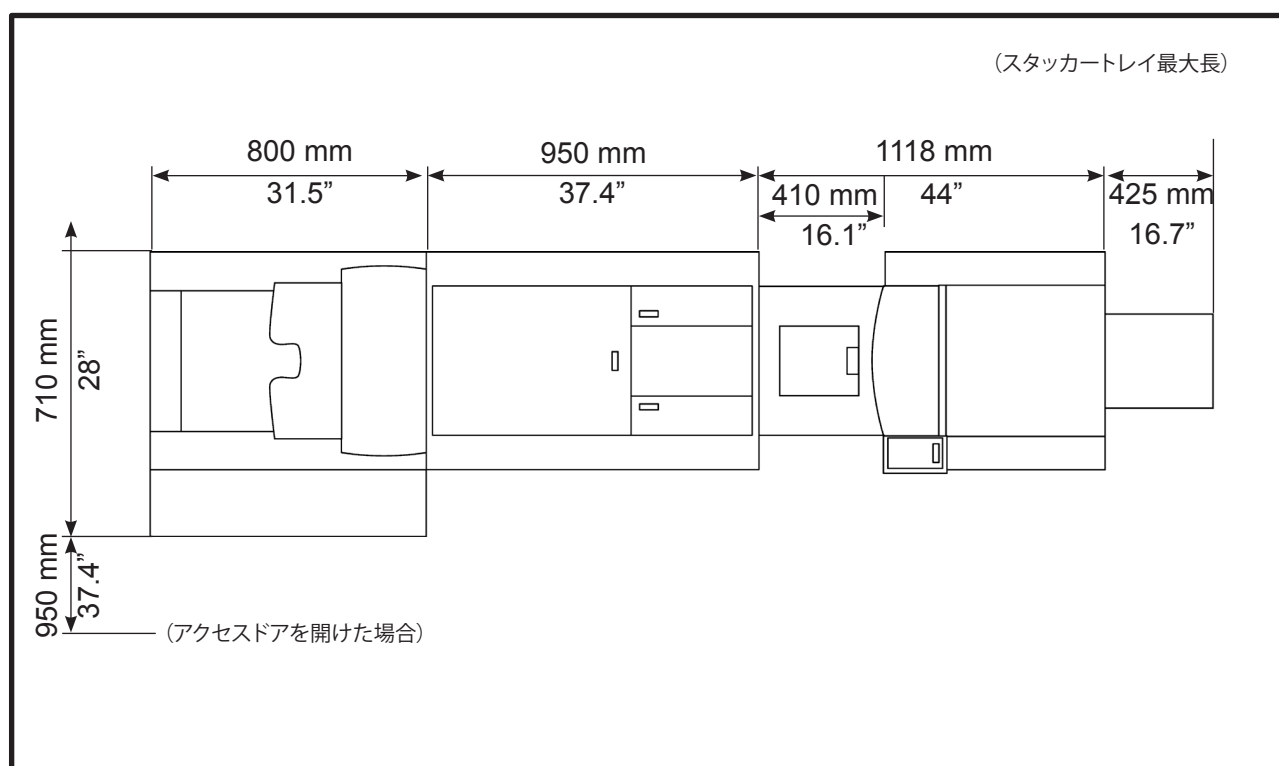
- **必ず**適切にアースを取付けた電源に本機を接続してください。アースが取り付けられているかわからない場合は電気技師に電源の確認を依頼してください。

⚠ **警告** アースが適切に取り付けられていない場合、感電する恐れがあります。

- 本機をアース接続のない電源に絶対に接続しないでください。

設置場所

本機は電源の近くに設置してください。機械寸法は下図の通りです。



機械のメンテナンス

⚠ 注意：

このマニュアルに明記されていないメンテナンスは、絶対に行わないでください。

インサーター

点検箇所	手順	理由	頻度
全ての装置、 用紙経路など	8 一般情報 の手順に従って、 用紙経路を清掃してください。	紙粉等で用紙経路が汚れていると、 用紙や封筒の詰まりの原因となることがあります。	封入10万回ごと
封緘機構の 用紙経路	8 一般情報 の手順に従って、 封緘機構を清掃してください。	糊が付着していると、封緘不良の原因になります。	封入25,000回ごと

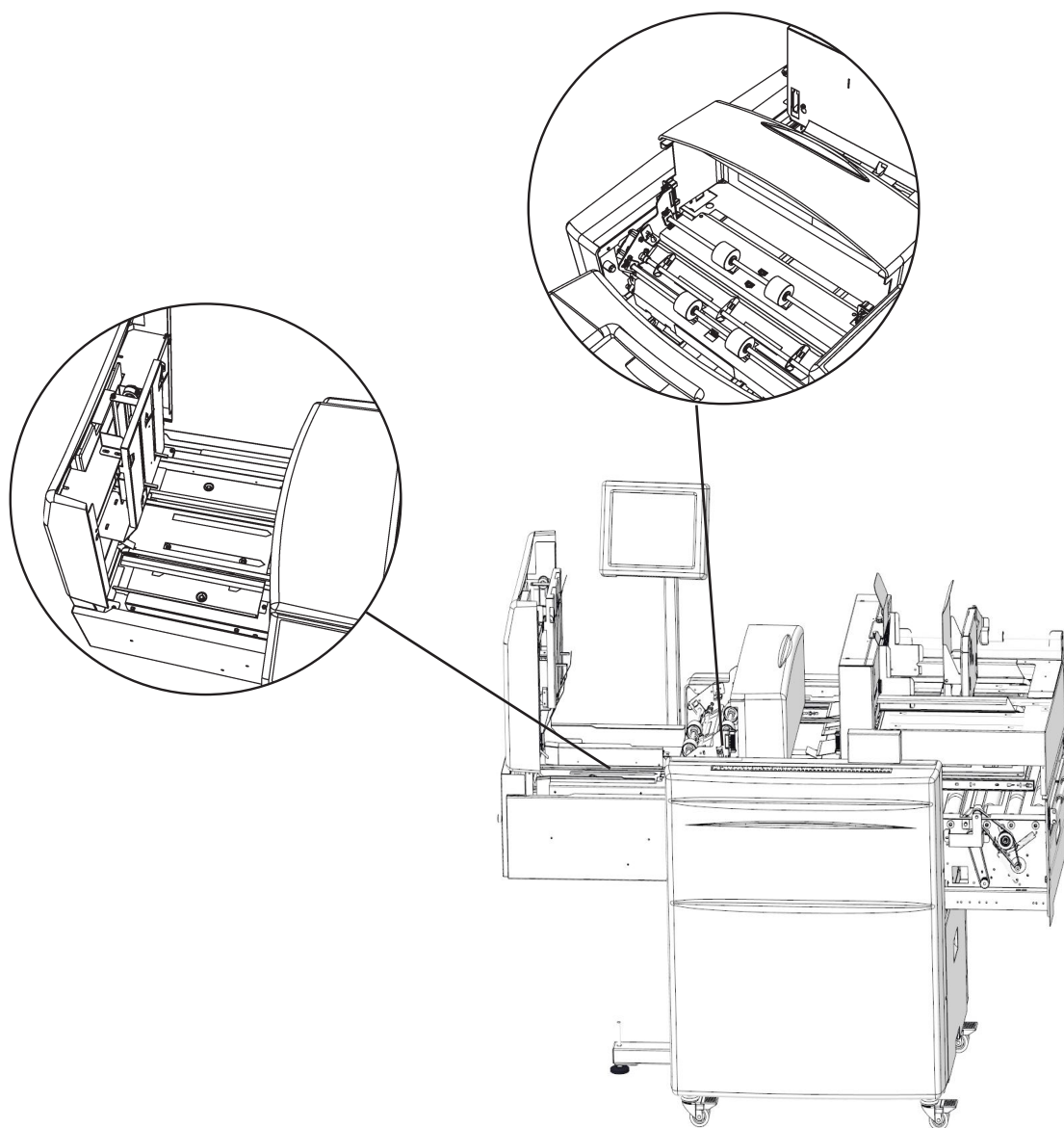
📌 注

メンテナンス機能を実行する頻度は環境、用紙の種類、印刷品質などによって異なります。必要がある場合は、上記に記載した内容より頻繁に清掃を実行してください。

用紙経路の清掃

装置が日常的に使われている場合は定期的に清掃を行う必要があります。装置を一定期間使用しなかった場合にも清掃が必要です。

100,000枚ごとに、または必要に応じてそれ以前に早めに清掃してください。

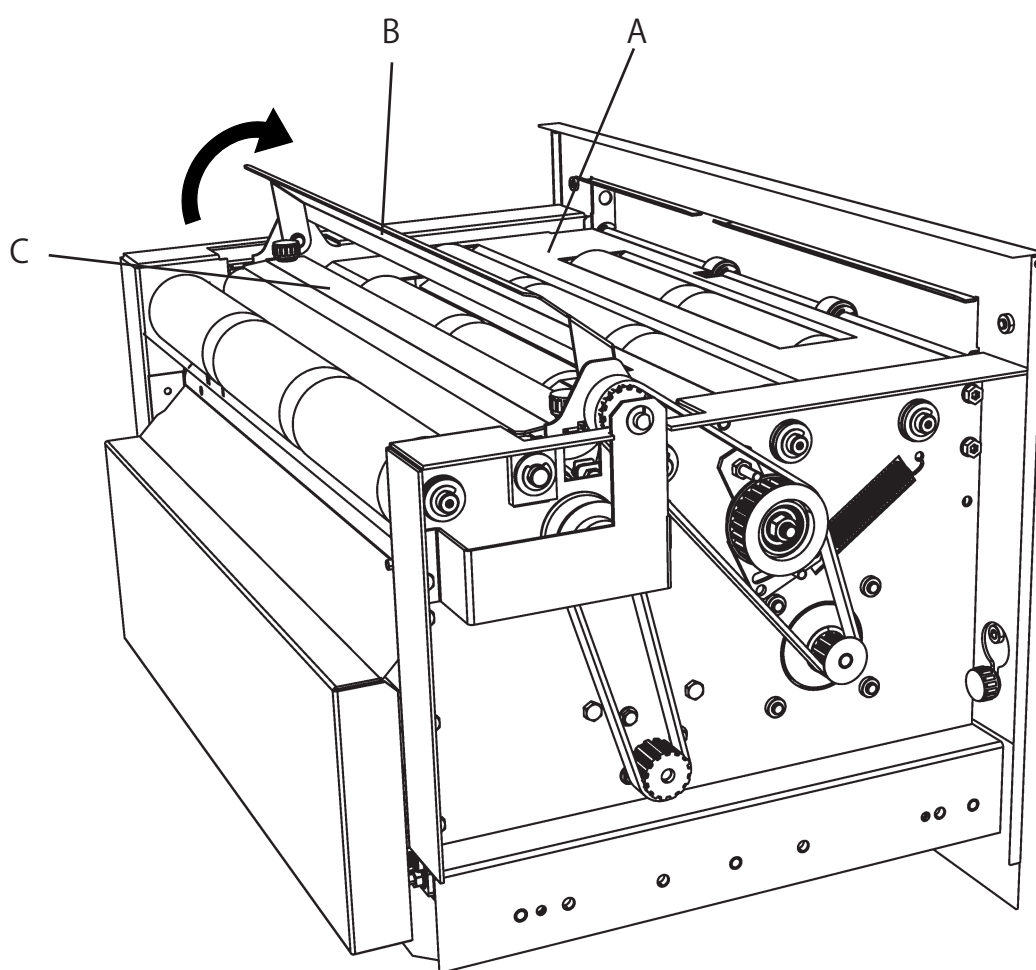


吸引式クリーナー、タオル、ブラシなどを使って、紙粉を丁寧に取り除いて下さい。

封緘機構の清掃

封緘機構に付着した糊が原因でエラーが発生することがあります。

封入25,000回ごとに、または必要に応じてそれ以前にクリーニングしてください。



封緘機構に残った糊を水で落とします。ペーパーパス(A)を清掃してください。シーリングフラップ(B)を持ち上げて、両面を清掃します。プレート(C)を清掃します。

封緘システムの清掃

管理者メニューから手動でクリーニングプログラムを開始することができます。以下の手順で行ってください。



- 1 供給用のボトルに封かん水を充填します。
- 2 メインスクリーンで、まず[管理] ボタンを、次に[封緘機構の清掃] ボタンを押します。

注

清掃プログラムを実行する前に、排水ボトルが満杯でないことを確認してください。清掃により最大20cl (7fl oz) の封緘水が排出されます。

[はい] ボタンを押して、封緘機構の清掃を行うことを確定します。

- 3 清掃プロセスが完了する(メッセージが消える)までお待ちください。
- 4 排水ボトルを取り外し、空にします。

封緘機構からの排水

封緘機構からの排水は、本機を移動する前や、水フィルターを交換する場合に実行する必要があります。



- 1 メインスクリーンで、まず[管理] ボタンを、次に[封緘機構からの排水] ボタンを押します。
- 2 封緘機構からの排水をするには [Yes] ボタンを押します。
- 3 清掃プロセスが完了する(メッセージが消える)までお待ちください。
- 4 排水ボトルを取り外し、空にします。

水フィルターの取り外し・交換

水フィルターが汚れていると、封緘機構の水トレイが汚れたり、詰まったりすることがあります。

4,000,000枚ごとに、または必要に応じてそれ以前に交換してください。



1 封緘機構の排水を行います(封緘機構からの排水を参照してください)。

2 ベルトスタッカーが装備されている場合は、まずそれを横に移動させます。



3 封緘機構の左右にある蝶ネジを外し、モジュールカバーを持ち上げて外します。



サムスクリュー



- 4** フィルターのネジを緩めて、フィルターを取り外します。

メールフィーダー

点検箇所	手順	理由	頻度
フィードローラー	8 一般情報 の手順で、フィードローラーを清掃してください。	ローラーが汚れていると、紙詰まりの原因になります。	封入50,000回ごと
セパレーターパッド	セパレーターパッドの清掃は、 8 一般情報 の手順で行ってください。	セパレーターパッドが汚れていると、二重送りになることがあります。	封入50,000回ごと
垂直用紙搬送ベルト	8 一般情報 の搬送ベルトのクリーニング手順。	搬送ベルトが汚れていると、紙詰まりの原因になったり、印刷物の色が用紙に残ってしまうことがあります。	封入100,000回ごと

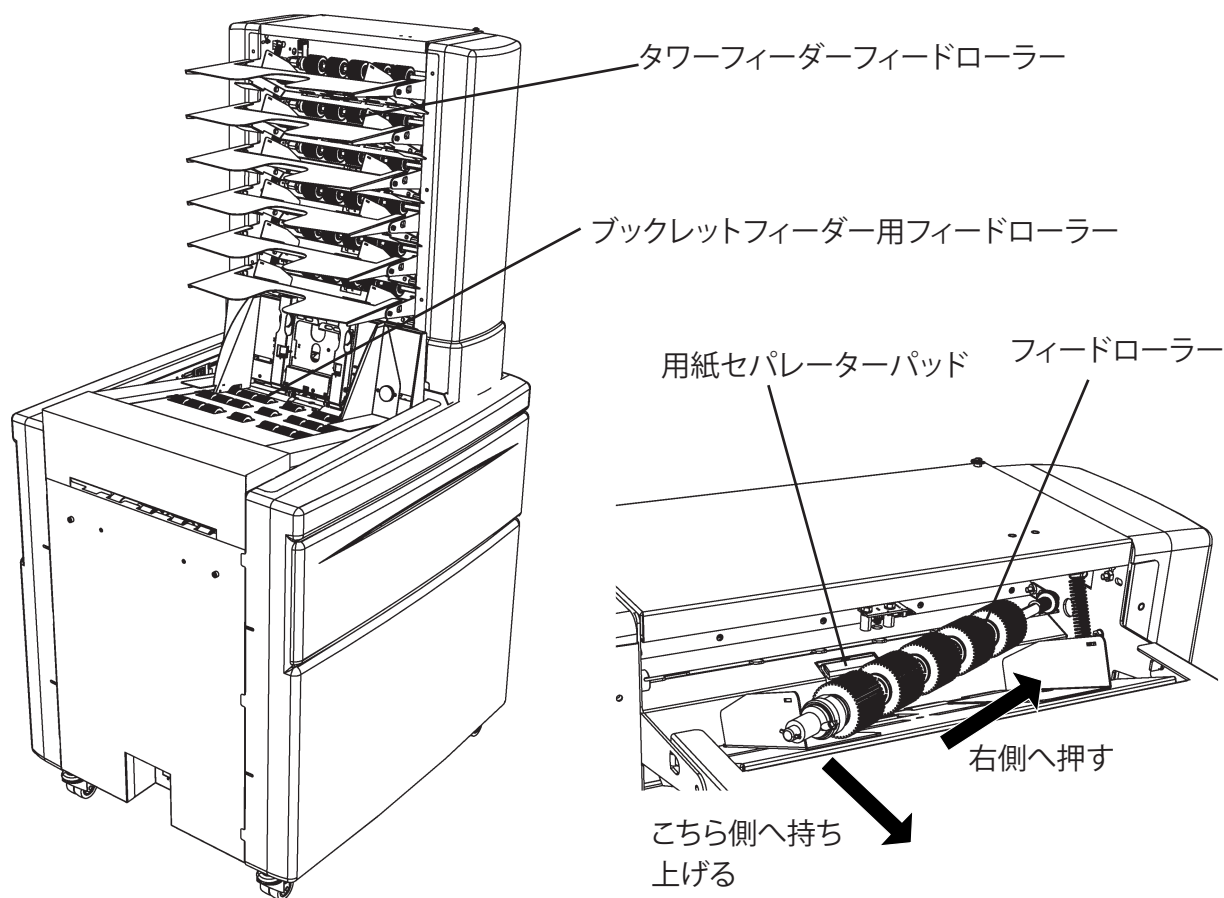
注

メンテナンス機能を実行する頻度は環境、用紙の種類、印刷品質などによって異なります。必要がある場合は、上記に記載した内容より頻繁に清掃を実行してください。

フィードローラーのクリーニング

ローラーが汚れていると、紙詰まりの原因になります。

50,000枚ごとに、または必要に応じてそれ以前にクリーニングしてください。



タワーフィーダーローラーアセンブリのシャフトを右側に押しながら取り外します。これでフィードローラーアセンブリの左端が解放され、アセンブリを取り外すことができるようになります。

注

フィーダーローラーアセンブリの取り外しを容易にするために、まずフィーダーエクステンションプレートを取り外します。

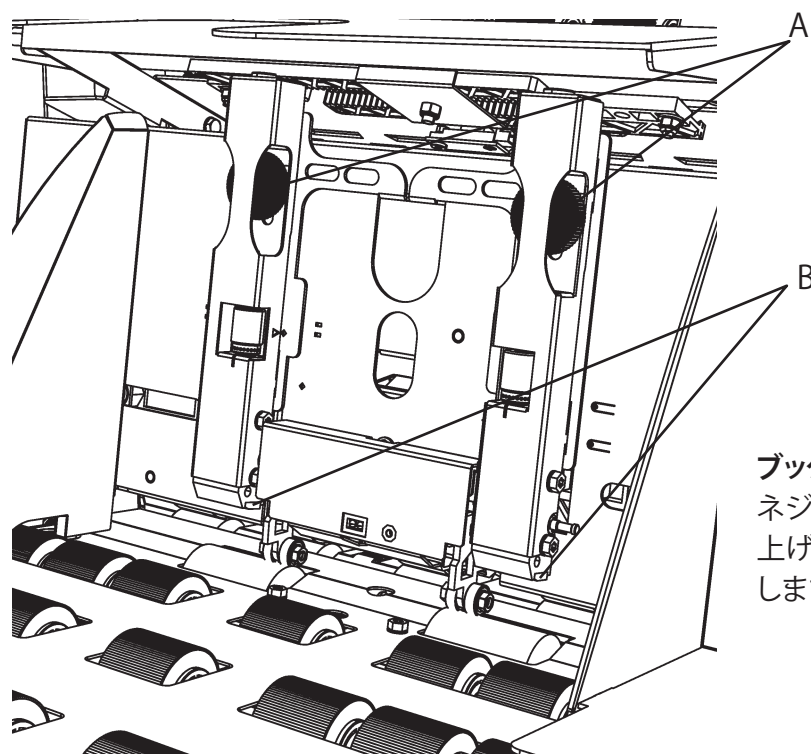
タワーフィーダーとブックレットフィーダー両方のフィードローラーを清掃してください。

フィードローラー・アセンブリを取り外した状態で、次ページの説明に従って用紙セパレーターパッドを清掃してください。

セパレーターパッドの清掃

セパレーターパッドが汚れていると、二重送りの原因になります。

50,000枚ごとに、または必要に応じてそれ以前にクリーニングしてください。

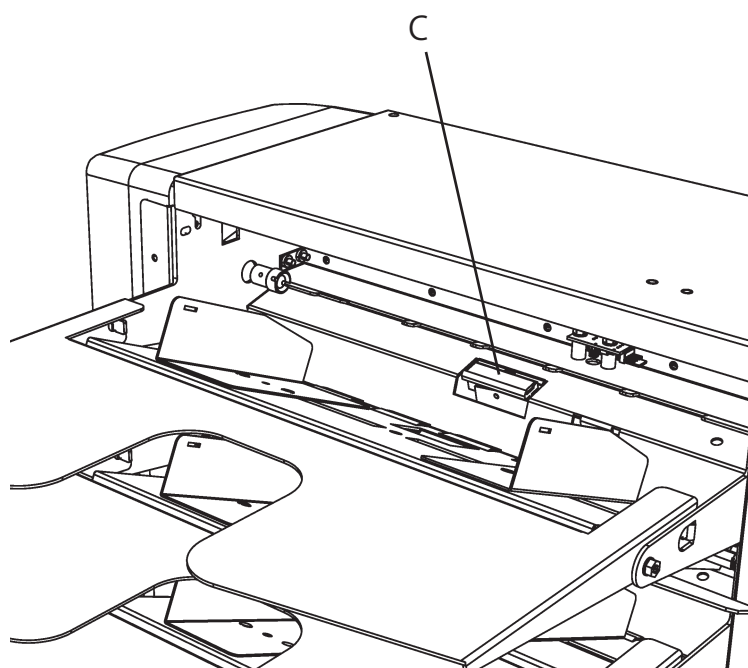


ブックレットフィーダー

ネジ(A)を緩め、セパレーターを持ち上げます。セパレーターパッド(B)を清掃します。

タワーフィーダー

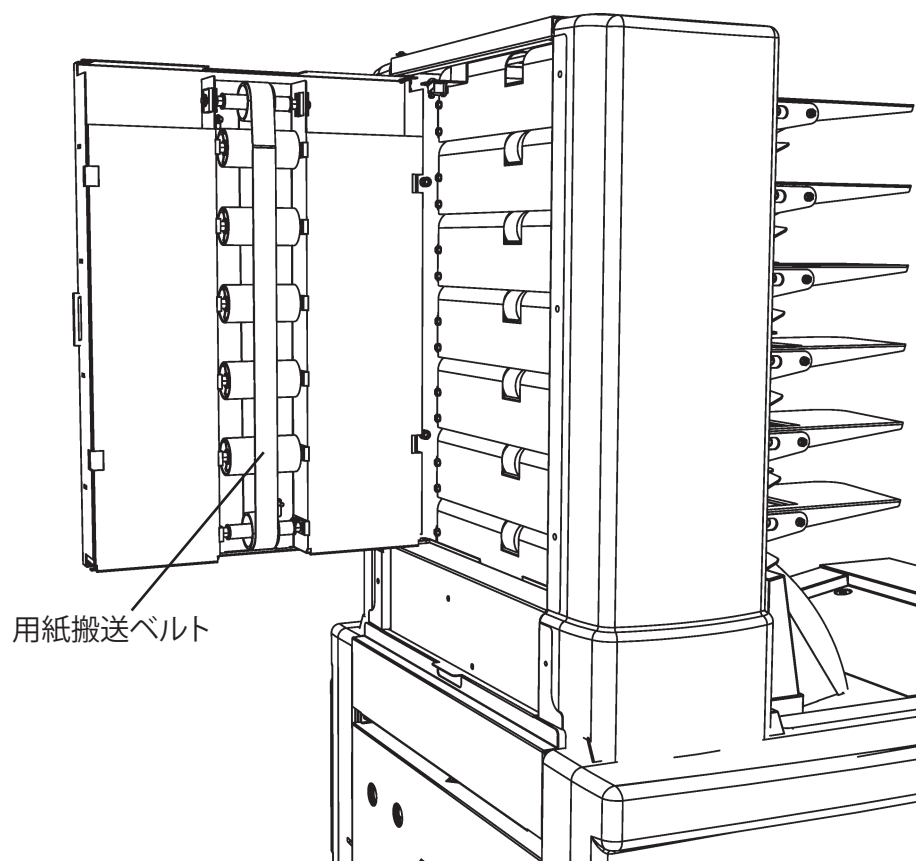
前ページの説明に従って、フィードローラーアセンブリを取り外します。セパレーターパッド(C)を清掃します。



搬送ベルトの清掃

搬送ベルトが汚れていると、紙詰まりの原因になったり、印刷物の色が用紙に残ってしまうことがあります。

100,000枚ごとに、または必要に応じてそれ以前に早めに清掃してください。



タワーフィーダドアを開け、用紙搬送ベルトを清掃してください。

フォルダー

点検箇所	手順	理由	頻度
全ての装置 用紙経路など	以下の注意事項に従って、用紙経路を清掃してください。	紙粉による紙経路の汚れは、紙詰まりの原因となることがあります。	封入100,000回ごと
折りローラー	8 一般情報 の手順に従って折りローラーを清掃してください。	ローラーが汚れていると、紙詰まりの原因になります。	封入50,000回ごと
用紙搬送ベルト	8 一般情報 の手順に従って用紙搬送ベルトを清掃してください。	搬送ベルトが汚れていると、紙詰まりの原因になったり、印刷物の色が用紙に残ってしまうことがあります。	封入100,000回ごと

注

メンテナンス機能を実行する頻度は環境、用紙の種類、印刷品質などによって異なります。必要に応じて、上記以上の頻度で清掃してください。

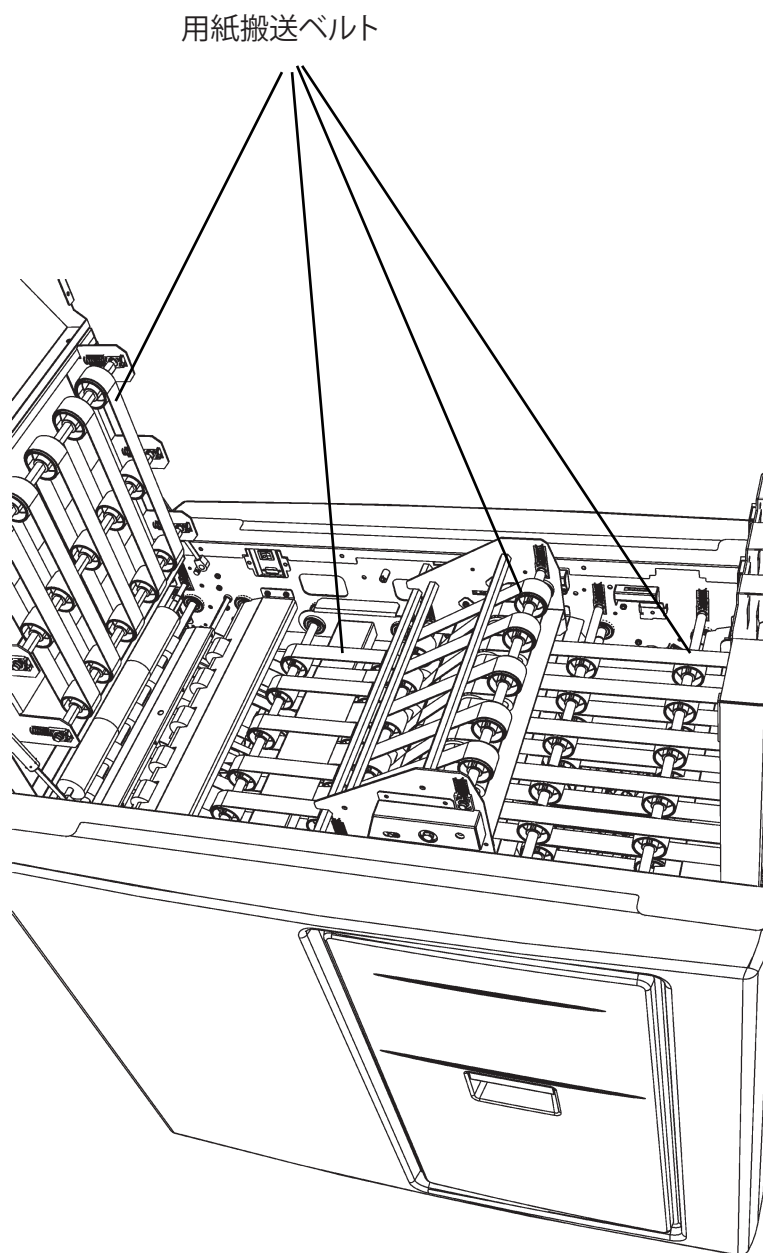
注

本機および用紙経路の清掃には、吸引式クリーナーやタオル、ブラシを使用してください。

用紙搬送ベルトの清掃

搬送ベルトが汚れていると、紙詰まりの原因になったり、印刷物の色が用紙に残ってしまうことがあります。

封入100,000回ごとに、または必要に応じてそれ以前に早めに清掃してください。

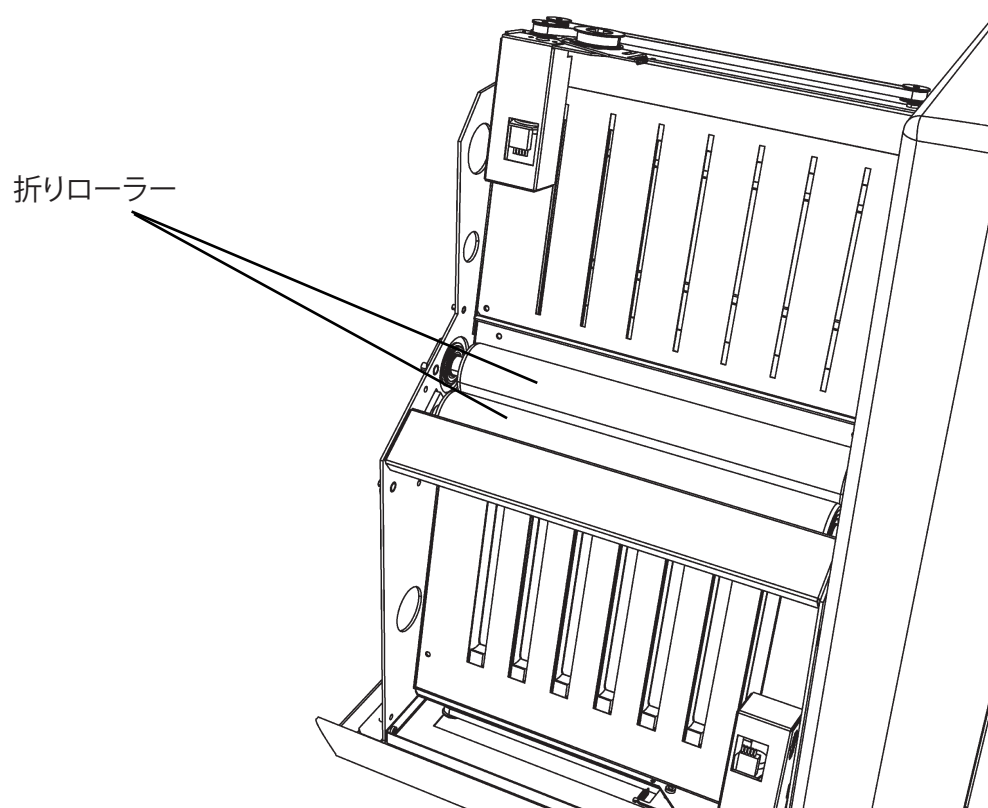


トップカバーと排出トレイを持ち上げて、搬送ベルトを清掃します。

折りローラーの清掃

折りローラーが汚れていると、紙詰まりの原因になります。

封入50,000回ごとに、または必要に応じてそれ以前にクリーニングしてください。



フォルダーの折りローラーを清掃してください。

9.仕様

機械仕様

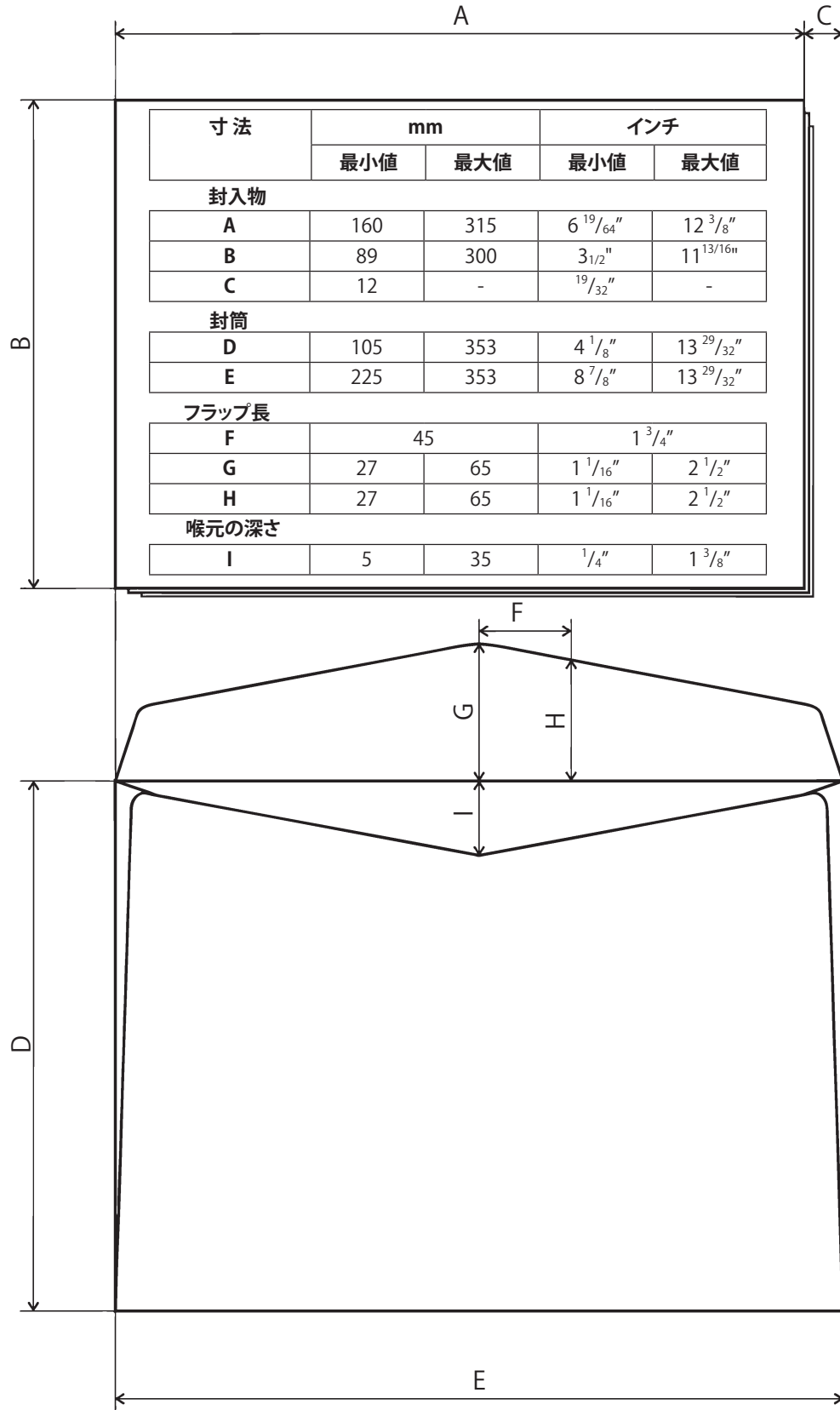
インサーター

速度	最大4000枚/時(「 速度のガイドライン 」参照)。	
封入物の容量	最大12 mm (1/2インチ) (「 封入物の容量 」の項を参照)。	
封筒の種類*	アラビア糊付き封筒、または縦型封筒(窓あり/窓なし)	
封筒サイズ(縦×横)*	最小:	105 x 225 mm (4.33" x 8.8")
	最大:	353 x 353 mm (13.9" x 13.9")
封筒の重量*	最小:	75 gsm (20 lb Bond)
	最大:	110 gsm (28 lb Bond)
封入物のサイズ (高さ×幅)*	最小:	89 x 160 mm (3.5" x 6.3")
	最大:	300 x 315 mm (11.8" x 12.4")
用紙重量	最小:	60 gsm (40 lb Book)
	最大:	200 gsm (125 lb TAG)
カウンター機能	あり	トータルカウンター、リセット可能カウンター、プリセットカウンター。
ジャム検知機能	あり	<ul style="list-style-type: none">封筒ミスフィード検知フラップオープナー検知封筒開封検知封入検知封緘検知
スタッカー満杯検出	はい	
寸法	高さ	1050mm (41.3インチ)
	長さ	1200mm (47.2インチ)
	奥行き	750mm (29.5インチ)
重量	141 kg	
電圧	AC100-240 V±10%、50-60 Hz	
入力電流	1.5-3.2 A	
動作音 LpA** (オペレーター位置)	待機時	41 dB (A)
	動作時	73 dB (A)
消費電力	300 W	
発熱量	300ジュール/秒 0.28 BTU/s	
保護クラス	IP X0	
安全クラス	クラスI	

* 封筒の詳細仕様参照

** 完全なシステムによるテスト結果

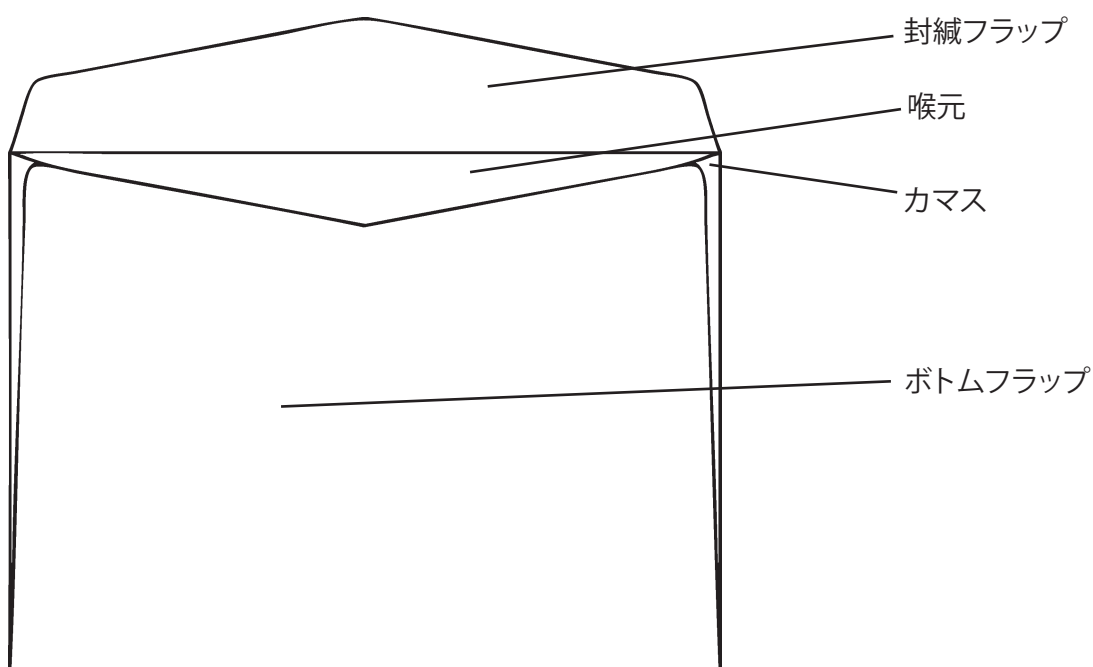
封筒の詳細仕様



封筒の詳細仕様、続き

測定値C、G、H、Iの中にはいくらか許容範囲があります。封筒の種類が仕様外の場合、その封筒を使用して機械が正しく動くかどうか確認する必要があります。

「A最小値」よりも小さい封入物は、「A最小値」よりも大きい封入物の間に配置されることを条件として使用できる場合があります。



封緘フラップ

窓のない封筒の場合、封緘フラップの形状はそれほど重要ではありません。一般に、山型フラップのほうが適しています。フラップが直線状の場合は、角が丸くなっているものが最適です。

フラップのサイズは寸法G以下、寸法H以上の必要があります。寸法Gは装置のセンサーによって測定されます。寸法Hは、封入中にフラップを押えるローラーの位置によって決定されます。これらのローラー間の距離は $2 \times F$ です(各側のFを中央から測定)。

封緘方法

アラビア糊つき封筒での封緘をご利用いただけます粘着性接着剤に貼られた裏紙をはがして接着するタイプも、封入に限り使用できる場合があります。封緘はできません。その場合は、装置を封緘なしのモードにする必要があります。このような種類の封筒にはさまざまな形状があります。裏紙をはがすタイプの封筒の中で、特定のタイプが使用可能であることを確認するには、事前にテストする必要があります。

上記以外の方法(自己接着ラテックスなど)は使用できません。

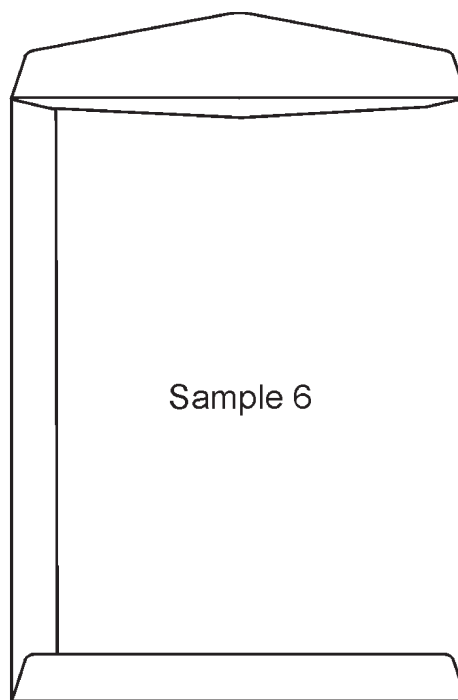
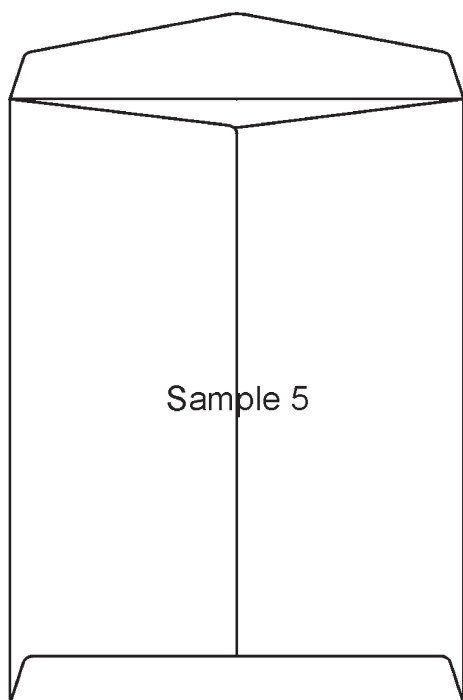
封筒の詳細仕様、続き

封筒の紙質

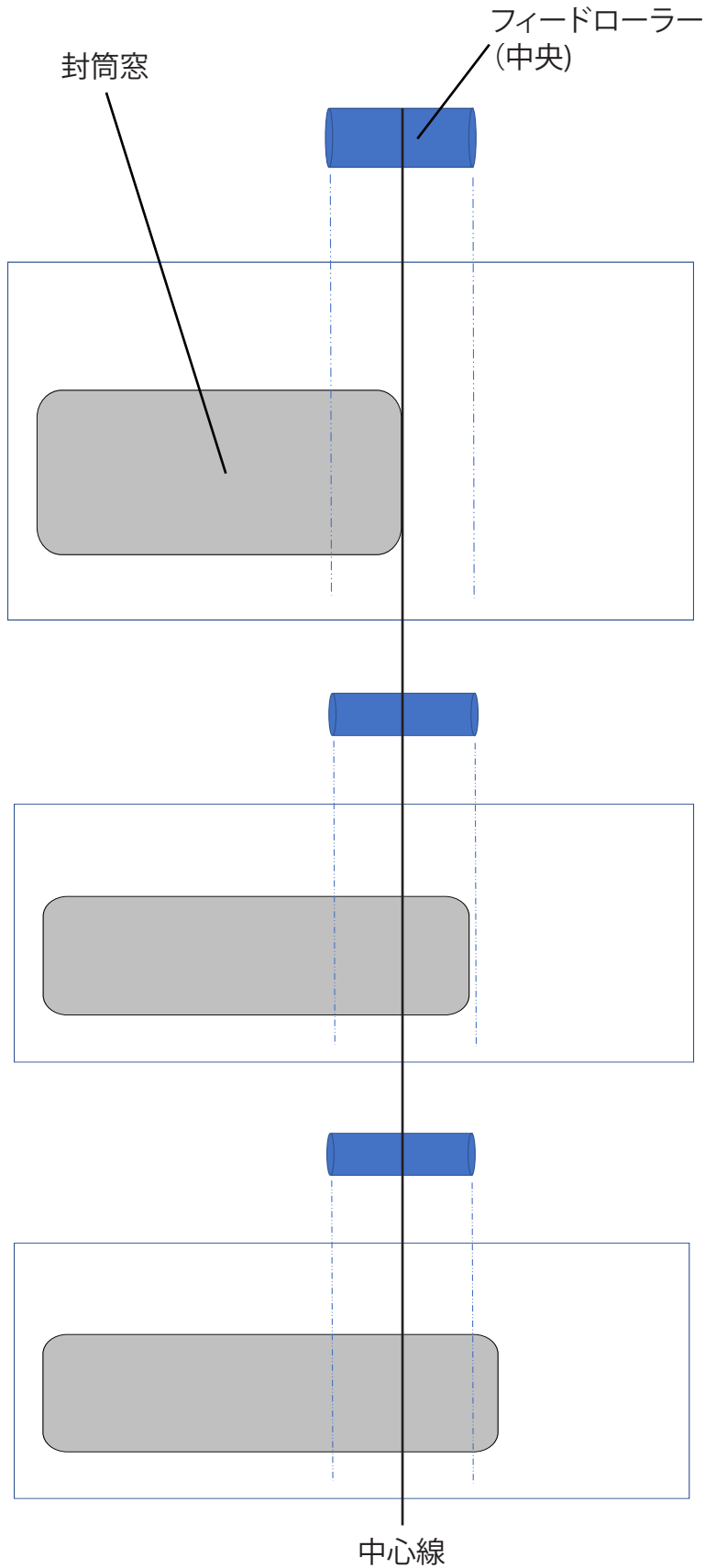
封筒の紙質は重要です。封筒が柔らかすぎると、装置内でジャムが発生したり、しわが寄ったりします。75～110 gsm の標準的な封筒の使用をお勧めします。用紙重量が同じでも素材によって固さが異なるため、用紙重量を指定することは困難です。また、湿気によって紙は柔らかくなります。

貼り合わせの種類

「縦型／カタログ用」和封筒では、中央に貼り合わせ部がある封筒をお勧めします (Sample 5)。寸法 I が仕様内であることを確認してください。



封筒の詳細仕様、続き



フィードローラーは、フィーダーの中心線に配置されています。大型窓付きの封筒の場合、窓が中心線にかかる場合がよくあります。この場合、封筒窓にローラーが直接あたるようにフィードされます。フィードローラーが窓に触れることで、窓部分がたわむケースがあります。その結果、フィードにより封筒の窓部分にしわがでます。

窓の脇の紙の部分と中心のローラーの接触部分が少なくとも6 mm以上あることが推奨されます。

遅延時間の設定でわずかな値 (~ 3 ms) を追加することでしわの発生を抑制できる場合があります。

封筒フィード時に中心のフィードローラー全体が窓に接するような封筒は推奨しません。

封筒の詳細仕様、続き

カマス貼り封筒

1. 封筒の寸法誤差の許容範囲は、±1/16" (1.6 mm)以内です。
2. カマスはしっかりと接着され、カールや波打ち等がないものを使用してください。
3. カマスの上端から1/16" (+1/16")、(1.6 mm +/- 1.6 mm) 以内、内端から1/4" (6.4 mm) 以内、外端から1/8" (3.2 mm) 以内に接着ラインがあり、しっかりと糊付けされている封筒を使用してください。
4. 窓パッチは、平らで、波打つことなく、窓パッチ材(グラシン紙、フィルム等)の上端は端から1/16インチ (1.6 mm) 以内に接着されている必要があります。窓パッチの面積が封筒の前面パネルの総面積の1/3以上である場合、その封筒はテストが必要です。
5. 窓パッチが封筒の端から1インチ (25 mm) 以内にある場合は、次の条件を満たすようにしてください。

パッチの上部が折り目ラインから3/8インチ (9.6 mm) 以内にある場合は、パッチ材を折り目ラインから1/16インチ (3.1 mm) 以内またはそれ近くまで上げなければなりません。

また、喉元は、サイドエッジから3/4" (19 mm) の位置で、折り目線より少なくとも1/4" (6.4 mm) 低い位置になければなりません。これは、スロートオープナーでパッチが破れるのを防ぐために必要です。
6. 封筒を平らな面に置いたとき、封筒のカールやねじれが6.4 mmを超えるものは使用しないでください。
7. 用紙の厚さの仕様は20ポンド(75g/m²)から28ポンド(110g/m²)ですが、24 lbs.(90g/m²)を推奨します。
8. カマスの上端は、バックパネルの上端と同じか、1/16" (1.6 mm) 上までであること。
9. 長さが最小の封筒のフラップの長さは、最大2-1/2" (64 mm) です。
10. 封入物の長さは、カマスのエッジ間の距離と同じであってはなりません。可能であれば、正しいエンドクリアランスを維持することを考慮して、封入物の長さをこの寸法より大きくする必要があります。
11. このガイドラインから外れた特性を持つ封筒はテストして評価する必要があります。
12. のりしろから封筒の端までの距離は、1/8インチ (3.2 mm) 以下にしてください。

和封筒または洋封筒

通常、インサーターには洋封筒が最適です。9 x 12"(C4)サイズの封筒に8½ x 11"(A4)サイズの封入物の組み合わせをお勧めします。より厚さのある封入物(12 mm までに限る)を使用する場合は、封筒を大きくしてください。

洋封筒を使用する場合に、封入物が折り済みの 8.5 × 11" の用紙(または折りなしの 5.5 × 8.5" の用紙)の場合は、寸法Cの余裕が必要なため幅が 9.25"以上の封筒を使用します。

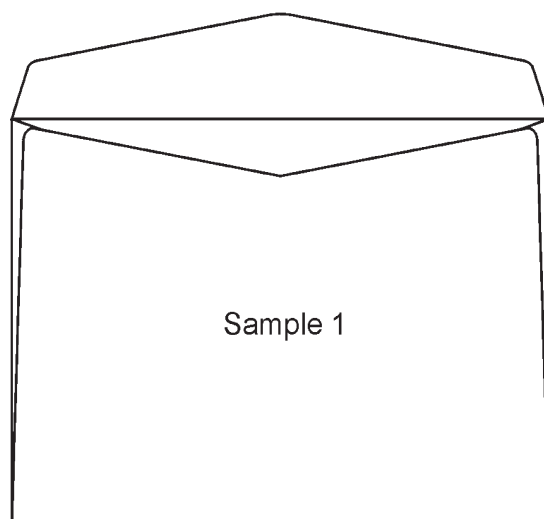
和封筒を仕様する場合、8.5 × 11の封入物には、9 × 12封筒はC寸法が仕様上、ギリギリとなるため推奨できません。大きめの封筒を使用してください。

封筒の詳細仕様、続き

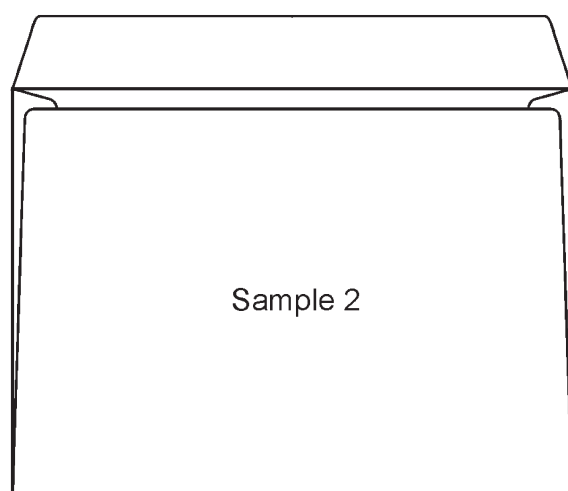
ダイヤ貼り封筒

1. 封筒の寸法は、+1/16"(1.6 mm)以上の誤差がないようにしてください。
2. すべてのサイドフラップは、ボトムフラップとサイドシームの間にカールや波打ちがなく、ボトムフラップにしっかりと接着されている必要があります。
3. 最小長封筒の最大奥行きフラップは2-1/4"(57 mm)です。
4. すべてのウィンドウパッチは、平らで、波打つことなく、パッチ材の上端と窓の上端および下端から1.6 mm以内に接着されている必要があります。窓パッチの面積が封筒の前面パネルの総面積の1/3以上である場合、その封筒はテストが必要です。
5. 窓パッチが封筒の端から1インチ (25 mm) 以内にある場合は、次の条件を満たすようにしてください。
 - パッチ生地の上部が折り目ラインから3/8インチ (9.6 mm) 以内にある場合、パッチ生地は折り目のラインから1/16インチ (3.1 mm) 以内まで上げなければなりません。
 - また、喉元は、サイドエッジから3/4 "の位置で折り目線より最大1/4" (6.4 mm) 下でなければなりません。
6. 封筒のカールやねじれは、平らな面に置いたときに1/4インチ (6.4 mm) を超えないようにしてください。
7. 用紙の厚さの仕様は20ポンド(75g/m²)から28ポンド(110g/m²)ですが、24 lbs.(90g/m²)を推奨しています。
8. このガイドラインから外れた特性を持つ封筒はテストして評価する必要があります。

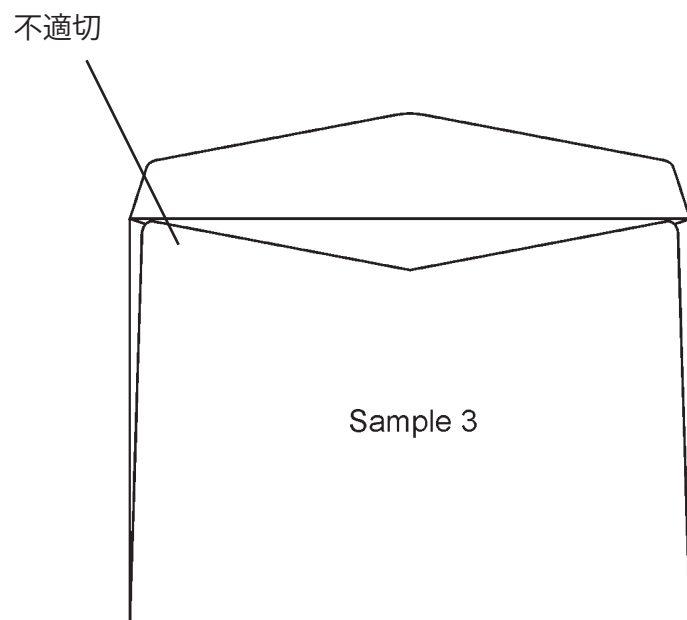
ボトムフラップからカマスまで



ボトムフラップの左右の上端は、カマスの上端と一直線上になるようにします(サンプル1参照)。



ボトムフラップの左右の上端が、カマスの上端より少し低い位置でも問題ありません(サンプル2参照)。その場合、寸法Iが最大値を超えないこと、さらに、封入物の両端が両側のカマスに達することが重要です。また、ボトムフラップがカマスのどの位置まで接着されているかも重要です。できるだけ上部まで糊付けされている必要があります。上部まで完全に糊付けされていない場合は、サンプル4よりもサンプル2のタイプの方が適切です。



ただし、ボトムフラップの左右の角は、カマスの上端より高くないようにします(サンプル3参照)。

速度のガイドライン

詳細	封入数 / 時間	基準
高速 (封入物厚 < 1 mm)	4 000	DL/#10
	3 700	C5/ 6x9
	3 400	C4 横
	2 000	C4 縦
中速 (封入物厚 1 mm ~ 3 mm)	2 800	DL/#10
	2 700	C5/6x9
	2 400	C4 横
	2 000	C4 縦
低速 (封入物厚 > 3 mm)	2 000	DL/#10
	1 900	C5/6x9
	1 700	C4 横
	1 200	C4 縦

注速度のガイドラインは、封入物が 1 枚の場合で算出されています。

自動速度モード

送り込む順序、封筒のサイズ、封入物の厚さに応じて速度が自動的に調整されます。
自動速度モードが選択されている場合、スピードインジケータ部分に「自動」の文字が表示されます。

実際の処理量

1日の処理量は1万枚から2万枚程度を想定しており、推奨最大処理量は月間50万通です。
これは通常の作業シフトに基づいた概算であり、システム構成、アプリケーション、使用するマテリアルの品質によって異なります。
連続運転が可能です。

カウンター

本システムは、ディスプレイにトータルカウンターを搭載しています。トータルカウンターデータはEEPROMに保存され、必要に応じて新しい基板に移動可能です。

ディスプレイには、リセット可能カウンターおよびプリセットカウンターも表示され、封入処理量があらかじめ設定した量になると、インサーターを停止することもできます。

封入物の容量

封入物の厚さに対応するために、常に封筒に十分なクリアランスがあることを確認してください。
クリアランスは以下の式で計算してください。

クリアランス = 12 mm (0.50インチ) (寸法C) + (封入物の厚さ - 5 mm (0.2インチ))

封入物の厚さ5 mm (0.2インチ) は、デフォルトで寸法C (12 mm (0.50インチ)) に含まれます。

注: クリアランスは、12 mm (0.50インチ) 以上必要です。

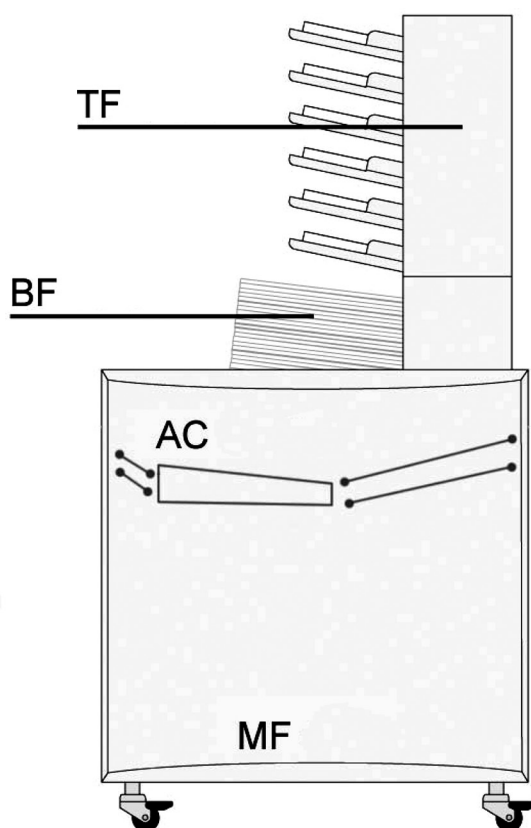
封筒によっては、本機での処理が難しいものもあります。その場合は、より大きめの封筒を使用してください。厚さは、封入物を押し付けたりせずにインフィードデッキに自然に置いた状態で、最も高い部分を計測した値です。

メールフィーダー

メールフィーダーには、以下のモジュールのうち少なくとも1つが搭載されています。

- タワーフィーダー
- ブックレットフィーダー
- アクキュムレーター

リンクモード(カスケード)では、すべてのトレイおよびブックレットフィーダーに稼働中に積載可能です。送り込み順序はインサーターのタッチパネルディスプレイで設定します。



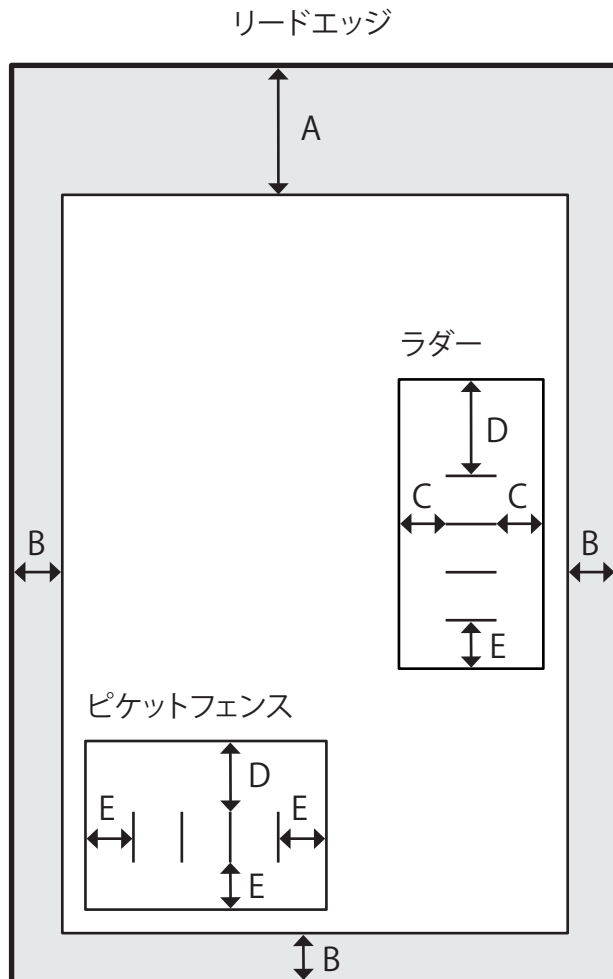
外形寸法 (高さ×幅×奥行)	885 x 810 x 715 mm (35" x 32" x 28")
重量	76 kg (167 lb)
外形寸法* (高さ×幅×奥行き)	1550 x 810 x 715 mm (61" x 32" x 28")
重量*	140 kg (308 lb)
電圧	100-240 V ac ± 10 %, 50-60 Hz
入力電流	1.5-3 A
動作音	インサーターの仕様参照
消費電力	300 W
発熱量	300 ジュール / 秒 0.28 BTU/s

* データはフル装備機 (タワーフィーダー、ブックレットフィーダー、アクキュムレーター) です。

OMR/BCRリーダー

スキャナ

OMR読取領域とOMRマークの仕様



読み取り位置

制限 (読み取り不可領域)

A	65 mm (2.56インチ)
B	5 mm (0.2インチ)

クリアランス

C	10 mm (0.4インチ)
E	15 mm (0.6インチ)
D	20 mm (0.8インチ)

マークの仕様

マークの太さ

最小	0,1 mm (0.004")
最大	2 mm (0.08インチ)

マークの幅

最小	6 mm (0.24インチ)、ラダー 12 mm (0.5インチ)、ピケットフェンス
最大	規定なし

マーク間の距離

最小	1 mm (0.04インチ)
最大	15 mm (0.6)

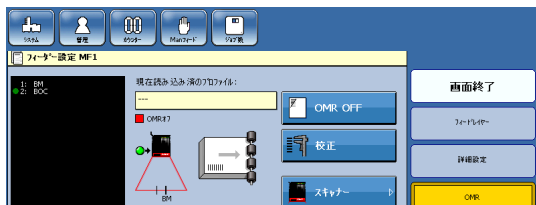
コードの長さ

最小	規定なし
最大	125 mm (4.9インチ)

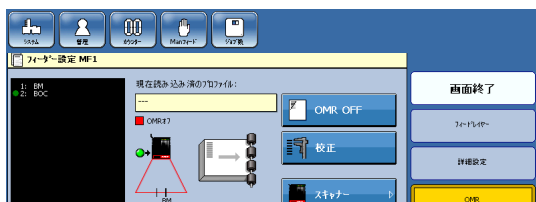
マーク数

最小	規定なし
最大	32

マークは黒、背景部分は白色とする



ラダー

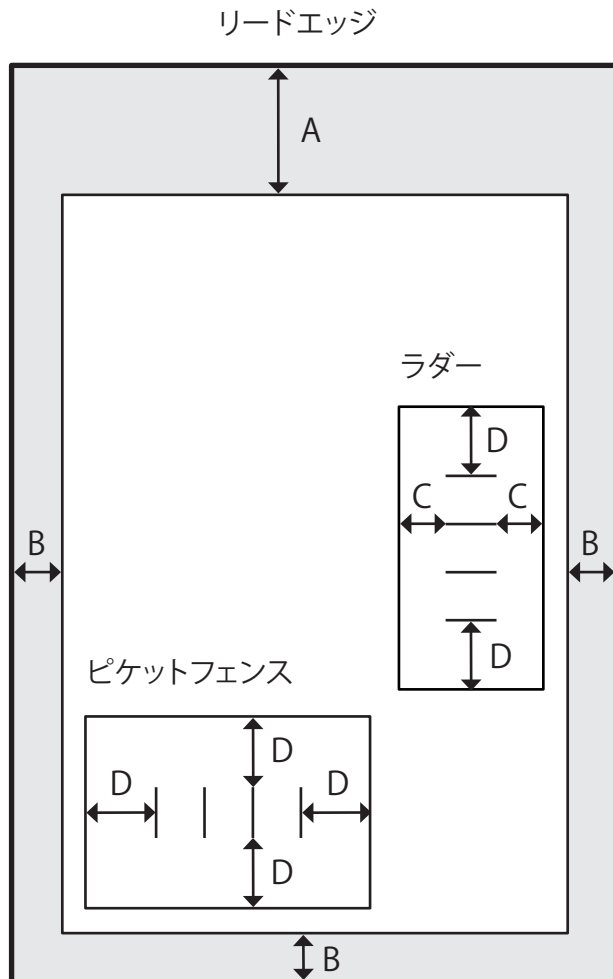


ピケットフェンス

OMR/BCRリーダー、続き

スキャナ

バーコードの読み取り領域とバーコードマークの仕様。



読み取り位置

制限（読み取り不可領域）

A	65 mm (2.56")
B	5 mm (0.2")

クリアランス

C	5 mm (0.2")
D	15 mm (0.6")

バーコード仕様

バーコードの幅

最小	6 mm (0.24")、ラダー 12 mm (0.5")、ピケットフェンス
最大	規定なし

バーコードの長さ

最小	規定なし
最大	125 mm (4.9")



ラダー



ピケットフェンス

文字数

	Code 39	ITF	Code 128
最小	規定なし		
最大	12	18	10

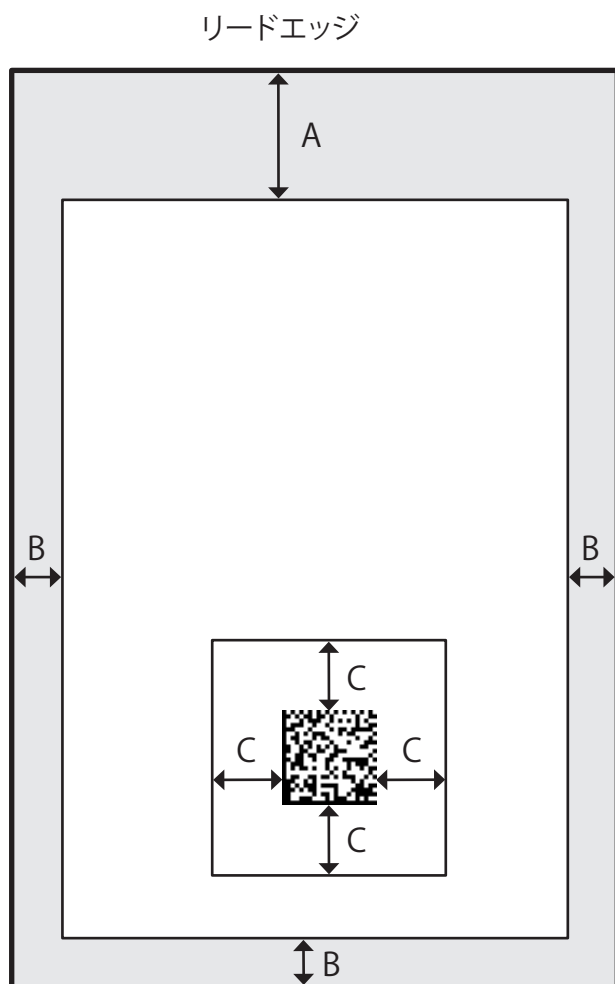
密度

10 mil (凡そ0.254 mm)、(0.01")

バーコードは黒色で、背景部分は白色であること

カメラ

1D・2Dバーコードの読み取り領域と1D・2Dバーコードの仕様。



読み取り位置

制限（読み取り不可領域）

A	65 mm (2.56")
B	5 mm (0.2")

クリアランス

C	10 mm (0.4")
---	--------------

バーコード仕様

バーコードの幅

最小	規定なし
最大	50 mm (2")

バーコードの長さ

最小	規定なし
最大	50 mm (2")

文字数

	Code 39	ITF	Code 128
最小	規定なし		
最大	12	18	10

	DataMatrix	PDF417
最小	規定なし	
最大	24	24

密度

10 mil (凡そ0.254 mm)、(0.01")

バーコードは黒色で、背景部分は白色であること

タワーフィーダー

タワーフィーダーは、メールフィーダーユニットを構成する3つのモジュールのうちの1つです。6つのフィーダーで、コレクターとしてもフィーダーとしてもセットアップが可能です。それぞれのフィーダーが異なるサイズの封入物を供給し、同じ封筒に封入することができます。タワーフィーダーをフィーダーとして設定すると、複数のフィーダーを組み合わせて、稼働中にフィーダーに用紙を補充することが可能になります。

例

丁合い – コレクターとして設定すると、各フィーダーから1枚の用紙が送られます。

フィーダー – フィーダーとして設定すると、10レイヤーに分割した最大60枚の用紙を送ることができます。

リンクフィーダー（カスケード）給紙 – 同じ用紙を複数のフィーダーに積載すると、稼働中にフィーダーに用紙を補充することができます。

フィーダー数	6 (標準フィーダー)	
最大積載量/フィーダー	標準フィーダー28 mm (1.1") オプションの大容量フィーダー70 mm (2.8")*	
最小用紙サイズ (縦×横)	89 x 160 mm (3.5" x 6.3")	
最大用紙サイズ (縦×横)	300 x 420 mm (11.8" x 16.5")	
最小用紙重量	折り無し	60 gsm (40 lb Book)
	折り済み	80 gsm* (20 lb Bond)**
最大用紙重量	折り無し	200 gsm (125 lb TAG)
	折り済み	120 gsm* (32 lb Bond)**
OMR/BCR読み取り	あり (オプション)	
フィーダーに積載する折り済みマテリアル	二つ折、C折、返信用封筒	
用紙方向	折り無し	横または縦
	折り済み	折り目の方から
	返信用封筒	フラップを下にして前に向ける
重量	46 kg (101 lb)	

* ハイキャパシティフィーダー（オプション）は最大3個まで搭載可能です。ハイキャパシティフィーダーは1つにつき、標準フィーダー2つ分の場所をとります。

** テストが必要です。

ブックレットフィーダー

ブックレットフィーダーは、メールフィーダーユニットを構成する3つのモジュールのうちの1つです。1枚の用紙から厚さ8 mmの冊子までを送ることが可能です。ブックレットフィーダーは、タワーフィーダーとアキュムレーターから送る用紙の前、後、または間に用紙を送ることができます。

最大積載量	150 mm (5.9")
最小用紙サイズ(縦×横)	89 x 160 mm (3.5" x 6.3")
最大用紙サイズ(縦×横)	300 x 315 mm (11,8" x 12,4")
最小厚み	80 gsm (20 lb Bond)
最大厚み	8 mm (0.31")
折り済みマテリアル	二つ折、C折、返信用封筒
用紙方向	横または縦
重量	11 kg (24 lb)

アキュムレーター

アキュムレーターはメールフィーダーユニットの3つのモジュールの1つで、シートフィーダーやプリンターなどの外部帳票インプットから封入物を受け取り、タワーフィーダーとブックレットフィーダーから送られる封入物とマージして希望の順番で組み合わせることができます。

最小用紙サイズ(縦×横)	89 x 160 mm (3.5" x 6.3")
最大用紙サイズ(縦×横)	300 x 315 mm (11,8" x 12,4")
最小厚み	60 gsm (40 lb Book)
最大厚み	8 mm (0.31")
用紙方向	横または縦
重量	19 kg (41.8 lb)
受入れ部の高さ(床から測定)	751-815 mm (29.5"-32")の間で調整可能
受入れの速度	0.5~2 m/sの間で調整可能(初期値は1 m/s)

マルチファンクションフォルダー

速度	バイパス	最大4000セット/時
	紙折り	最大4000セット/時
用紙サイズ、バイパス (高さ×幅)	最小:	93 x 210 mm (3.7" x 8.3")
	最大:	300 x 300 mm (11.8" x 11.8")
用紙サイズ、紙折り時 (縦×横)	最小:	270 x 210 mm (10.6" x 8.3")
	最大:	300 x 420 mm (11.8" x 16.5")
排紙用紙サイズ、紙折り後 (縦×横)	最小:	89 x 210 mm (3.5" x 8.3")
	最大:	150 x 300 mm (5.9" x 11.8")
用紙サイズ、排出トレイ使用時 (縦×横)	最大:	300 x 300 mm (11.8" x 11.8")
メディア厚、バイパス時	最大:	8 mm (0.3")
用紙重量	最大:	200 gsm (バイパス)
	最大:	120 gsm (折り時)
	最小:	60 gsm (40 lb Book)
最大枚数	Z折り、C折り	6 x 80 gsm (20 lb Bond)
	V折り	8 x 80 gsm (20 lb Bond)
折りタイプ	・Z折り ・C折り ・V折り ・D折り	
折り精度、縦方向	±1mm	
折リスキュー	±0.7 mm	
最大用紙スキュー	±5mm	
最大用紙カール	8 mm (0.3インチ) (半径 > 70 mm (2.7インチ)、平面での測定)	
排出トレイの容量	25 mm	
寸法	高さ	1000 mm (39.4")
	長さ	950 mm (37.4")
	奥行き	710 mm (28")
重量	175 kg (385 lb)	
電圧	100-240 V ac +6 % / -10 %, 50-60 Hz	
入力電流	2.4 - 1.2 A	
動作音 LpA (オペレーター位置)	待機時	48 dB (A)
	動作時	71 dB (A)
消費電力	240 W	
発熱量	240ジュール/秒 0.23 BTU/秒	
保護クラス	IP X0	
安全クラス	クラス1アース付き	

マルチファンクションフォルダー、続き

動作温度範囲	10-32 °C
湿度	20 - 85 % RH
高度2000 mまでテスト済み	

紙折り最大枚数

用紙重量	最大 300 × 300 mm (11.8 × 11.8 インチ)				最大 300 x 420 mm (11.8 x 16.5")
	C	V	Z	D	すべての折りタイプ
60 gsm	8	10	8	8	1
70 gsm	7	9	7	7	1
80 gsm	6	8	6	6	1
90 gsm	5	7	5	5	1
100 gsm	4	6	4	4	1
110 gsm	3	5	3	3	1
120 gsm	2	4	2	2	1
130 gsm	1	3	1	1	1
140 gsm	1	2	1	1	1
150 gsm	1	1	1	1	1
160 gsm	1	1	1	1	1
170 gsm	1	1	1	1	1
180 gsm	1	1	1	1	1
190gsm	1	1	1	1	1
200 gsm	1	1	1	1	1

このページは意図的に空白になっています。